

HISTORIO
DE
ESP. MOVADO
EN
HOKKAJDO

Ila

HOKKAJDA
ESPERANTO-
LIGO

HISTORIO

DE

ESP. MOVADO

EN

HOKKAJDO

I I a

HOKKAJDA
ESPERANTO-
LIGO

第50回北海道エスペラント大会記念出版

北海道エスペラント運動史

第2部 相沢治雄編集

1986. 6 相沢治雄編集
1986. 7 「北海道エスペラント
運動史刊行会」発行

- 2 田上政敏 鹿渡巳松, 中村久雄
 3 当摩幸三 原至介, 北川マユル, 井上照月, 福田仁一, Agnes Alexander,
 波巴隆志, 原田三馬, 5 若原道, 岸浩三, 平田一郎, 近藤善雄
 4 佐藤徳治 原田善雄
 12- 江口音吉 9. 木村喜士治, 藤本五郎
 井上- 高橋五郎 10. 坂下清一, 小田島栄, 岡垣仙一郎, 長谷川守,
 武田威初, 三崎豊市
 14 桑原一, 穴戸晴 11. 吉田栄, 大和左衛門
 15 岡本義雄 13. 奥崎健夫, 大津義雄, 竹吉正広
 16 新田善男
 20 東隆 23. 前田徳泰
 26 志越喜栄 27. (木下三四彦), 28. 脇坂至治
 30. 中島次, 岡崎雲夢 34. 星田淳, 36. 河野友道
 40. 藤岡東太郎, 澤脇喜代男 42. 山賀勇, 井上-, 新田善男, Bondid
 45. 奥五右衛門, 原田三馬(短), 49. 星田淳, 51. 早川昇, 52. 阿部ヨシハル
 岩崎秀雄 - 157, 53. 徳田実, 高橋達治
 58- トリス・ウースタ 59. 西里静彦, 永田明子, 63. 中原信司,
 65. フレッド・ハート, 66. Tiber Schelj 67. 吉原正八郎, 73. 平野長寛,
 74. 北島瞳, 78. G. Pompilio 78. 竹吉正広死去
 115. 浪越春夫死去

EHHAVO

第1部を読まなかった人のために	1 頁
付記 (小樽エスペラント運動の参考)	5 頁
岡本好次氏学会特使として北海道及び東北訪問	11 頁
森原 一氏検挙記録	14 頁
第24回日本エスペラント大会	16 頁
軍国主義の時代	31 頁
太平洋戦争終結	34 頁
北海道エスペラント大会再開	35 頁
マッカサーへの陳情書	37 頁
相沢開東、関西の同志訪問	39 頁
文教に加盟	44 頁
由仁町のエスペラント運動	44 頁
LEONTODO小樽で発行	52 頁
LEONTODO連盟の機関紙となる	57 頁
第50回世界大会の北海道後援会の運動について	75 頁
HEL青年部発足	76 頁
苫小牧西高校生、種別中学生、札幌北高校、滝川中学生の 間でエス運動盛んとなる	77 頁
第55回日本エスペラント大会	84 頁
千歳エスペラント会 (TERO) 誕生	88 頁
千歳市ベルダ・ドームで全道エスペラント祭	92 頁
北海道エスペラントセンター正式スタート	96 頁
北見エスペラント協会誕生	99 頁
札幌市教育委員会主催の成人学校で「エス入門」講座	100 頁

知里幸憲エスペラント訳完成	102	頁
北海道エスペラントセンター終に閉鎖	106	頁
「北海道エスペラント運動史」第1部完成	115	頁
役員の改選について	118	頁
札幌ザメンホフ祭	119	頁
1986年以後の展望	122	頁
「北海道エスペラント運動史」第2部の編纂を終へて	123	頁
北海道エスペラント大会年度表	125	頁
相沢治雄履歴書	128	頁

北海道エスペラント運動史

第2部

相沢治雄編集

第1部を読まなかった人のために。

第1部には次のようなことがかいてある。

北海道に於けるエスペラントの発祥。札幌のエスペラント研究会の結成。大正9年の講習会に186名集合。山本氏のエスペラント世界旅行。山部エスペラント普及会の活動。第1回全道エスペラント大会の山部に於ける活動。第1回北海道エスペラント大会。北海道エスペラント連盟設立経過。赤色分子排斥。ネオロギスモ排斥。道内エスペラント地方機関誌、11種類の解説。渥美氏と農芸園芸家ロシアのミチューリンのこと。

この第2部は第1部の続編であるから、第1部は必ずよんでもらいたい。人名の注釈は第1部では分かる限りつけた。

第2部編纂に当たり字数を制限するため短かくしたところもある。例えば (Leontodo) 又は (LEO N-ro・・) と書いてあってもその全文を掲載したわけではない。1953年山賀先生からLEONTODOに何かかけ、と言われてからぼつぼつと書いてきた。LEONTODOに書いたもの又はその他のものから集めた。第1部は既にあった「エスペラント運動史」に注釈をつけたものであるが、第2部は新しく編集した。見おとしの点も多い事とおもうが、今の所これ以上はできない。

1984年5月ワープロを練習して色々な試行錯誤を繰り返して、何人とかこれまで作りあげた。その間エスペラント文も読まず、文法も研究せず、ただひたすらに第2部の製作に打込んできた。

第1部を編集して印刷が出来上がってから更に校正してみると誤りがあるのに気がついた。それで正誤表を作り既に入手された方々にお送りした。その他人名の注が不足であること、原文通りに書くのに気をつかって姓名を姓しか無い分などは括弧付きでしる

せばよかった、と気がついたことなど、色々ある。

人名の注は日本エスペラント学会図書刊行会発行の「日本エスペラント運動小辞典」を参照した。

第1部を見なかった人の為に人名の注を次に記しておく。

① 三田智大氏 1893~1968 静岡県生まれ。北海道大学卒 札幌師範・函館師・十勝農業・青森県立農業・徳山県立農業などの教諭 '19年長谷川二葉亭の「世界語」を手してE学習、同年北大E研究会を創立。卒業論文にE、中国語の訳文を添付、北海道で最初にE運動を始めた人である。

② 高瀬正栄氏 1886~1968 高知県生まれ。札幌師範卒。北海道庁立公女・藤女子高校の教員。'20年札幌で三田智大氏と共にE講習指導、札幌E研究会設立、札幌で開催された第24回日本大会会頭、'36年から数年間札幌E会会長、戦後も北海道E連盟並びに、札幌のエス運動の草分けをなされた一人である。

③ 田上正敏氏 1900年頃の生まれ。死亡年月日不明。北大地質学部の教授 初期のエスペラントの悪人である。

④ 山本佐三氏 1898 ~1959 滋賀県生まれ。金沢大付属農業専 札幌商業学校教諭、'27年E学習、滋賀県E会創立、'30年シベリア鉄道経由でヨーロッパ旅行、E国際教育大会・第10回SAT大会・第22回世界大会に参加、SAT大会では議長団に。

⑤ 浪越春夫氏 1911 ~1985 札幌生まれ。簡単に紹介してあったが第2部で更に詳述する。

★ 瀧美楠雄氏 1905年頃の生まれ。1976年死去 北海道帝国大学農学部卒。1935年に「農業と園芸」にミチューリンと文通しようとしたことを書く。岐阜大学名誉教授。

⑥ 虎渡乙松氏 1882 ~1926 秋田県生まれ。東京医大眼科選科 '12年函館で虎渡眼科病院を経営。'06年秋田でE学習、JEAへ。'20年代函館エス会会長。'25年第7回世界大会参加、高桑正吾氏と共に函館の運動の中心人物であった。

⑦ 中村久雄氏 1907~健在 北海道帝国大学農学部農芸化学科中退 '29年山部大本

別院祭式講師、エスペラント普及会講師として全道を巡教す。'32年第1回北海道エスペラント大会を開催した功績は大きい。現在岡山県笠岡市。

⑧ 堤 圭介氏 生年不詳。山部のDenaska Esperantisto 小樽のAnta ŭ en会を組織する。

⑨ ヨセフ・マヨール氏 生年不詳 健在。ソルボンヌ大学出身。大本教本部の宣教師として日本にきた。世界的に有名なエスペランティスト。

⑩ 井上照月氏 生年不詳 マヨール氏と一緒に北海道にきた。現住所松江市、現在名酒井董。

⑪ 福田仁一氏 1912 ~1957年 小樽生まれ 書画骨董商の息子、当時北海道のエス運動の中心的人物、'36年札幌で開催した第24回日本大会の名議長、'36年日本大会に当連盟で提案した「Neologismo反対決議案」の主旨説明者、'42年渡満に際し300余冊の蔵書の本連盟に寄贈。

⑫ Agnes. B. Alexander 1875~1971 ハワイの富豪の娘。1914~1938年2回日本に滞在、バハイ教布教に活動、'14年エス語学習バハイ教は大本と提携していた。それでマヨール氏と共に山部の大会に出席したのである。

⑬ 渡部隆志氏 1898年 会津若松市生まれ。'16年札幌一中(現南校)卒、陸軍士官学校に合格せるも病のため入学せず。'17年札幌農大土木工学科入学。卒業後北海道庁土木部、苫小牧工業学校に勤務、'31~'32年アメリカ ワシントン州立大学に入学、'29年学会会員となり独学でEを学ぶ。苫小牧工業学校では毎年講習会を開きHEL設立に努力、'31~'32年にはシアトルを中心にEの講師をずる。シアトル・エス会終身会員、エス語教員免許を受ける。現住所は勇払郡厚真郡廻沼130である。

⑭ 原田三馬氏 1910 ~1952年 徳島生まれ。法大中退。北海道銀行勤務、'30年代帯広エス会の中心人物、'35~'37年東京支店勤務時代JEI評議員、会計事務を担当、戦後釧路エス会を設立

⑮ 当摩憲三氏 1909年生まれ。現在札幌市月寒に健在である。鉄塔書院発行の「ブ

~1978.18

ロレタリア・エスペラント講座」で勉強す。'34年札幌でプロレタリア・エスペラント大会あり、磯崎 巖氏も出席した。それ以来特高と憲兵隊に身辺報告をうける。当時札幌苗穂工場に勤務、終戦後国鉄労働組合の書記長をしていた。

現在「治安維持法犠牲者国家賠償同盟北海道支部」の中心的人物。

⑤ 佐藤徳治氏 1920年前後の生まれ。札幌で'36年前後木村氏との協力で、その奮闘ぶりは目を見張るものがあった。戦後は共産党のシンパとなった。その当時は北海道新聞（今の北海タイムス）におられ組合の書記長をしていた。だいぶ後大会に出席したことがある。その後どうしたか随分消息を調べたがわからなかった。

色々の情報をおよせくださった皆さんに厚くお礼もうしあげます。又第1部刊行に際して、基金をよせられた方々に深く感謝致します。

相沢治雄

付記 (小樽のエスペラント運動)

1985年7月27日横居氏の知人である川崎三郎氏から次のような手紙を受け取った。当時の小樽エスペラント運動の参考になるので此処に掲載することにした。

(前略)

(A) 先づ五十四頁に出ている方々と私のつながりから書きます。

若桑進君とは小樽の靈徳小学校から小樽中学校（現潮陵高）を卒業するまで一緒でした。若桑君が北大を出て銀行勤めをしていた時に、私にエスペラントの話をしてくれました。これが後年私がエスペラントに係りを持つ第一歩でした。

(B) 岸鉄工所の岸浩三、平田一郎の両氏は、共に早大理工科を出られて、尊父の代からの鉄工所を経営し、主として鉱山、船舶関係の機械製作・修理に当たっていました。私は中学同期の岸道三氏（後の日本道路公団総裁）と特に親しかったので、道三氏の実兄・義兄に当たる両氏とも親しくなりました。

(C) ① 近藤養蔵氏は秋田の銘酒「燗邊」（らんまん）醸造元の御子息でアメリカで勉学の後小樽支店長として参られ、お酒が縁で岸さんとは親しくしていましたが、両氏とエス語との結び付きは存じません。

(D) 原田善雄氏は冊子には載っておりませんが、当時北海タイムス新聞の経済記者でエス語の普及に力をつくした人です。八十一才で現存する只一人の友人となりました。

(中略) 私がエスペラントとかかわりを持った次第

動機はザメンホフ博士の主義主張に共鳴して始めたのではなく、トンダくわせ者です。

私が二十四才であったと思うんですが、その時より八十年前にアメリカの探検家二人が、赤い気球に乗って北極探検に出かけ、行方不明になっていたのが、数々の記録と共に発見されました。（アンドレイのPer Balono al la Polusoのこととおもはれる。相沢）その日記を読みたかったのですが、それは英語でなくエスペラント語で発表されたので、「それではエス語を独習しよう」と思いたったのです。

早速小坂桐二・秋田雨雀合著の『模範エスペラント独習』（大正十三年一月一日発行十二版 定価二円）を買って始めたのが大正十三年五月十八日でした。一年余でどうにかものにしましたが、今でもボロボロになって手元にあり、時々見えています。その後昭和三十五年十月十一日に、小野田幸雄著エスペラント四週間で独習しましたが今はすっかり御無沙汰しています。

私のエス語活動

ザメンホフの言葉に『エスペラントは単に吾々各自が夫々おのが便益のために用いる言葉と云う許りでない。それは重大な社会問題であるということをおぼえてならぬ』とありますが前述の様に私のエス語修得は「自分の便益」のため許りであったのです。

赤い気球はどこかへ飛んでいってしまっとうとう読まず終いです。

何時頃どんな動機で始めたか覚えありませんが、岸鉄工所や友人宅を会場に三・四人集り私が先生役で研究会が度々催されました。

あとで、五十五頁にあるように奥沢小学校主催の文化活動の一環としてエス語講習会を催すということで近藤養蔵氏と私が交替で講師をつとめることになりましたが大本教の主婦や学生さんが沢山見えて教室一杯になりました。前述のように私は教わって覚えたのでありませんので、教わるコツが全然つかめません。「教えること」が如何に難しいかをつくづく感じました。前述の原田警雄君がよく動いてくれました。その教室の後方の壁の所に刑事らしい人が、毎日二・三人立っていて、始めから終わりまで監視しているので大変不愉快になりとうとう喧嘩してしまいました。しかし終るまで見張られました。エス語は不穏分子が利用しているのではないかとの懸念してのことでしょうが、ロシア革命が起こり「万国の労働者よ、団結せよ」といったエス語のスローガンを書いたポスターを度々見せられました。警察の心配も無理からぬ事でしょうが、私は左翼運動など興味がありませんので何事もなく終わりました。現在の公明・民社が云っている事位でも当時は『赤』といわれた時代でした。

当時私は祝津村に住んで居ましたが、近所の駐在さんから『私は定年間際なんだから困

らせないでくれ』なんて云われたことがありますから私の身辺も調べられていたかも知れません。その後北岳製缶での仕事が忙しくなりました、エス語活動をやめました。小樽でエス語大会のあった頃です。

八王子市にも毎夏エス語講習会が開かれておりますが一度も顔を出したことがありません。

ザメンホフ博士のお叱りをうけそうです。（後略）

昭和60年7月27日

川崎三郎（八十五才）

① 近藤養蔵氏 米国ミシガン大学出身で、英語はもとよりだがフランス語にも堪能で、当時小樽高商（現、商大）のロシア語教授であったスミルニッキー先生（白系露人）にエス語の学習をすすめて、小樽エス会の例会に招いてはフランス語で会話していた。因にエス語とロシア語の交歓学習と称して、逸見、藤川、江口、福田、高橋その他の面々が毎週1回おしかけてサモワルの湯で紅茶をご馳走になったりした。これは大分長く続いたが、同先生は独身、動物好きで犬は「夜廻り」と呼び猫も飼い小蛇の檻の上に蛙の檻まであったそうである。

（高橋要一氏）

★ 1935年まで

☆ 1935年11月20日各エス会から集めた原稿をまとめて「北海道エスペラント運動小史」は佐藤徳治氏の努力により完成し印刷納本した。12月1日発行とした。

☆ 1936年には札幌で日本エスペラント大会を開かなければならないということは大分前から、話に出ていたことは第1部にも書いた。北海道では初めての大会であるから、そのために札幌の同志達は身命をかけて努力した。

連盟本部は第1回大会の時、札幌に置くことに決定されたが、当分の間事務はエス普及会北海本部に依託ということになり、但し本部事務所は帯広に置くという複雑な形になった。帯広から山部に原稿を送り、北海本部で連盟会報を発行するという手廻りである。

札幌に本部がうつったのは、1934年第3回小樽での全道大会からである。山部の北海本部では計4回連盟会報を発行した。1935年8月3日帯広で第4回全道エスペラント大会が開催されたのでこのため1935年はInformiloの形で帯広エス会で発行していたのである。それで札幌に本部がうつってから、連盟会報、それに24回日本エスペラント大会のため、インフォルミーロ、連盟通信、H.E.L.、Cirkulero、EL NORDO等題号をかえて10数回発行している。それでも暫くの間 La Urso (札幌エスペラント会機関紙)は発行していたが、1937年2月で発行を中止した。

★ 1935年

札幌エス会は日本エスペラント大会準備委員の件につき次のような問い合わせを各連盟幹事に送って確認した。

3月8日

- 1 昨年度北海道大会の決議により大会期成委員をお引受願いたいこと
- 2 この臨時準備委員会を第24回日本エスペラント大会期成委員会と命名する事
- 3 当事者たる札幌エス会より ①木村喜任治、佐藤徳治、②藤本五郎、桜井静香4君を委員に加える事
- 4 相沢を委員長にして差使支へなきか。

小田島氏(函館)を除く全部の人から返事がきた。福田氏(小樽)は賛否を保留した。

当時相沢は連盟の総ての事務を裁量していたが、相沢は市電(今の電気局)の車掌をしていて社会的地位も低かったから、木村氏や佐藤氏が、相沢に準備委員長は鉄道の坂本樞旗氏にたのんだらどうか、と言われたが、相沢は実際に仕事を為る人でなければ駄目だといって、委員長になった。相沢を委員長にすることについては札幌内部(鉄道エス会)でも相当議論があったらしいが、細かい事務的なことを一々鉄道に行って相談しなければならぬのでは仕事にならないと思ったからである。

(La Urso Jaro IIa ~N-ro 4a)

① 木村喜任治 1910年黒松内生まれ。1927年 旧中卒 エスペラントは1932年黒松内で上野隆司氏の講習会エスペラント普及会を受講 1934年札幌市に転居 N.H.K.の職員に就職第3回大会以来全道大会に出席 1936年第11回、第24回大会の準備委員 1978年 H.E.L.会長就任今日にいたる。NHK職員を退職後エロトクロニクス関係の仕事をする。1985年第49回北海道エスペラント大会で心臓病のため委員長辞任。連盟顧問に推薦される。講習会を何回も指導。

② 藤本五郎 大本の信者で山部のエスペラント普及会北海本部の出である。山部では大活躍した人。1935年札幌に転勤され 2月13日札幌エス会に入会された。

6月3日

小樽福田氏より来信あり、原田氏、渡部氏の退道後本道のエス運動とみに振はず、依って連盟本部を小樽に移してはどうかと。(La Urso 4)

6月5日

連盟会報 第5号発行

北海道エスペラント運動史の原稿督促

大会委員名簿発表

準備委員長 相沢治雄(札幌) 委員 中村久雄(山部) 渡辺隆志(苫小牧) 原田三馬(東京) ① 坂下清一(小樽) 福田仁一(小樽) 丹 真一(釧路) 小田島栄(函

館) ③ 岡垣千一郎(室蘭) ④ 長谷川守(旭川) ⑤ 武田威勢(旭川) ⑥ 三崎豊市(札幌) (以上連盟幹事) 外に札幌エス会より

木村喜任治 浪越春夫 佐藤徳治 藤本五郎

① 坂下清一氏 1909~'67 小樽生れ。北大出身。北工電気社長。1928年小坂・秋田共著で独習。最初北大エス会、1938年。まで小樽、大阪、夕張、後札幌に、J E I には1928年から。小樽では秋田物産館がだめになってから豊徳寺の説教所で野原氏のみだ経を用書して研究会を開き、小樽仏教エス会を発展させ福田氏、脇坂氏、逸見氏が指導した小樽仏教エス会を組織。札幌では自宅でHELの講習会、輪読などをしていた'55年より'62年東京移住まで北海道E連盟委員長

② 小田島栄氏 函館の人1910年頃の生まれと思われる。虎渡病院の事務員として勤務し退職後薬店経営。第1回全道大会に出席す。現存 ③ 岡垣千一郎氏 1905年~65年 札幌エス会 後室蘭に移住す。戦後は札幌に戻り鉄道組合の支部委員長となる。④ 長谷川守氏 ⑤ 武田威勢氏 兩人とも旭川の出、武田威勢氏は木津会長の前の会長、左翼的などころがあったと見え(反体制エスペラント運動史)にも名前がでている。⑥ 三崎豊市氏 札幌エス会の指導者

8月3日の帯広の第4回全道エスペラント大会で第24回日本エスペラント大会準備委員会が承認された。(La Urso 4)

9月5日 福田仁一連盟幹事、勇退する意志あり、それを止めよとの岡本好次氏より手紙あり。おおいに驚く。(岡本氏私信)

★ 1936年

4月浪越氏上京するので学会に挨拶方たのむ。8日大会相談会。会務の分担、19日高瀬氏会長の件承諾。(La Urso 9)

学会との手紙の往復も道内の手紙の往復もはげしくなり、委員の会合も多くなった。5月5日木村氏宅で大会相談会、13日相沢宅でエハガキ、スタンプ、ふうかん紙、等につき相談。(La Urso 9)

☆ 道内各地では警察の取締りが段々きつくなってきた。それでも未だ一般のエス語研究者には検挙、家宅搜索等ははなかった。特に目をつけられたものだけであったが、講習会をやると始めたばかりの人の所を警察が訪問するには困った。1935年5月江部乙ではエス・クールソを止めたということを江部乙の同志から聞いた。これも警察が何か干渉したのかもしれない。

☆ 各地との連絡に多忙をきわめた。土産の手配、記念品、これは岡垣氏が手配してくれた。熊の彫刻である。アイヌの知人にたのんで35銭で作ってくれた。絵葉書を発行することになったが6枚1組で鉄道エス会の同志が手配してくれた。版權は鉄道でもっている、版權委譲の問題やその他諸々の手続きを全部やってくれた。二色刷の様に見えるが実際は5色刷りなのである。内容は摩周湖、グランドホテル(大会会場)アイヌの祈り、北大ポプラ並木の夕焼け、富良野岳、奥手稲ユートピア。エス文説明は福田氏が書いた。(相沢)

★ 岡本好次氏学会特使として北海道及び東北訪問

第1回は1923年〔大正12年〕に宣伝旅行隊が北海道に來道された。(第1部6P参照) 7月24日

学会から学会特使として岡本好次氏が7月24日上野駅をたたれ25日青森につかれた。6名ほどの同志に迎えられ、中に鷲西藤太氏もおられ函館まで同伴すると言う。連絡船のなかで10数年前函館で高森氏にエスペラントを学んだと言う山内広氏にであう。

7月25日(第1日) 函館につく。旗を持って3・4人が集まってきた。井上一氏に面会。7時懇親会 田中栄蔵、① 吉田栄、② 大和庄祐、③ 井上一、水野宏、7・8人集まる。① 吉田 栄氏 1906年生まれ。'21年第1銀行に(函館)入行 '61年退職 1923年函館エス会、HEL:日本エス学会、UEA(Delegito)の会員となり今日にいたる。23年函館エス講習会に参加。1940年第12回日本大会(仙台)に参加。提灯行列も見ている。'61年第48回日本エス大会にも参加 65年第50回世界大会(東京)と第60回世界大会(コペンハーゲン)に参加。② 大和庄祐氏 1908~'82 弘前市生れ。

1436
函館商業中退 東京モスリン織工場試験工、組合同盟革命的反対派に属し共産党青年同盟加盟、Maja Rondo に関係、'42.年予防拘禁、'44年北ボルネオに送らる。戦後函館合同組合労組委員長 ③井上一氏 函館の同志、傾向的な人物とみられていた。

7月26日 小樽（第2日）

11時39分小樽着 小樽エス協会の坂下、藤川、① 高橋、山本、江口、本間、福田の諸氏にでむかえられる。北海タイムスの支局と小樽新聞社訪問。小樽エス協会小樽図書館の共催で「小樽エス界の紹介」福田仁一氏「国際語の変遷とエス語の現状」岡本氏。

① 高橋要一氏 1912年小樽市に生まる。1930年 3月北海道庁立小樽商業学校卒、1931年日本エスペラント学会刊エスペラント講座（全 3冊 3ヵ月終了）にて独学。爾後、小樽エス会に所属、小樽エス協会、小樽仏教エス会等の成立に参画、1935年 8月小樽エス会話会を設立、エス会話の習熟に努める。1940年11月札幌市に転住、札幌エスペラント会、北海道エス連盟に所属。第3回北海道エス大会の司会は見事であった。山賀先生委員長辞任後1971年より1974年まで連盟委員長。1985年第49回北海道大会で顧問に推薦される。

7月27日 小樽（第3日）

午後7時から坂下氏宅で懇親会 坂下清一、石栗運藏、高橋要一、藤川哲藏、① 江口音吉、山本茂、福田仁一、本間源吾、以上の8氏。

① 江口音吉氏 1909年10月 6日生れ、1940年 9月北海道庁薬種業商免許合格、1926～1945年7月31日、1941～1942年北満へ応召、1946年12月28日小樽通信診療所勤務、1951年薬店経営現在にいたる。1959～1979年保護司。1964年～1973年小樽市少年補導委員。1968～1978小樽市警察少年補導委員1974小樽民生委員 エス歴 1933年奥沢小学校の初等講習R.O 1950年故藤川哲藏氏の追悼文。北海道薬業新聞に1977年迄ESP に関連した記事、旅行記を34回投稿した。

7月28日 札幌（第4日）

札幌着 駅前に10数人出迎えにでていたのには度胆をぬかれる。

1936
6時半 明治製菓で懇談会盛大であった。此の座談会には21名出席者があった。

相沢氏が ① 真崎博士をお願いした結果同地のロータリークラブで明日の例会でエス語紹介講演（約15分間）することになる。

① 真崎健夫氏 明治26年（1893年）10月20日 熊本県生まれ。昭和53年（1978年）死去（84才）1919年東大医学部卒。1924年新潟医科大学薬理学教授。1934年北海道大学薬理学教授、後医学部長 1957年定年退職、北大名誉教授。新潟医大在任中、生理学横田教授等と共に学生にエスペラントを指導した。札幌にきてからもエスペラントを熱心に研究しておられた。

7月29日 札幌（第5日）

12時20分グランドホテルに行きロータリークラブの会合に出席。出席者32名 午後6時より山下氏宅で第2回懇話会（座談会するとき、よく冗談を言う人で、大会参加者の中に磯崎氏（伊東三郎氏）その他の人達が来ることを知って、熊の置物等贈るからウールサイ人がくるんだ、と放言された。その人達が参加し学会総会が荒れ模様になると予想されたからである。またザメンホフは北海道で生まれたのだ。学会ではアイノ人ザメンホフと言う本をだしているよ、と言はれたこともある。相沢）主として大会関係の件について。高瀬氏も出席された。

☆ 7月30日 旭川（第6日）

木津氏宅では旭川エスペラント会といふ看板が目につく。笹岡旅館で数人と懇談。その後工藤氏も来る。工藤氏は高層気象台のエス文報告に刺激をうけて学習を始めたとの事同氏の熱心さには木津会長も驚嘆してゐる。午後7時から中屋で懇談会を開く。

① 木津義雄、② 竹吉正広、武田威勢、当摩憲三 渡部隆志、等17名

① 木津義雄氏 旭川エス会会長 当時熱心であったが戦後旭川で北海道エス大会を開催したとき何度も電話したが出席されなかった。相沢）

② 竹吉正広氏 ?～1975年 旭川の熱心な同志。「北海道エスペラント運動史」第1部の旭川の部は同氏が書いた。

7月31日 旭川 (第7日)

木津氏宅で第2回懇談会 木津、遠藤、川名、工藤、武田、当摩、竹吉、高宮、渡部
あとでエス演説の見本として自分が旅行の話をするとう高宮嬢が手際よく通訳してくれた。

8月1日 釧路 (第8日)

午後7時から斎藤病院の一室で晚餐を共にしながら懇談。参加者 ① 穴戸武志、②
丹貞一、③ 桑原一等6名

① 穴戸武志氏 元札幌エス会員 ② 丹貞一氏 元市立札幌病院に勤務していた。

元札幌エス会員 1933年～4年頃相沢の宅に来て初歩の講習をうけた。

③ 桑原一氏 1914年北海道中川郡中川町で生る。1931年札幌通信講習所を卒業し
釧路郵便局電信課に赴任。反敵反ファシヨ運動に参加ソ連、中国、スペイン、アメリカ
など数ヶ国と文通。1937年治安維持法違反として(釧路で逮捕され獄中拷問も受けたそ
うである。相沢)釧路刑務所へ投獄、徴役2年執行猶予5年の判決を受け、終戦まで思
想犯保護観察処分に付されて、特高、憲兵の監視下で生活した。'45年日本共産党に入
党。村上由氏とともに北海道労働組合連盟を結成常任委員となる。(相沢もこのとき
執行委員であった。元北海道知事→ 今野 隆の田中敏文氏も執行委員)1955年豊平町会議員に当選。
1963年札幌市会議員に当選。

☆ 桑原一氏 検挙記録

読者応募原稿 日中戦争と天皇制 天皇の軍隊が南京占領の日特高に逮捕され懲
役二年に

札幌市 桑原一 (71)

一九三七年、私はPEK(プロレタリアエスペラント国際通信)の仲間、上海のCh-
ang Fsiaと文通していました。彼はCinio hurias(中国は吼(ほ)える)を送って
くれました。そのご彼はジョホールバルに逃れたとあって、妹さんといっしょに撮った写
真を送ってくれましたが、以後消息が絶えました。

Cinio huriasには横一文字の大見出しでRsnversu Japana imperiismo!!(日本帝国

主義を打倒せよ!!)と書いてあり、天皇の軍隊の中国における残虐行為が写真入りで
生々しく報道されていました。

私はその記事の内容を友人や知人にひそかに伝えたのですが、「皇軍」がそんなこと
をする筈がない、つくり話だといって誰も信じてくれませんでした。私はCinio hurias
に宛てて国際郵便切手一枚(三十五銭)を送りました。

天皇の軍隊が南京を占領し、数十万の無辜(むこ)の中国人民を惨殺していた12月15
日、私は特高警察に逮捕され「天皇の名による」裁判所で懲役二年の判決を受けました
が、その判決文の一部は次の通りです。

「IPE(国際プロレタリアエスペラント同盟)ハコミテルンノ外邦団体トシテPE
K活動ニ依リ世界共産主義社会ノ実現ヲ期スル革命的国際団体。『チニオ・フルラス』
(支那ハ吼ユ)主トシテ抗日反ファシヨ人民戦線運動ヲ強調シ、イボエ影響下ニ在ルモ
ノナルコトヲ知悉シテ『チニオ・フルラス』ヲ閱讀シテ其ノ主張ニ共鳴シ同紙ヲ購読
セントシテ其発行所宛激励文書ト共ニ其ノ紙代三十五銭ヲ提供シテ同紙三部ノ送付ヲ受
ケ其ノ活動ヲ支持援助ス以テ党ノ目的遂行ノ為ニスル行為ヲ為シタルモノナリ」

(宮本正男氏提供) 日中友好新聞 1410号 (86-Apr.5)

8月2日 帯広(第9日)

水光園へ適足。塚田会長 午後7時より懇談会 ① 塚田勝、菅沼寛、長谷川守、沼
田芳蔵、等16名 外新聞記者3名 特高刑事1名

① 塚田勝氏 帯広エス会長

8月3日 帯広(第10日)

午後2時より沼田芳蔵氏同道、北海タイムス支局、十勝新聞社訪問。午後7時塚田会
長の宅にて懇談会 参加者6名

8月4日 志文(第11日)

① 岡本義雄氏宅で雑談 休養をとる。

① 岡本義雄氏 1906年北海道江差郡江差町生れ。學歷 札幌師範学校卒 エス歴 三

笠町小学校教員 1924年師範学校在学中、エス語を知る。志文教育高等学校に移り千布氏のエス全程で独習。1931年農事試験場の講習会で瀧美楠雄氏に会う。1933年第2回全道大会で相沢氏、輪近氏に出会う。以来札幌エス会会員（当時イゾリーク・メンプロは札幌エス会に入会していた。相沢）、江口氏、木村氏にであったのもこのころ、札幌エス会に所属し、道大会や第24回日本大会にも参加。由仁高校時代には、新田氏と語りエス学習会を開く。児玉氏はそのころ学習。志文、豊里、由仁、雨煙別、幾春別等学校現場に'38年3ヵ月。滝川市教委に入り行政職（教育長）10年半勤務し昭和50年退職して上京

8月5日 室蘭（第12日）

午後4時から木村屋喫茶部で懇談会。学会の現状を話す。参加者6名 午後6時ころかねて連絡のあったフランス軍艦ラモットピケの船員Bertloot氏がくる。7時から普及講演会が開かれる筈だったが急なので準備まにあわず同志だけで座談会に変更した。参加者15名。

8月6日 苫小牧（第13日）

7時30分 鉄道クラブで普及座談会懇談会 参加者15名内、外人1名

午後6時 渡辺屋で懇談会。鈴木春吉、中野五郎、① 新田為男、岡垣千一郎、岡垣夫人、渡部隆志、渡部夫人、門脇松二郎等参加者13名

（R・O1936年9月号の岡本氏の記事より要約 相沢）

① 新田為男氏 1917年生まれ。商業、由仁町収入役、地方自治体嘱託、1934年エスペラントを学ぶ。1952年よりUEAのDelegito.

★ 第24回日本エスペラント大会

☆ 8月始め各方面にたいして、日本エスペラント大会の通知状を発送した。

謹啓

炎暑の砌（みぎり）益々御多幸賀候陳者（のぶれば）御承知の通り、わが国の非常時に際し国際関係益々緊密を加へ候事とて国際語補助語エスペラントの実用性は愈

々高まり候折から御承知の通り左記時所に於て第二十四回日本エスペラント大会を開催致し候については、炎暑の折から且は御多用の中を恐縮に候へども斯道御奨励の恩召を以て、右大会に御賞賜の栄を賜り度此段御案内申上候

敬具

追て御来駕下され候折は御手数乍ら此の書状受付係へ御示し下されたく御願申上候

昭和十一年八月四日

第二十四回日本エスペラント大会会長

会長 高瀬正栄

大会顧問芳名（ABC類）

医 師	☆塚田 勝	☆北大教授	真崎 建夫
ツーリスト支部長	後藤常三郎	☆札幌控訴院長	三宅正太郎
市 会 議 員	井川 伊平	道庁技師	桜井村太郎
小樽新聞編集長	加納虎太郎		
北海道タイムス社		市会議員	佐藤一雄
常務取締役	柏岡清勝		
医 師	☆木津義雄	農学博士	島 善隣

（☆ はエスペランティスト）

扉致

記

八月八日（土）午後0時半ヨリ

札幌市北二条西四丁目

グランドホテル商工会議所ホールにて

☆ 現在大会に代表を送るとき委任状など必要としないようであるが、当時は委任状を必要とした。一例をあげれば

1936

委任状

拙者儀、飯塚市新飯塚駅前立石町一丁目片山政子ヲ以テ代理人トシ左記権限ヲ委任ス
一、日本国民速記協会ヲ代表シ第二十四回日本エスペラント大会ニ出席ノ件

右委任状依テ如件

福岡県田川郡赤村八一五七番地

日本国民速記協会代表者

大場 裕 (印)

これは収入印紙を張った正式のものであった。片山政子さんは花村秋義氏とともにエスペラント速記術で大会の速記をとり大会のプロトコロを作成した人である。このような委任状を集めたり、学会との連絡も頻繁であった。相沢が字が下手なので岡本好次氏から、ほかの通常の文章なら読めるが、人の名前だけははっきりと読めるように書いてほしい、といわれたこともある。また外国のエス会にも通知状を発送した。

★ 8月8・9・10日 札幌 第24回日本エスペラント大会

8月8日 土曜日 グランドホテル商工会議所ホール

受付開始 10時

開会式 13時 木村氏開会宣言

Espero斉唱

君が代斉唱

相沢氏準備委員長として挨拶 高瀬氏を大会会長として推薦

大会会長挨拶 高瀬会長書記指名 長谷川、小森、仁岸、後藤、

橋本市長祝辞 札幌市長 従四位勲三等 橋本正治氏(教育課長 筒井銀平氏
代読)

Lokaj kaj fakaj grupoj挨拶

学会三宅史平氏、HEL福田氏、その他各地方会 26名

写真撮影

祝電 祝辞披露

電報による祝辞 31通、手紙または葉書による祝辞 5通、写真電報による祝辞1通(発信人、城戸崎益敏氏 この当時既に写真電報が東京、大阪間に扱われていたのである。大阪から東京に電送され、東京から札幌に遠達で転送されたものである。上部に手書きでエス文祝辞あり、左中央城戸崎氏の写真が入っている。右下に、Hinakoと奥さんの名前を表す小鳥が描かれている。相沢)

海外からの祝辞 16通

記念撮影

日本エス学会総会 15時30分 グランドホテル

(日本エスペラント大会とエス学会総会とは別々に開催する。それは大会は日本のエスペラントの大会であって、学会の大会ではない、と言う考え方があったからである。日本エス学会は日本を代表する者ではないと言う思考があったのである。北海道大会も北海道エスペラント連盟の総会は別にしていた。相沢)

渡部氏を議長とし、主事岡本氏事業報告会計報告あり、その後6項目の質問あり、岡本氏回答にあたる。

大会協議会17時30分 議長 福田仁一氏 グランドホテル

報告事項並びに質問事項 支部、UEA との関係その他 4項目

計画事項 2

1 日本放送協会に対し24回大会の名に於いてJOAKより全国中継にてエスペラント講座放送をなるべく速やかに実現さるゝよう請願書を提出すること。

原田三馬氏提案

(この時原田氏は東京にいた。)

2 大会の名に於いて明年度東京で開催の第7回世界教育会議日本事務局に対し同会議者招待の際エス文の招待状を出し又出席者に配布する文章等もエス文でなす様願情すること。

原田三馬氏提案

二案を一括して上程、種々議論されたが満場一致可決、晩餐会の時間もせまっているので第2日の会議に持ち越すこととなった。

晩餐会 19時30分～22.00まで グランドホテル

高瀬会頭の挨拶があって志文の岡本義雄氏の司会の下に挨拶。真崎先生がオリピックの独逸語放送をまいて1940年のオリピック（1940年東京でオリピックが開催されるはずであった。相沢）の際の用語にときおよびエス語にしたいと結ばる。進藤静太郎氏がビールの意味について説明。野原休一氏がエス運動の発展ぶりを祝福し、万沢嬾は公務のため不参の小坂氏挨拶を代読。岡崎英肇氏（号を豊夢と称す）の法話。帯広の佐藤松男氏の歌。蔡氏の中国の歌、磯崎氏のカレススキ（エス訳）その他道内のいずれおとらぬ隠し芸続出。この晩餐会の時デザートとしてアイスクリームが出されたが、これは

① 東隆氏が寄贈されたものである。

① 東 隆氏 明治35年（1902年）3月8日札幌市生まれ。1964年5月31日脳溢血のため急逝 1926年北大農学部経済学科卒業。1960年民社党支部結成大会。民社党の顧問となる。1962年参議院議員となる。1963年民社党書記長となる。死去するまで書記長として励む。学生時代からエスペラントを熱心に研究した。当局に家宅捜索をうけエス語の本など押収された。アズマ式ローマ字を考案したこともある。例えば（そうです。あります。）と言う場合（su）の母音は発音しない。それで子音を省く方式であったが、これは大変あづましい（楽しい、楽だ）ローマ字だと言っておられた。あづまと言う名前をあづまと言はれるのを嫌っておられた。死後高倉新一郎氏（エスペラントを学んだことがある）を介して北大図書館に2万冊の蔵書を寄贈された。（相沢）

第2日 8月9日 豊平館

第5回北海道エスペラント大会（分科会の形で行った）9時～9時30分

この当時北海道エスペラント大会は日本大会の例にならって、大会協議会と連盟総会と別々に行った。大会協議会 議長岡垣氏 9.00～10.30

常任幹事相沢が、会計報告と幹事の移動を報告した。

議題 1 旭川エス会提案 第6回全道エス大会を旭川に招待の件

当摩氏提案説明 福田氏賛成 可決 木澤氏謝辞

議題 2 札幌エス会提案 中等学校にエス語導入を道庁当局に請願の件

相沢氏提案説明 可決

連盟総会 常任委員相沢氏会計報告ならびに一般報告し承認された。そのとき突然、福田氏がH E L本部を小樽に移転したいと、緊急動議の形で提案した。議場は混乱した。

鉄道エス会の三崎氏は、福田氏にそれは福田氏の個人的見解かまたは、公式な意見かと質問した。福田氏はこれは小樽エス会の名に於いて提出したものであると答えた。

議長は時間がないので、その件は文書による協議によって決定されたいと、言って会議終了宣言をしてしまった。相沢は一言発言しようとしたが、どうすることもできなかった。（この当時小樽には、小樽エス協会、仏教エス会、世界海員エス連盟支部、会話会、小樽エス連盟、小樽エスくらぶ等あり運動は活発であった。参加者27名（江口氏調）

分科会 10時30分 仏教、鉄道、文学、クリスチャン、医学。

分科会報告

仏教分科会	藤川哲蔵氏	（小樽）
基督教分科会	渡部隆志氏	（苫小牧）
文芸分科会	磯崎 巖氏	（東京）
鉄道分科会	後藤善六氏	
医学分科会	高部益男氏	

大会大学 14時20分～16時20分 今井記念館

エスペラント語根の一考察	岡本好次氏
エスペラント文学概論	三宅史平氏
エス運動に就いて	進藤静太郎氏

大会協議会 16時20分（2回目）今井記念館 昨日協議できなかった分をこの時間に討議した。6項目協議された。議長福田仁一氏

3 La tutjapana esperantistaro eldonu sian plenan adresaron.

4 La tutjapana esperantistaro invitu en la nomo de la Kongreso la Univer-
saran Esperanto-Kongreson por 1940, okaze de la venontaj Olimpiaj Ludoj
en Tokio. 京都エス連盟近藤国臣氏提案

提案者出席せず代弁者もおらぬため最後にまわされた。

5 1940年の東京オリンピック大会の際オリンピック委員会に働きかけエス語を採
用せしめる様運動すること。 東京エス倶楽部提案 (了解)

6 La propono pri gramfondisko kun Esp-a kanto, kiu tenoro Uĉimoto de Col-
ombia Kompanio bonvolis kanti Largo de Mendel. 進藤静太郎氏提案 (了解)

7 Alvoko al la tutmondo por la alta taksado de Zamenhofa motivo.
磯崎 巖氏提案 (可決)

8 Eldonu la libron pri Japana Kulturo por la memoro de la jubilea kon-
greso. 同上 (可決)

9 Realigo de unuigita movado inter diversaj lingvoraciigaj movadoj.
(主旨は結構だからお互いにその方面に働こうと言う意味で可決)

10 Alvoko al la publiko. 同上 (可決)

宣伝集会 19時30分 今井記念館 浪越氏の司会で一般大衆を対象にして宣
伝講演会が開催された。

我国にエスペラントが入ってきた経路 岡本好次氏

エスペラントの創案者ザメンホフ 高瀬正栄氏

日本古典文学とエスペラント 野原休一氏

中華民国における言語運動 蔡利斯氏 (通訳) 浪越孝夫氏

世界に於けるエス運動 進藤静太郎氏

約200人の聴衆が集まった。

展覧会 8月5日~9日 丸善書店 エス書籍、ピラ、入門書、その他外国から送

られたもの、毎日600人延べ3000人の入場者があった。

記念スタンプ (これは日本で最初のエスペラント、スタンプである。) 郵便局でつ
くったスタンプは好評であった。その外に ① 前田徳泰氏が私製したスタンプも作り
評判がよかった。

① 前田徳泰氏 1875年札幌生まれ。別名前田緑郎 Verda Viro 1897年札幌市私立北
海中学卒、1899~1914年北大エス研究会。札幌エス会。中央公論に連載中の「火野蒼平
の麦と兵隊」「馬と兵隊」の翻訳をR.Oに寄稿、「見よ東海の空あけて」エス訳応募、
小坂潤二氏に佳作と賞された。第24回日本大会札幌に招致の基金の一助として「札幌エ
ス会の歌」(混成4部)の作詞、「流浪の民」独一エス「故郷を離るる歌」その他

記念絵葉書 6枚組のものを連盟でつくったが、一般市民も大分買ったようである。
その他ふうかん紙、等評判がよかった。

第3日 8月10日

Ekskurso al Ŝikotu

支笏湖にバスでいった。バス2台に分乗。札幌は晴れていたが、天気はだんだん悪く
なっていった、歌ったり、のんびりして愉快な一日をすごした。非公式の意見交換19-
40年のオリンピック開催の時に万国エス大会をやらうと言う事に就いて意見交換があ
った。此の時大会の議題にも出ていたヘンデルのラルギー (オペラ・クセルクセス) の
レコードが発表された。

大会が終わって皆が別かれる時、進藤静太郎氏、磯崎氏はこんな愉快な大会は初めて
であると大層喜んでおられた。

この大会の参加者は142名であった。府県別に見ると、北海道102・東京15・
名古屋・4・大阪、神奈川各3・京都、青森、富山、福岡各2・新潟、山梨、山口、岐
阜、長野、三重、滋賀各1。内不在参加22名

(大会の記事 OFICIALA PROTOKOLO LA XXIVA KONGRESO DE JAPANAJ ESPERANTISTOJ
R.O 1936年9月号より)

(岡本特派員に問する其の後の報告は日時場所のみ次に記す。相沢)

☆ 岡本特派員の足跡。岡本氏は次の予定である青森に向かはれた。8月11日 青森

12日弘前 13日秋田 14日盛岡 15日 仙台 16日郡山 17日上野菅

☆ 大会は非常な効果をもたらした。エス運動に対する種々の誤解や、不認識を打破するために、特に宣伝や啓蒙的な仕事に力をいれた。普及講演会や展覧会に宣伝ビラを300枚、通知葉書500枚、ポスター150枚、電車内の広告等大いに力をいれたのである。そのため大会後8月12日より、初等講習会を回明堂歯科病院で開いた。講師高瀬氏 参加者45名。エスペラントを学ぶ為に今迄のようにびくびくすることはなくなったのである。講習会場は回明堂病院の真下先生（よほど以前にエスペラントを研究されたことがあったそうである。）が提供して下さったが、その為にわざわざ畳の縁まで線にして下さったほどである。こういふ熱心な支持者を得る事が出来たのも大会のお蔭である。この講習会の後今迄は2・3人より集まらなかった水曜日の集会には少なくとも12・3人は集まっている。大会会長高瀬正栄先生は札幌エス会の草分けとも云うべき最も古くからのエスペランティストで大会直後直ちに札幌エス会の会長に就任された。運動そのものが盛んになった許かりでない。知識階級の人々の間にもよき理解者が続々と現われつつある。問題の大学の方はどうかといふに大会の開催によってその情勢は全く変わってしまった。以前には大学エスペラント会を解散せしめその集会を禁じ、札幌エス会の会合に出る事も禁じ、個人的な研究さえも変な目で見ている大学当局が大会の時には学生課長の代理を出席せしめた。（中約）このように大会後はあらゆる方面にエス語が認識され理解されつゝある。之は全く大会を開催したお蔭に外ならない。全北海道に於けるエス会も札幌と同様の非常な発展を遂げつゝある。私はここに日本大会をして盛ならしめ榮あらしめたEminentuloj 諸氏並びに参加者諸兄姉に深甚の感謝の意を表し併せて大会後の情勢を報告してここに筆をおこう。（R・O 1936年 12月号より。記事相沢）
9月10日 大会の慰労もかねて同志とオイラン淵（今の藻南公園フランス語で命名された。Mon ami で藻岩山の麓、南にあるから【もなみ】としたのである。）にゆく。10

名くらい。

☆ 日本大会後のエスペラントに対する世人の理解や好感も一時的なもので、ながくは続かなかった。

今の人達が理解できないようなことが平然と行われるようになった。ベートーベンの第5交響曲をかけていたら、警官が飛び込んで来たというようなことがあった。恋人どろしが大道で散歩しているところの非国民め等、今をどういう時だと思っているんだ、とばかり二人づつ手をつながせて、衆人覬視の中をぐるぐる回らせたり、2人以上人が集まる時は集会届が出ていないといって検挙されたり、（札幌エス会では集会届は出さなくてもよいといわれたが）解散させられたりというような状態であった。

この年美濃部達吉の天皇機関説問題、2・26事件、メーデーの禁止、大本・人の道教団（今のP・L教団）検挙、日独防協定成立等、政治的思想的な色々な事件があり、人々の心は軍國的な方向に傾いていった。

★ 1937年

北海道エスペラント連盟事務所は南4条西14丁目相沢方にあった。札幌エスペラント会の事務所は札幌市北2条西14丁目高瀬氏方であった。

前田氏はこの年に結婚された。媒酌人は北大の半沢博士である。

☆ 旭川では、第6回北海道エスペラント大会を前にして会長はじめ同志諸君は熱心な努力を続けた。La FeniksoをInformiloとして5回も出した。

エスペラント展覧会も計画していた
7月8日旭川で大会の予定であったが、2~3日前速達郵便がきて、事情あり大会を中止するとの知らせあり、この手紙は、読終ったら焼却してほしい、との事であった。

旭川は1937年鉄道エス会も結成され、武田威勢氏が木津会長に変わったのは、その前の年であり、1937年の大会を迎えるべく、皆がはりきっていたのであるが、なにか警察の干渉があったのかもしれない。このことについて当摩氏にただして見たが、当時応召し

ていたのだからわからないということであった。

★ 1938年

6月29日 北海タイムスに「事変とエスペラント」と言う記事を書く。相沢

旭川 1年延期になった大会は商工奨励館で第6回北海道エスペラント大会として開催された。

★ 8月7日 第6回北海道エスペラント大会 旭川市商工奨励館

然しこのころ旭川は菅原鉄雄氏は応召、前会長の武田威勢氏は満鉄入社、① 堀真道判事は札幌に転勤、竹吉氏も留萌に転住、その他2~3人も移動あり大会の運営も困難なことであったろう。

① 堀真道氏 控訴院判事その後札幌に転勤された。

1 受付

2 発会式 司会者 安達利比呂氏

(1) 開会の辞 (2) 国歌君が代 (3) 皇居遙拝 (4) 忠勇なる皇軍戦死者に対して黙禱 (5) La Espero (6) 準備委員長の挨拶 当摩憲三氏 (7) 会長推薦

(8) 大会会長の挨拶 木津義雄氏 現支那事変下に於ける北海道エスペラント大会は有意義であると挨拶

地方会代表者の挨拶	北海道エス連盟	相沢治雄氏
	帯広エス会	原田三馬氏
	札幌エス会	相沢治雄氏
	札幌エス会	岡垣千一郎氏
	室鉄エス会	三崎豊市氏

祝電祝辞の披露 祝電 日本エスペラント学会

祝辞 東京エス倶楽部 堀 真道氏 (札幌) 菅原鉄雄氏 (応召中)

(9) La Tagi go ⑩ 閉会の辞

3 記念撮影

4 大会協議会 議長 原田三馬氏

(1) 今事変に於ける吾郷土部隊に対する感謝決議 (旭川エス会提案)

(2) エスペラント報国同盟に関する件 (札幌エス会提案) 了解

(3) 日本エスペラント学会支持について (帯広エス会提案) 了解

5 昼餐会 古いEsp-isto関川石太郎氏が昔エス辞書がなかった時エス語を始められたそうでその苦労話などがあつた。

6 連盟総会 (1)(2) 2つとも連盟規約の件で、

第6条 会費は年10銭とする。苫小牧エス会提案。(可決)

第7条に名誉会長1名と顧問若干名を推戴す、と加える。苫小牧エス会(可決)

7 Al la Fratoj

時節がらとはいへ戦時色の濃い大会になった。

参加者18名 不在参加を含めて57名

(La Fenikso N-ro 11. La Protokolo de La 6-a Kongreso tut-Hokkaido ESPERANTISTA)

☆ 我々は政府の発表だけを信じて、戦争の実体をしらなかったから、軍国主義的な方向に走っていった。年代も段々日本紀元で記すようになった。1939年第7回エスペラント大会を札幌で開くべく努力した。この年Informiloには2599人と日本紀元でしるされていた。この当時連盟には会長もなく委員長もなかった。第1回大会から中村久雄氏が代表幹事となり、第2回大会までは原田三馬氏、第3回以後は相沢が代表幹事となった。

連盟本部も札幌市南4条西14丁目相沢方に置くことになった。旭川の大会で名誉会長の制度がさだめられたので札幌の有名人、弁護士会長の ① 木下三四彦氏に予め連盟の名誉会長になって戴くことをお話して了解をうけていた。

① 木下三四彦氏 1883年12月22日室蘭市に生る。1974年1月3日死亡。学歴 大正元年(1912年)東京帝国大学法科卒業。札幌市の有名人の一人。多趣味の人であった。相沢が子供の時中島のスケート場でスケートをやれと盛んに宣伝されていたのを見たことがある。エスペラントは自分でなさらなかったが、深い理解をしめしておられた。弁護

士会長。

☆ エスペラント報国同盟(学会内)ではパンフレットN-RO 1を発行した。

8月8日 小樽 福田氏宅で会合を持つ。8月15日 テキスト、フランス編を使用

8月21日東朝50年記念講演旅行の途次来樽された、土岐善麿氏を福田、高橋、村田が北海ホテルに訪問しエスペラント、ローマ字等につきお話を承った。外小樽仏教エス

会の記事あり。小樽の活動ぶりをしめしている。(R・O1938年8月号)

この年はノモンハン事件、第2次世界大戦不介入声明などあり支那事変は益々拡大された。

★ 1939年(皇紀2599年)

連盟会報はこの時H.E.L.と名称をかえて発行した。

R・O1月号に ① 脇坂氏のロシア童話「臆病な兎」掲載

① 脇坂圭治氏 1906~1962年 肺臓癌のため死去 花園小学校卒 小樽貯金局。当時警官の圧迫で失敗。岸鉄工場にうつり岸鉄工場内でエス語を普及し小樽のエス語の発展に寄与した。1932年にE独習 アイヌ伝説紹介、手宮の古代文字紹介などR・O紙上に発表。1935年を中心に小樽仏教エス会を指導、「慈光」誌に、Eについて執筆 '55年~58年の間 Eによる外国文学作品を北海タイムス、LEONTODOなどにたびたび寄稿した。

4月10日 浪越春夫氏結婚披露 札幌エス会、薬剤師代表、皇道連盟、精神分析会、短歌会、雄弁会、ラヂオ体操、皇演学会、普門品会その他の代表者集まる。札幌市の文化団体交歓会の如くであった。(R・O1940年6月)

4月14日ザメンホフ忌祭当夜、札幌エス会、札幌エス研究会よるなる大会準備委員会の初会合がもたれ、会期、会場、その他大会に関する大綱が決定された。

★ 9月24日 第7回北海道エスペラント大会 札幌市 富貴堂ホール

主催 北海道エスペラント連盟

準備会 札幌エスペラント会

札幌エスペラント研究会

大会役員

顧問 北大教授 医学博士 真崎健夫

大会会長 札幌控訴院判事 堀 真道

連盟会長 弁護士 木下三四彦

準備委員長 高瀬正栄

庶務会計その他委員 相沢治雄 佐藤徳治 木村喜壬治 村山静子 前田徳泰

- (1) 受付 8.30より (2) 発会式 (3) 連盟総会 (4) 記念撮影 休憩 (5) 普通試験
- (6) 連盟総会(続) (7) 大会協議会 (8) 晩餐会 19.30迄

発会式

- 1 君が代
- 2 宮城遙拝
- 3 戦没英霊に黙禱 皇軍将士の武運長久祈願
- 4 準備委員長挨拶(高瀬正栄氏) 堀真道氏を大会会長として推薦
満場拍手裡に堀真道氏大会長に就任
- 5 大会会長挨拶(堀真道氏)
- 6 地方会代表挨拶

北海道エスペラント連盟	相沢治雄氏
小樽仏教エスペラント会	藤川哲蔵氏
旭川エスペラント会	当摩憲三氏
函館エスペラント会	吉田 栄氏
札幌エスペラント会	橋内和男氏
小樽エスペラント協会	村田伸一氏
- 7 祝辞(木下三四彦氏)
- 8 祝電、祝辞披露。祝電 日本エスペラント学会 坂下清一氏(夕張) 菅原鉄雄氏

(内蒙派遣隊)

祝文 進藤静太郎氏 (神戸)

連盟総会 (A) 議長 高瀬正栄氏

1 連盟名誉会長推戴

高瀬議長より、北海道エスペラント連盟名誉会長として木下三四彦氏を推薦、会員の賛同を求めれば、全員拍手を以てこれを承認す。

木下名誉会長挨拶

2 物故エスペランティストに黙禱

田上儼子夫人 北大教授田上政敏氏夫人、高橋邦太郎氏の姪に当たり、大正7年札幌庁立高女卒業後エスペラントをまなばる。後田上氏と結婚。昭和13年10月11日永眠された。(田上正敏氏については第1部5Pに記してある。相沢)

中島 決氏 北大農学部出身昭和11年(1936年)8月札幌大会直後の初等講習会を終えられ札幌の同志乾 直子嬢と結婚同年5月補充兵として応召10月マラリヤにおかされ戦病死された。

岡崎靈琴氏 大谷大哲学科中途退学、大正8年(1919年)東本願寺にて得度同14年(1925年)大僧部に補せらる。小樽霊徳寺にて寺務に従事。エスペラントは大谷大在学中に学ばれ昭和9年(1934)小樽仏教エス会を創設。昭和14年(1939年)7月17日逝去。

普通試験

北海道地方第1回エスペラント普通学力検定試験は13時10分より14時10分まで1時間にわたり臨時試験委員、高瀬正栄氏(筆記)相沢治雄氏(口頭)両氏によって施行された。エス文和訳5題 和文エス訳8題 口頭10題 13人合格

連盟総会 (B)

高瀬正栄議長より書記に前田氏、柝内氏任命。

1 エスペラント展覧会開催の件

具体案を常任委員会で検討すること。(了解)

2 中等学校へエスペラント導入の件

来年度宮崎の大会に提出することし委員に高瀬氏、柝内氏、長田氏の3氏を推薦する。

(満場拍手決定)

3 連盟会費増額の件(年50銭にしたいという案が保留)

4 連盟幹事改選の件

5 次回大会開催地に関する件

小樽仏教エス会小樽エス協会の会員別室にて協議小樽に招待を決定

6 晩餐会

晩餐会場明治製菓

歌と朗読人形劇など。この大会は朝から雨が止まなかった。

参加者62名内不在参加25名

E S P 記念手帳 (前田徳泰氏作成)を出席者全部にくばった。(参加者江口調37名)

(OFICIALA PROTOKOLO DE LA VIIa KONGRESO DE HOKKAIDAJ ESPERANTISTOJ)

12月17日 小樽仏教エス会、小樽エス協会 玉乃屋に於いてZ祭催す参加者7名

(R・O1940 3月号)

この年ノモンハン事件 第2次世界大戦不介入声明などがあつた。戦時的な風潮は日を追うにつれて激しくなつていった。

★ 1940年(皇紀2600年) (軍国主義の時代)

学会でも1940年の1月号R・Oには皇紀2600年と書き大石和三郎氏の「皇紀2600年を迎えて」という巻頭言を掲げている。

4月 宮崎で紀元2600年記念の大会があつた。

4月9日 相沢「ザメンホフの死」4回連載で小樽新聞に書く。

8月26日 学会は常務理事会でIEL (Internacia Esperanto-Ligo) を離脱することを決定した。(R・O10月号)

☆ この当時年次の表示を日本紀元で書くことが流行した。LA Feniksoは1939年を

2599年と書き、小樽でも第3回大会のAnociloを2594年と書いた。このように一日一日と軍国主義的になり戦争にちかづいていった。我々は眞実をなにも知らせられなかったから、政府の言うままに行動せざるを得なかった。しいて政府に反対すれば検挙されるのみである。何十年とかかって教育されてきた、我々は政府の称える嘘が見抜けなかった。

学会でもエスペラント報国同盟を組織し、飛行機愛国号を献納しようと言う動きさえあった。ごく少数の左翼の人達がひそかに眞実を知っていたにすぎない。その人達も眞実を口に出すことは出来なかった。

我々エスペランティストは八紘一字と五族協和と言う言葉にだまされていたのである。八紘一字とは日本が中心となって世界平和のために指導的精神をもって動くことだと思っていた。あのような残酷な振舞をした事実は後でわかったことである。

☆ 旭川エス会は間もなく解散した。第1部で了解されたと思うが、最初は大本の信者が多かったこと、会員相互間の融和がうまくいかなかったこと、それに警察が特高をつかって調査と称して絶えず木津先生の所に入出入りして、「先生今日あたりは外でお話しませんか？」などと言って先生を引っぱりだして、一杯飲みを誘いだしたりしたことが原因であると思はれる。

7月14日 江上不二夫氏来礼。まるい別室で歓迎会を開く。11名参加

☆ この年は小樽で大会を開くことになっていた。開催日は9月23日ときまった。

ところが2〜3日前に速達で大会中止の知らせがあった。これは何か準備上の都合があったらしく別に特高の弾圧によるものでないと当時考えていたが、10月になってあらためて通知あり次のように行はれた。その事情は江口氏に尋ねても分からないとのことである。

☆ 10月27日 第8回北海道エスペラント大会 小樽 北海ホテル

出席者 札幌 5名 小樽 6名 外、特高、憲兵2名(特高、憲兵が出席しているのを見るとやはり大会延期は特高の干渉があったのでなからうか。)参加者(15名江口

氏調)

この大会はプロトコロがないのでこれ以上は判らない。

11月23日付けの小樽新聞に相沢ハンガリーとの文通について記事書く。

★ 1941年

2月7日 相沢 北海道新聞に「ハンガリーの捕虜と日本軍」3回書く。メーゼン・イストバン博士のエス文より翻訳

4月14日 ザメンホフ忌当夜、札幌エス会、札幌鉄エス会、よりなる大会準備会の初会合がもたれ、会期、会場、その他大会に関する大綱が決定された。その後数次の会合を開き、着々とその準備を進めたのである。

★ 9月23日 第9回北海道エスペラント大会 札幌 豊平館

此の大会には20人位集まったと思う。この大会もプロトコロは出せなかった。

12月8日 太平洋戦争勃発

★ 1942年

この当時はエスペラント大会どころではなかった。それでも札幌では札幌幼稚園をかりて大会を開催した。

★ 10月11日 第10回北海道エスペラント大会 札幌 札幌幼稚園

15・6名集まったと思う。雨がふっていたようであった。(江口氏調16名)

この大会は戦時中エスペラントを如何に宣伝するか、と言うような事で特別記録すべきことはなかったと思う。勿論プロトコロは発行できなかった。

この年はシンガポールが陥落した。だがミッドウェーで海戦は、大勝利とのことで実は大敗北であったことは誰もしらなかった。

★ 1943年

大会中止

機関誌も発行できなかった。代わりにMigranta Gazeroをだした。

ある会で何か書いて次の会に送るとそれをうけとった会で、また何か書いて次ぎの会に

送るといふふうにしてみたが、長くはづづかなかった。

☆ 学会では Revuo Orientaとエスペラントの2つの雑誌があったのだが、この年からエスペラントだけの題号になった。

この年連合艦隊指令長官山本五十六が戦死した。皆は此の戦争が容易なものではないことを知った。

★ 1944年 北海道エスペラント大会中止

LA Revuo Orientaとエスペラント2雑誌 3月号で休刊

サイパン島玉砕 東条内閣総辞職

★ 1945年

東京が大空襲で焼き払われ、原爆が長崎、広島に落とされ、ポツダム宣言が受諾された。

☆ ~~8月8日 太平洋戦争終結~~

☆ 8月15日 終戦玉音放送を聞いてから、皆泣けるだけ泣いたと思う。そのうちにだんだん元気をとりもどして、自分は何を為さなければならないかと心を定めた。

☆ 学会では10月からエスペラント再刊(いままでの二つの雑誌を一つにし題号をエスペラントとし副題をLa Revuo Orientaとした。この運動史での注釈は今まで通りR・Oとかく。)

10月 連合軍札幌進駐 丸井その他の大きな建物は進駐軍に接収された。

① ~~星田 淳氏この年よりエスペラント始める。~~

① 星田 淳氏(あつし)と読む 1931年 3月22日札幌市生まれ。1953年九大(工学部電気工学科卒 1948年)以来エスペランティスト現在 JEI.MEM.UEA.HEL.TES. に所属 1948年 熊本で五高エス会組織 福岡エス会、九州エス連盟に参加 1953年 以来北海道エスペラント連盟(HEL)に参加 1960年 苫小牧エス会組織 Infanoj de '1 Atombombo, 1958年 Hokkaido (観光案内) 1972年 Turismo ĉirkaŭ Tomakomai (苫小牧の観光) 1979年 Ainaj Jukaroj を共著す。訳書「トー・ハウ ベトナムの若い母」Bui Dac Ai Tu

Haŭ, エス文から岡一太と共訳。1965年12月 新日本出版社その他ベトナム関係作品の翻訳発表はかなりある。「苫小牧市民文芸」「北海道新聞」R.O やその他の雑誌、新聞等に書いたものは数えきれない。

☆ R, O 11月号に犬山春吉氏(北海道) 藤川哲蔵(小樽) 原田三馬氏(釧路)の三氏の文章が会員の声にでた。原田氏は次のようにのべている。(出来る限り早く機関紙の発刊に御尽力下さい。北海道に於けるエス運動も何とか再建しなければならぬと思ひます。今後の急務とする問題は 1. 機関紙の発行 2. 国内エスペランティストの糾合 3. アメリカ国内同志との連係) (R・O 1945年12月号)

★ 1946年

☆ 6月第33回日本エスペラント大会で新しい運動組織として日本エスペラント協会が設立された。協会は普及活動を、学会は研究活動を分担すると云うことであったが、一般には日本エスペラント学会の無気力さにあきたりない人達が、新に民主的な日本エスペラント協会を設立しようという運動だと思はれていた。機関紙 La Nova Fronto を発行した。このエスペラント協会は戦前あった協会とは違う。戦前は1906年に設立されたものである。(相沢)

☆ 9月 北海道エスペラント連盟では大会再開の辞をつぎのように発表した。

北海道エスペラント大会再開の辞

長い間の野蠻と反文化的な軍閥の無理解圧迫や封建性の桎梏(しつこく)から開放された我々自由なる文化人北海道の全エスペランティストはここに第11回全道エスペラント大会を開催しエス運動の強力なる再展開を企てております。永い間我々エスペランティストを圧迫しつづけて来た頑迷極まる特高や Sovinsto は姿を消し明るい前途が開かれたのであります。しかしながら我々はこれから先もまだまだ色々な困難と闘はなければなりません。無理解なる官僚の未だ抜け切らない封建性、Esp 運動を正しく理解出来ざる者達の反動、それらを勇敢におし切って戦うべき時はきたのであります。今こそ我々は全世界の進歩的なる者、民主的なる者、世界の平和を希求する者達の力強い団結を計

るべき時が来たのであります。

我々はこのEsp 大会の再開が単に日本のEsp 運動のみならず全世界のEsp 運動の上に大きな影響を与える事を信じてやみません。今こそ我々はEsp 運動の大旗(たいはい大きな旗)をふりかざし民主運動上文化運動の最先端を進むべきであります。

北海道エスペラント連盟

委員長 相沢治雄 委員 ① 河野広道 駒林菊松 浪越春夫 高瀬正栄 阿部寿満子
当摩憲三 木村喜任治 桑原 一 坂下清一 岡垣千一郎 佐藤徳治

(1946年全道大会宣伝の印刷物より)

① 河野広道氏 学歴1905年札幌市北1条西7丁目に生まる。1963年死去。1917年札幌市立中央創成尋常高等小学校尋常科卒業。1930年北海道帝国大学農学部大学院終了。1932年農学博士の学位を授与せらる。職歴 1930年北海道帝国大学助手に任ぜらる。1942年北海道新聞社北方研究室長を囑託せらる。1953年北海道政史料編纂を囑託せらる。探検隊参加歴 1922年(ソビエト連邦サハリン州)(北樺太) 亜港軍政囑託として北樺太学術調査隊に参加。1922年～1944年まで昆虫採集その他考古学・民族学の調査に派遣されること全部で7回。学会・諸団体役職歴 日本考古学会評議員他6 著書・論文考古学関係56。人類学・民族学関係39 北海道の文化地方史関係15 芸能美術関係6 自然地理・気候関係6 以下昆虫関係論文多数 省約(故 河野広道博士小伝より相沢要約)

エスペラント大会にでたのは当時北海道新聞に勤務していたが、進駐軍が新聞社にでむき、赤色分子を名指して、此れ等の者達を解職することを望むとピストルを手に強迫(こういう時進駐軍は命令はしない。希望を述べるだけであるが、手にピストルを持って希望するのは強迫以外のなにものでもない。)それは北海道新聞社でストライキが起こりその説明と協力を求めるために来たのである。(相沢)

★ 9月22日 第11回北海道エスペラント大会再開 定鉄労働組合集会所

このとき相沢が定鉄の委員長をしていたので此処を使うことができたのである。1942年第10回の大会がひらかれてから4年ぶりである。参加者も10名位と思われたが当日参

加したのは下記の18名である。

木村喜任治氏、当摩憲三氏、岡本義雄氏、斉藤龜代三氏、脇坂圭二氏、河野広道氏、岡垣千一郎氏、相沢治雄氏、江口音吉氏、井上元則氏、坂下清一氏、新田為男氏、藤川哲蔵氏、鶴近庄次郎氏、竹吉正広氏、藤原信一氏、栗林並びに子供

この大会で決議された案件は6件あった。(1) 全道エスペラント運動再建の件。(2) 日本エスペラント協会の件(JEIと別に「JEA 日本エスペラント協会」というのが出来た。)HEL 自体として参加することは暫く見合わせ、暫く事態を静観した上で決定すること。エス会単位で加入することによってlokaj grupojの発達を促進することが出来ると思はれる。(3) 機関紙発行の件 (4) エス語普及に関する件 (5) 将来に対する計画樹立の件(エス語会館 エス語短波放送局) (6) Esp. korespondo をマ指令部に陳情の件。その他の議題(外の文化団体と提携することも話題にでた。)(参加者江口調18名)

(Cirkulero de HEL N-ro 1)

★ マッカーサーへの陳情書

総司令部の通信許可の覚書は9月5日に発せられ10日から実施され、大会は22日であるから正に期をとらえたと言いうるのであろう。

GENERAL HEADQUARTERS

SUPREME COMMANDER FOR THE ALLIED POWERS

Civil Communications Section

APO 500

AG 311.1 (5 Sep 46) CCS

(SCAPIN-1177)

NEMORANDUM FOR : THE IMPERIAL JAPANESE GOVERNMENTO.

THROUGH : Central Liaison Office, Tokyo.

SUBJECT : Resumption of International Postal service between Japan and

all other countries except Germany.

1. Resumption of International Postal service between Japan and all other countries, except Germany, is authorized effective 10 September 1946, subject to the following provisions:

a. -----

b. Communications on postal cards must be of a personal or family nature written in Chinese, English, French, Japanese, Korean, Russian, or Spanish. Letters (other than official mail pertaining to repatriation) and commercial and financial and communications are prohibited.

c. -----

(訳文) 連合軍最高司令官総司令部民間通信

AP0 500

AG311,1 CCS

SCAPINI177

1946年9月5日

宛 書 日本帝国政府あて

経 由 東京 終戦連絡中央事務局

題 目 日本と、ドイツを除くすべての外国との間の国際郵便業務の再開

1. 日本と、ドイツを除くすべての外国との間の国際郵便業務が1946年9月10日から次の条項の従って許される。

a. (省略)

b. 郵便葉書の通信文は、個人的または家族的性質のもので、中国語、英語、フランス語、日本語、朝鮮語、ロシア語またはスペイン語で記載されたものでなければならない。書状(復員に関する公用郵便物を除く)および商業、金融上の通信は禁止される。

c. (省略)

(1977年 3月30日英文、訳文とも札幌市郵政局より入手)

この覚書によって友人に対して葉書はだせるが、エスペラントではだめだと言うのである。

陳情書

帝国主義的侵略と資本主義的搾取の対象を弱小民族の上に求めた憎むべき日本軍閥とその傀儡であった政府は無知にして世界の動静を知らざる民衆を弾圧とデマ宣伝によりその耳目を完全にふさぎ民主的なものへの関心を排除し、一路戦争へ戦争へとかり立てあだかも戦争のみが国民を救う唯一の道であるかの如き錯覚を与えた。然るに民主主義国家によって侵略の夢は破られ国民は初めて軍閥財閥にあやつられた自己を発見し民主主義の波は湧きとして湧き興った。われわれ平和を愛好し民主主義運動の一翼を担うエスペランティストは戦争中幾多の弾圧に耐え今ここに世界より戦争を追放するために、真の平和を建設するために立ち上った。われわれは全世界の平和を愛する同志と手をにぎりお互いに胸襟を開いて語りあう日の一日も早からん事を熱望し又世界の真の姿を民衆に知らしめる義務あることを信ずるものである。悪虐なる軍閥よりわれわれを開放し日本の民主化を計りつつある連合軍におかれては、われわれの熱烈なる平和建設の希望を入れられエスペラントによる外国通信の速やかなる再開を許可されんことを陳情するものである。

1946年12月15日

ザメンホフ記念日

北海道エスペラント連盟(印)

連合軍最高指令官

マックアーサー元帥閣下

(Cirkulero de HEL 第3号及び(LEO N-ro 6))

☆ 相沢関東、関西の同志訪問

☆ 相沢は12月~翌年1月まで関西に出向いた。私鉄総連結成のためである。

その間多くの同志諸君をたずねることができた。この機会に東京都芝放送会館を訪問

し、マ元帥に陳情書の伝達方を依頼した。丁度クリスマスに当たったので責任者は不在であったので、名前はわすれたが、さる渉外関係の中尉に手渡し、必ずマ元帥にわたしてもらおうよう頼んできた。その結果は確かめる事ができなかったが、労働組合のひとりひとりの動向を把握しているGHQのことで、こんな陳情がきていた位のことはマ元帥の耳に入ったことと信じている。

次いでに東京、京阪の先達諸氏を訪ねてきた。

東京 三宅史平氏、氏は戦時中ひどい栄養失調におそわれ、パンを持つ事も出来ない位であった。事務員は一人きりで仕事は山積している。紙の不足にもなやまされている。(失礼なこととは思ったが握り飯が残っていたので一つ差しあげた。三宅氏は喜んでそれを食べた。終戦後もの無い時で、米の飯など口にすることはできない時代であった。)学会の仕事の無気力を非難する前に三宅氏が活動出来る様にして上げるのが全日本のエスペランティストの責任である。

大阪 藤田藤太郎氏 津脇喜代男氏 あまりエスペランティストにはしれていないが、交通労働者の間では島上善五郎氏(東京都電委員長?)より有名である。藤田氏は京阪神の委員長であり今度結成された日本私鉄総連合の委員長である。

古い同志であるがエスペランティストであることを今度初めて知った。労働運動の中にあり常にエスペラントの精神を盛りこんで大衆を指導しておられる。津脇氏は京阪神の書記長であり私鉄総連の書記長でもある。労働運動で弾圧を受け獄中でエスペラントを学んだ人である。(大島義雄氏 宮本正男氏の反体制エスペラント運動史の中に津脇氏の名前がでている。)

伊藤幸一氏 名古屋の大会でお目にかかったまきりであるが、大阪のZ祭のはなしを聞く。120~130人位集まるとのこと

城戸崎益敏氏 札幌で日本大会のあったとき写真電報をおくられた人である。三和銀行海老江支店長、近所のレストランで食事をご馳走になる。

川崎直一氏 札幌の大会でもお目にかかった。エスペラントロジーオの最高権威者で

ある。部屋には和漢洋書の外英語、エスペラント、イタリアー、ハンガリーから土人語にいたるまでの本でびっしり。東京の空襲の実体をしらせられていたら大阪もこんなに焼けることもなかったのに、と残念がっておられた。

進藤静太郎氏 北海道エス運動に対して大きな関心を持たれ熱心に指導された進藤氏、個人的な指導も受けた恩人である。戦災により家も財産も何もかも無くされた。残念ながらお訪ねした時は丁度城戸崎氏の所に行かれた後でお目にかかれなかった。

柴山 慶氏 南禅寺の滋氏院という坊荘の一つに居住されていた。気軽にお話出来る方だ。抹茶を馳走になる。(後柴山慶一とお名前がかわった。)

中原精二氏かに屋書店主、Tempoの発行者。今後のエス文献の発行について遠大な計画を立てておられる。後第22回の北海道エス大会に出席された。その他大勢のエスペランティストにあってきた。

(Cirkulero de HEL N-ro 3)

☆ 福岡エス会の学会救済資金募集について。学会の窮状をみかねて福岡エス会がはじめたのである。HELでも資金募集に参加した。

(Cirkulero de HEL N-ro 1)

10月7日第1回 11月2日 第2回 浪越氏宅でHELの常任委員会をひらいた。

(1) マーク・スター氏に手紙を出す件(省略)

(2) 道内エスペランティスト調査の件

(3) 福岡エス会の学会救済事業を応援する件(中央の機関たる日本エス学会が困難な状況にあるので福岡エス会では、この救済に乗りだした。これはHELも手をかそうということである。)

(4) 労働学校にエスペラントを産別労働組合の労働学校で近くエスペラントをとりあげ講習することになったのでその準備(実際にはおこなはれなかった)(5) ザメホフ祭について(浪越宅で行うことと決定)

(Cirkulero de HEL N-ro 11a)

12月15日 札幌ザ祭 浪越治療院にて、今後の方針を決定した。

相沢、桑原、岡垣、浪越、坂下、真崎、橋内、① Bondlid(進駐軍の同志)をかこみエス運動、エスペラント研究の動機等について愉快な懇談会であった。

① Bondlid氏 アメリカのカナダ国境に近いところで育った。召集された時彼のAmikinoがエスペラントを学んでゆけば日本にいったら便利だと教えられ浪越氏のところでエスペラントを学んだ。学習のためなら夜間外出の許可がとれるということで毎夜のよう遊びにきた。

(このくわしい話は札幌市教育委員会編集の「さっぽろ文庫14」〔昭和29年の記録〕に浪越氏がかいている。後大学でおこなったZ記念日のとき相沢が通訳してアメリカの民主主義に就いて話をしてもらったがあまり話が長いので閉口したことがある。

☆ 地方会の動き

4月7日 小樽 戦時中活動を停止していた小樽エス界復興のため旧同志藤川、脇坂、江口の諸氏は4月6日 ① 山賀博士を訪問しエス運動につき懇談し、博士の熱意ある賛同を得、特に運動資金として金300円を寄付され一同は心から感謝した。

4月24日 小樽エスペラント協会はいよいよ機熟し4月19日午後6時から小樽産業会館楼上で総会を開いた。出席者は山賀博士、藤川、江口、脇坂等13名 協議会に入り

1) 規約審議、2) 役員改選 3) 講習会開催、その他協議 会長山賀博士、幹事長藤川氏 9時すぎに散会。
(Cirkulero de HEL N-ro IIa)

① 山賀 勇氏 1905年8月27日新潟県村松町に生まる。1930年新潟医科大学卒業 1937年医学博士 1941年以來小樽市で眼科開業 17才(1922年)中学4年の時「エスペラントの鍵」(定価10銭)を手にして初めてしる。翌1923年新潟高校で1年先輩の林不二男氏等の指導を受け1926年新潟医大生理学横田武三教授の指導をうける。1930年青森県立病院在任中葛西藤太氏、神 潔氏と交わる。1936年 北大研究中札幌で日本エスペラント大会(第24回)に出席 戦後1947年 小樽で小樽エス協会再建にあたり会長となりエス運動を始める。後HEL 会長、1968年 日本エス大会会長(札幌) JEI 評議員、現 JEI 顧問1976年小樽市「教育文化功労者」として表彰さる。1950年小樽ユネスコ協会の発足に尽力す。1974年小樽ユネスコ協会の会長就任

世界大会4回出席 1965年第50回東京1966年第51回(ブダペスト)1970年第63回(バ

ルナ)1983年第60回(ブダペスト) 著書 1978年バルナ大会参加の記(文集)

編集 1940年「眼科のしおり」 1983年随筆「一冊の本」(近代文芸社)

小樽エスペラント協会 山賀博士を会長として46年3月から海外通信を始める。現在会員60名

旭川 木津義雄氏を中心として旭川エス会再建の動きはあるが具体的な準備に進まないようである。
(EL NORDO 1)

函館 井上一氏は函館中学校でエス語講習会をしておられるとのことである。受講者は約30名とのこと。

由仁 新田為男氏 大会後も大いに張切って活動しておられるが敗戦後いの一に大規模な講習会を開催された。同氏の功績は大きい。
(Cirkulero N-ro IIa)

由仁Z祭 出席者S-roj 8 S-inoj 1 F-linoj 10名 余興、Karto などあり(茶菓なかなか仰山なものとの報告あり全道一の盛大なZ祭であった。

釧路エス会長原田三馬氏釧路に転勤して活発な活動をしている。

(Cirkulero N-ro IIIa)

★ 1947年

☆ 新しい世界が開けてみるとエスペランティストの中で大勢の人が左翼的な活動をしてきた。共産党又はそのシンパとなった人々はつぎのような人々である。河野博士、当摩憲三氏、佐藤徳治氏、井上一氏、脇坂圭二氏、岡垣千一郎氏、桑原 一氏 私も盛んに勧誘されたが20年も前の理論と何も変わっていないし、それに自由な思想を持ってないと思ったのでことわった。
(相沢)

☆ 各地の情勢

3月 小樽エス協会再建

小樽エスペラント協会 小樽市花園町東3丁目 会長 山賀博士 会員約60名

6月 第1回エス講習会開催

12月 戦後初めてのZ祭を開く

(EL NORDO 1)

三笠町 秋山三喜雄氏20人位の講習会を開催中

(Cirkulero 4)

☆ 前大会で決定されていた文教に加盟することになった。

4月 文教に加盟 文教のメンバーは次の通りであった。

(1) 日本美術会北海道支部 (2) 民主主義科学社協会支部 (3) 新日本文学会 (4) 北海道エスペラント連盟 (5) 労農美術家団 (6) 北海道ソビエト文化研究会 (7) 北海道医療民主協会 (8) 音楽団体準備会 (9) 新演劇大協会準備会

★ 4月13日 Z祭記念日文化祭 北大中央講堂

Me Esperantistojにも呼びかけ大衆と共にザメンホフを偲ぼうということで看板、ポスター等をはりだしたり大々的に宣伝した。参加者は100人位であった。

★ 主催 北海道エスペラント連盟 北海道民主文化団体協議会

(1) 司会者挨拶 西尾章二氏 (文教の人) (2) Esperoの合唱 (由仁村 (現在は町)の同志) (3) 講演 ザメンホフの最後 河野博士欠席されたため岡本義雄氏 (4) Tilio合唱 エスペランティスト合唱団 日本語の歌 帝織・日通合唱団 (5) 講演 民主主義とエスペラント Bandlid氏 (相沢治雄通訳) (6) 詩朗読 La Vojo 相沢治雄氏 (7) La Tagi ĝo エスペランティスト合唱団 (8) ダンスパーティ 全参加者 (9) インターナショナル 全員合唱 (当日由仁村 (町) から新田氏、岡本氏が合唱団をひきいて参加されこの記念祭に参加されたことは感謝にたえない。) (Cirkulero 4)

☆ 由仁町のエスペラント運動について

最大の貢献者、新田為男氏は1934年 (昭和9年) 苫工校生徒時代にエス語を学習。翌1935年春 日本エス学会の中等講習会に参加、講師岡本好次氏から直接の指導を受く。

東京から帰郷後直ちに、(1936年) 由仁町立三川尋常高等小学校の作業室で、地元青年団員10数名を対象に初等講習会を開く。以後、戦時対応のため中断、終戦復員後 (1945年) 由仁尋常高等小学校で初等講習会を開く。参加者は20数名、主として村立病院の看護婦、学校教員、役場職員等であった。1946年由仁保健所内でひらかれた初等講習会の参加者は40数名に達し、特筆すべきことは、1947年北大中央講堂のZ祭記念文化祭

にはこれら講習生によって編成された合唱団が参加して大に盛り上げたことである。

人口8千人だらうの田舎町で一時的にせよ、エス運動が燃えさかったのは、好運にも有能なエスペランティストが3人もいたことであろう。当時由仁町役場財務課長の新田為男氏と由仁尋常高等小学校の岡本義雄氏、町立病院長の今官之助氏である。

① (児玉氏記)

① 児玉広夫氏 1926年 (昭和元年) 岩内郡岩内町に生まれる。別名山彦英雄 Heroo Eho。北海道短期大学経済学科 (夜間部) 卒 1946年 (昭和21年) 由仁町でエス語を学ぶ。その時の初等講習会の講師は、由仁尋常高等小学校の岡本義雄氏と由仁町役場財務課長の新田為男氏のお二人。1947年北大中央講堂のZ祭記念文化祭に初参加以来、現在まで東京都、地方都市への転勤を除いて、北海道大会には例年参加
主な大会参加事例としては 1) 1956年、日本エスペラント運動50周年記念大会 (於九段会館) 2) 1965年第50回世界大会 (於東京都) 3) 1970年、第63回世界大会 (ブルガリアのバルナ市) 4) その他3度にわたる東京転勤中、日本大会、関東大会、関西大会に参加すること数回。

過去、現在の所属エス会名 礼エス会、道エス連盟、日エス学会員、UEA 会員、目黒エス会、ザメンホフ・グルーポその他 (児玉氏記)

7月4~6日 北アメリカ・エスペラント大会 (EANA) でマッカサーに国際通信要請願い。これは神戸の宮本新治氏がesp.による国際通信が日本の民主主義化に貢献することを説き、これの再開促進について各国の同士に呼び掛け、援助を求めたのに対する反響でアーカンサス州のP.A.Post氏の提案によるものである。(札幌で第11回エス大会でマッカサーに対する陳情書提出の決定のほうが早かった。) (R・O1947年12月号)
8月 原田三馬氏死去 1910年~47年 8月 北海道エスペラント連盟の結成に多大の貢献をした原田氏が釧路でなくなった。

9月号からJEA (日本エスペラント協会) はR・Oの紙上をかりて記事を発表することになった。 (R・O1947.9)

☆ この当時謄写版の原紙が粗悪でおまけにインキも悪く到底満足な印刷は出来なかった。30枚も印刷すると原紙にインキがにじんでしまう。おまけにインキが固まって字を書いた所が白くなり、丁度黒地に白で書いたようになってしまう。そんなことでこの当時の記録がすくない。(Cirkulero というのは前にMigranta Gazeto という回状を回して回覧していたが、思わしくないので雑誌にすることになりその名称をCirkulero としたのである。)

教科書が発行されないので、連盟でテキストを作った。然し前述の通りであったからろくなものはできなかった。UNUA LIBRO その他をつくったが出来であった。(相沢) 9月30日 戦後初めての大会第11回大会で決議された日本エス学会の会員名簿ができた。小樽会員27名 札幌17名 その他29名

★10月5日 第12回北海道エスペラント大会中止 北大中央講堂が予定されていた。(相沢が組合運動でいそがしく、おまけに地方出張に当たり中止せざるを得なかった)

地方情勢

函館 井上一氏は函館中学校でエス語講習会をしておられるとのことで受講生は約30名とのこと

札幌 文連で11月の行事としてエイゼンシュタインの名画イワン雷帝を上映することにした。HEL では約500枚を売り手数料500円の収益をあげた。(EL NORDO N-ro I)

★1948年

9月7日 北大エスペラント会再建

同士も数をましいよいよ正式に再建する事ができた。

10月10日 相沢は北海道新聞に「世界語とエスペラント」を書く

10月22日 相沢 道新に「北海道のエスペラント」を書く

★11月3日 第12回北海道エスペラント大会 札幌市中島 公民館(元豊平館)

労働組合会議議長 山田長吉氏(後市会議員、市会議長となる。1985年市会議長辞任する)よりメッセージあり。日本エスペラント協会特派員として三石 清氏派遣さる。

大会会長 医学博士 山賀 勇氏。

協議会議長 坂下清一氏。司会者 児玉広夫氏。受付及び庶務木村喜任治氏
開会宣言 児玉広夫氏 (1) 9.30 受付開始 (2) 開会の辞 (3) Espero合唱 (4)
準備委員長挨拶 相沢治雄氏。 (5) 大会会長推薦決定 (6) 大会会長挨拶 山賀 勇氏。
(7) 来賓挨拶 日本民主主義文化連盟北海道地方協議会 会長 杉之原舜一氏。日本エスペラント協会 事務局長 三石 清氏。北海道労働組合会議 若林 修氏
議題審議 第1議案 規定改正(省約)
第2議案 役員改選 委員長 山賀 勇。 常任委員 相沢治雄。委員 木村喜任治、浪越春夫、岡垣千一郎、坂下清一、佐藤徳治桑原 一、斎藤亀代三、児玉広夫
第3議案 北海道エスペラント名簿作成の件(可決)以下省約

北海道エスペラント連盟規則

(大会決議により常任委員会で成文化したもの)

1. この連盟は北海道エスペラント連盟(Hokkaido Esperanto-Ligo)といい本部を札幌に置く。
2. この連盟は北海道各地のエスペラント団体で組織する。但し地方会のない場合直接個人でも加入する事が出来る。
3. この連盟は北海道に於けるエスペラントの宣伝普及及び実用をはかり民主的な文化の向上に寄与し世界的な交流をはかる事を目的とする。
4. この連盟の目的を達成するため次の様な事業を行う。
 - a. 印刷物機関紙の発行。
 - b. 講演会 展覧会 講習会の開催。
 - c. 日本エスペラント学会、日本エスペラント協会 その他のエスペラント団体との協同
 - d. 内外諸文化団体、労働団体との提携。
5. 北海道エスペラント大会をこの連盟の最高決議機関とし年一回之を開催する。

6. 大会は決議を執行するため委員長一名、常任委員並に委員若干名を選出する。
7. 委員長はこの連盟を代表する。
8. 各役員任期は定期大会から定期大会までとする。
9. 此の連盟の会費は1名に付年額100円とする。
10. この規定は大会の決議がなければ変更する事が出来ない。

(1946年9月22日 決定)

(1948年11月3日 改正) (参加者47名江口氏調査)

(OFICIALA PROTOKOLO LA XIIa KONGRESO EN HOKKAIDO)

11月9日 文連でイワン雷帝上映、相沢、桑原出席

11月15日、第1回連盟常任委員会 浪越治療院にて

出席者、常任委員 相沢治雄、浪越、佐藤、斎藤。

第12回大会で決議された議案について。1) 大会事務処理、会計報告 2) Protokolo 発行打合 3) HEL機関紙の名称審議 4) 文化ニュース購入の件 5) 基金募集の件

6) 常任委員会開催期日 毎月15日とする事 7) 札幌エス会再建対策

(Cirkulero N-ro Ila)

12月15日 第2回連盟常任委員会 浪越治療院にて

第3議案となっていた機関紙の名称を El Nordo とすることになった。第4議案 全道エスペランティストの名簿を作成することになり用紙を配布する。

☆ 第5議案 国際連合に提出する署名運動を促進することを決議したが、HEL では札幌市長(高田富与)の外、大学教官15名(真崎教授取扱)各労働団体(私鉄総連、国鉄労働組合、北海道組合連盟その外から 332,000名を集めた。これは学会取扱分の22%にあたる。

☆ 学会三宅史平氏より感謝状いただく。・・・おかげで各地方会から集団署名がぞくぞくあつまりますのでこの模様でしたら世界の3位以内にはいるのではないかとおもっています。とりあえずおれいまで。・・・三宅史平 (EL NORDO N-ro Ia)

12月21日 第2回 浪越治療院に於いて

出席者 常任委員 相沢治雄、坂下、浪越、斎藤、木村、児玉、

1) 運動報告 2) 札幌エス会再建対策

12月25日 札幌 公民館でZ祭をかねて総会を開き役員改選す。

☆ ① 星田 淳氏この年からエスペラントをはじめた。

① 星田 淳氏 1931年札幌市に生る。1953年九大(工学部・電気科卒業)

JEI・MEM・UEA・HEL・TESに所属 '48 熊本で五高エスペラント会組織 熊本エスペラント会にも参加 '50九大Esp会組織。福岡ESP会。九州ESP連盟に参加 '53年以來北海道ESP連盟(HEL)に参加 '60年苫小牧ESP会組織 個人名で出した著書はないが Infano de l'Atombombo, '68 Hokkaido(観光案内) '72 Triumfo Cirka ŭ Tomakomai(苫小牧の観光) '79 Ainaj Jukarojがある。R・O. Leontodo. 新聞、雑誌、に投稿した回数は数えきれない。

12月 北大エス会再建 19日小樽Z祭相沢出席

地方会情勢

由仁エス会今官之助博士の外新田為男氏、岡本義雄氏によって戦後直ちに結成された。

12月25日 札幌エス会Z祭。

釧路エス会原田三馬氏中心となって結成された。

函館エス会昔のプロエスの同志等が中心となって盛んな活動が進みつつある。

北見エス会加藤英雄がイニシャティブを取り、北見エス会誕生。 (El NordoII)

12月27日 文連茶話会 相沢出席 連盟の必要性及び価値性を強調した。

(El NordoII)

★ 1949年

全道の会員名簿が出来た。札幌55名 小樽37名 由仁11名 函館5名 旭川4名 釧路4名 北見1名 夕張1名 他19名 北大エス会35名

此の年文教に加盟する。

道新に相沢「北海道のエスペラント」北海日日に「世界語と国際語」

小樽 Verda Haveno 3a 発行

1月1日 札幌エス会役員改選発表 会長 小松文夫氏 事務局長 児玉広夫氏 委員 相沢治雄氏 浪越春夫氏 斉藤龜代三氏 今村 元氏 定期総会の発表

9月19日 北海道大学新聞 学内エスペラント会の報告 1931年のエス会弾圧のころの思い出。 (R・0 11月号)

細井末夫氏エス講座 302名参加

★ 11月3日 第13回北海道エスペラント大会 札幌労働会館(これ以後式次第省略)。式次第は例年同じようなものである。特に重要なことだけを記す。相沢)

受付開始。開会の辞。準備委員長挨拶。大会会長挨拶。来賓祝辞。地方エス会代表挨拶。大会協議会(並びにHEL 総会。議長選出。地方エス会報告

議題審議 1、本部提出議案 2、地方会提出議案 1、役員改選。閉会の辞。

大会懇談会 (参加者49名江口氏調査)

11月15日 連盟常任委員会 北海道エスペラント連盟本部は札幌市南1条西4丁目子供の国にあった。

この年の会員数 札幌17名 小樽27名 函館21名 北見11名 由仁19名(但しエス協会会員も含む)

12月20日 小樽 まるいデパート日本間でZ祭

(小樽エスペラント協会機関誌Verda Haveno N-ro 5)

★ 1950年

4月 静養中の高橋達治氏元気に再び小樽に帰る。(Verda Haveno N-ro 5)

小樽 定例集会は毎週火曜日 山賀宅 (同上)

4月10日 ① 藤川哲蔵氏逝去 (")

① 藤川哲蔵氏 1903年小樽に生る。1950年病のため長逝。1918年小樽靈徳高等小学校卒業 同年小樽新聞社文選工となる。1925年22才初めてエスペラントを学び、その後小

樽エス会、仏教エス会等に活躍終始エス運動の中心となる。1947年新聞社統合のため札幌市北海道新聞社に通勤 1945年病をやしなうかたわら再建小樽エス協会のためにその死に至るまで力をつくす。

5月1日 北海道新聞に住山やす子「フランス通信文」写真入りで報道

5月3日 小樽エス協会丸井4階に於いてEsp-Ekspozicio開催 (Verda Haveno 5)

5月3日 まるいデパート4階エス展覧会幻燈映写

同日 小樽ユネスコ協会言語講座としてエス語初等講座開講 (Verda Haveno 5)

★ 8月6日 第14回北海道エスペラント大会 小樽 まるいデパート4階

札幌 4 小樽 13 由仁 4 その他名計23名 外に会費参加、未だ道内各地との連絡が充分とれないのは残念である。同日、横浜で開かれた第37回日本エスペラント大会に高橋達治先生出席、Ussaka先生始め多くの eminentaj es-pistoj を知り、又東京の学会も訪れてMijake氏の外の諸氏と語る。(VERDA HAVENO N-ro 6)

(大会の記事はこれだけであった。相沢)

12月4日 JEA(日本エスペラント協会)の解散正式に決定。今後はJEIを全国的な組織として、自由な活動をおしすすめるられるであろう。(R・0 1951年2月)

★ 1951年

小樽エスペラント協会日本エスペラント協会の支部となる。

(INFORMILO DE OTARU ESPERANTO-ASOCIO)

4月22日 小樽エス語初等講習会開催 毎週水曜日、土曜日 市立図書館 ユネスコ協会主催 講師 山賀 勇氏、① 早川 昇氏、高橋達治氏

① 早川 昇氏 1909~1982 小樽生まれ。慶大 在学中飯田忠純よりエス語を学ぶ。'49年小樽エス協会に参加 市立図書館員、昭和女子高校、小樽海員学校教師 日本詩人協会員 '52年以後Leontodoに度々作品発表、日本文化アイヌ文化に関する紹介が多い。Fakdelegito de UEA、自ら、民族調査のため道内、沖縄を巡った。日本語では「アイヌ民族」(岩崎美術社 '72年)がある。(星田 淳氏調べ)

★ 10月7日 第15回 北海道エスペラント大会 札幌 町村会館3号室

準備委員長 ① アリマ・ヨシハル氏 委員 相沢治雄氏 齊藤龜代三氏、児玉広夫氏、矢田貝紀雄氏

大会役員 大会会長 相沢治雄氏 司会者 児玉広夫氏 受付及庶務 齊藤龜代三氏

議事次第(省約)決議事項 (1) 社会科学用語のエス化を図りたい。提案者 小樽早川昇氏

(2) JEAから会員名簿を発行するように提案されたい。提案者 札幌 坂下清一氏
HEL報告と議題審議(HELの)は議題がなくて実施されなかった。参加者40名内不在参加者10名(参加者30名江口氏調べ)

(La Protokolo de La XVa Esperantista Kongreso en HOKKAIDO)

① アリマ・ヨシハル氏 1907年生まれ。公務員。1928年頃鉄嶺小学校の交友会雑誌にLa Primoloとでていたので抗議すると、それはエスペラントだと教えられた。講師満洲鉄道の淵田多穂理氏。終戦まで大連エス会、満洲エス連盟、1948年札幌エス会、公的な講習会をひらいたのは札幌にきてから。大連、満洲時代は研究会程度の講習会をひらく。1938年満洲エス大会に出席していた。カナモジ論者で一風変わったところのある人であった。新聞にはよく書いていたが、警察予備隊のことが問題になったとき(我々エスペランティストは皆予備隊に賛成しています。と書かれたのには困った。エスペランティストの中にも賛成の人がいますと言うなら分かるが、エスペランティストが皆賛成ではこまるのだ。多趣味の人で宇宙友好協会の会長もしていた。宇宙人は友好をもとめて地球にやってくるのだ。地球人がテレパシーを送れば、必ず宇宙船がやって来ると言う信念をもって、ある時蘆岩山に24人あつまってテレパシーをおくった、ところが一人だけそれを信じない人がいたのでその時はとうとう宇宙船は現れなかった。(相沢)

★ 1952年

7月 LEONTODO小樽で発行 最初は小樽エス協会でエスペラント文芸誌として発行されたものである。山本昭二郎氏が謄写版で印刷した。第2号は8月に発行されたが、表紙

がみごとな印刷であった。第3号からは益々豪華になり色彩印刷でこれが1969年の第40号までつづいた。

7月21日から札幌エスペラント講習会 月 水 金 人事院札幌地方事務所

講師アリマ・ヨシハル 相沢、① 徳田 実

① 徳田 実氏 アリマ・ヨシハルの友人で人事院につとめていたと思う。水泳の教師であったが水泳の講習会中溺死された。(相沢)

オハ丸の無線技師 樺太南北境界線から北寄りにオハ油田があった。船名のオハ丸これに由来するものと思われる。同船の所属社名は忘れたが石油に関係があったもので毎年数回は小樽へ寄航したように記憶している。(高橋要一氏)

8月19日 岩見沢初等講習会男10、女3 講師新田為男氏

8月27日 由仁エスペラントグループで男女混成合唱団 講師新田為男氏男4・女3

8月 オスロー大会 ① 高橋達治氏出席(LEO N-ro3号に記事がでている。)

① 高橋達治氏 1927年生まれ。海員学校教員 1949年山賀博士の初等講習会で、早川昇氏と共に参加。1951年以来毎年講習会をやっている。また別に海員学校で25名を養成したこともある。教育通信講座を開き1956年には25名参加した。

★ 10月13日 第16回 北海道エスペラント大会 札幌市北1条西1 市民会館(旧豊平館)

10.40 ~16時 司会者 児玉広夫氏開会の言葉。相沢準備委員長挨拶。大会会長の選出。山賀博士、大会会長の挨拶。地方会代表の挨拶と報告 a) 札幌エスペラント会 7月21日から1月間講習会を開催したこと、アリマ氏報告。B) 由仁 岩見沢市で講習会をひらいた。新田氏。c) 小樽 Leontodo発行の苦心談 高橋達治氏

北海道エスペラント連盟の報告 山賀氏 参加者42名。出席参加30名。欠席参加12名(江口調42名) (La Protokolo LA XVI-a ESPERATISTA KONGRESO EN HOKKAIDO)

☆ 高橋達治氏 阿蘇丸でアメリカ行き11月26日から12月28日まで。

12月15日サンフランシスコ、予て文通のあったヨセフ・R・シェラー氏に会うつもりだ

ったが、船が遅れて電話でF-ino H. Wolff にそのむね伝えてもらう。F-ino Wolff はエスペラントの教師をしている。"Bonan tagon"と叫んで僕の手をとった。F-ino Wolff である。ロスアンジェルスに到着ハリウッドにむかいS-ro Schererに会う。船の時間が無いので心配したがロングビーチ駅でS-ro Chomette が私を捜しにきた。感激的な一瞬であった。S-ro Chomette の家庭ではエスペラントを用いている。僕は同氏を船に案内して更に再開をやくして別れた。12月27日クリスマスからニューヨークへ。パナマからニューヨークのコーナー夫人に手紙しておいたから、きっといいことがあるに違いない。

ニューヨークに付くコーナー夫人の返事を期待していたが、船員に対する共産党員の検査に時間が掛り3時間しかニューヨークにとどまっただけでBaltimore へむかった。1月5日再びニューヨークに向かう。7時コーナー夫妻の手紙がまっていた。1月6日Ges-iroj Connerを訪ねる。地下鉄で十四番街の停車場でおりてやっと住所を訪ねる。S-ino Connerは立派な邸宅に僕を迎えてくれた。(LEO N-ro5.6.7.8.9.より相沢要約)
海員学校の教師であった氏は予め通信していた同志を訪ねたことがくわしくしてあるがこれだけを要約した。相沢)

12月15日 札幌Z祭。浪越治療院にて15名参集

この年のLEONTODO執筆者 山賀 勇氏 桐生育保氏、西里静彦氏、早川 昇氏、折内和男氏、相沢治雄氏、アリマ・ヨシハル氏、山本昭二郎氏、新田為男氏、坂下清一氏その他。

各地の動き

札幌 8月15日終了の初等講習会につづいて8月17日から中等講習。人事院2階所長室で毎水曜日

岩見沢 8月19日藤井沢司氏初等講習会。栄光会館 火 金受講者男10女 3講師 新田為男氏

由仁 8月27日から1ヵ月男女混声合唱団出席者男 3女4、講師新田為男氏。

(R・O1952年10月号以上3つ共)

10月小樽エス協会会員数 39名 (客員小樽市以外に居住)16名

札幌エス会 12月現在60名

細井末雄氏エスペラント教員免許授与さる。

★ 1953年

5月 Leontodo N-ro 6 相沢 北海道エスペラント運動の初期の事柄を「埋火」の題名で書いた。

5月17日 高橋達治氏 関西大会出席

★ 10月11日 第17回北海道エスペラント大会 小樽市労働会館

大会議長相沢氏 挨拶 早川氏土岐氏及び三宅氏のメッセージ代読 函館の吉田氏、小田島氏札幌の斉藤龜代三氏 辻 靖子さんの手紙による挨拶 電報 函館 井上一氏 筈春別 岡本氏 各地代表の挨拶 札幌 アリマ・ヨシハル氏 加藤孝一氏 由仁 新田氏、小樽 山賀博士、苫小牧 星田氏 提案LEOを機関紙とすること、連盟の記事を載せる権をつくる。提案連盟本部を札幌市上白石二区相沢方に移す 参加者札幌13名小樽16名由仁4名その他4計36参加者36名内不在参加2名(江口調36) (LEO.N-ro 8)

☆ Leontodo12月号高橋氏のニューヨークの記事星田氏の大会の記事17回大会の報告

12月19日 札幌エスペラント会Z祭9名出席 (LEO.N-ro 8)

★ 1954年

8月10日 小樽にアメリカの貨物船員無線技師J.Berry 来る。北海ホテルで山賀先生、江口氏、早川氏と懇談す。 (LEO.N-ro11)

★ 9月23日 第18回北海道エスペラント大会 札幌野村会館

10.00 受付開始。司会者児玉広夫氏開会宣言。準備委員長相沢治雄氏 挨拶。大会会長高橋達治氏挨拶。自己紹介と報告。1)札幌エスペラント会 アリマ・ヨシハル氏 2)小樽エスペラント協会 早川 昇氏 3)由仁エスペラント会 新田為男氏。

北海道エスペラント連盟の報告と議題審議

相沢準備委員長より報告つづいて議題審議にはいる。

- 1) LeontodoをHELの機関紙とすることについて (札幌 アリマ提案) 可決
- 2) HELの規約改正について (厚真 菅原提案) 可決
- 3) 会費の額と納入法について (札幌 アリマ提案) 可決
年額400円とする。izolitaj membroj は振替で連盟に納入すること
- 4) "世界の子ども"への協力について (苫小牧 星田 淳提案) 可決
- 5) 小学校への啓蒙運動について (札幌 橋内和夫提案) 連盟委員長一任
- 6) 7) (省約)
- 8) 原水爆禁止の決議について (札幌 相沢提案) 常任委員会に一任
役員改選 (省約)

第24回日本エスペラント大会の8ミリ映画とスライドの映写

大会の8ミリは戦後の多くの同志には最初のものであった。星田 淳氏のすぐれた解説により「ザメンホフの生涯」その他が映写された。その後懇談にうつり解散。

NHKの見学 希望者は16.30 から木村喜任治氏の案内によって札幌中央放送局を見学。

参加者50名内欠席17名

(OFICIALA PROTOKOLO LA XVIII HOKKAJDO ESPERANTO-KONGRESO)

10月18日札幌、坂下宅で会合

小樽市汐見台町一 小樽海員学校内エスペラント研究会 エスペラント通信教育

11月23日 由仁小学校で町教育委員会主催で国際児童画展覧会を開く。児童画、絵葉書、観光案内書、書籍等。児童画 8ヵ国から56枚、絵葉書25ヵ国より150枚

(LEONTODO N-ro 11)

小樽エスペラント協会 スウェーデンのカールスコーガで開催された国際児童画展に小学生の絵画を出品する。早川 昇氏の協力による。 (LEONTODO N-ro12)

'54年 LEONTODO N-RO 9 に由仁の名簿あり。由仁エス会27名

11月23日 由仁エスペラント会では、由仁小学校で町教育委員会主催の小中学校児

童の絵画を出品する。早川 昇氏の協力による。

(LEO.N-ro12)

'54年 LEONTODO N-RO 9に由仁の名簿あり。由仁エス会27名

11月23日 由仁エスペラント会では、由仁小学校で町教育委員会主催の小中学校児童、生徒及び一般の書、画、写真、手工業作品の展覧会を開催した。

小樽エス協会の山賀先生、早川、高橋名氏の協力を得て、外国の児童画、絵葉書、書籍をかりて、それに新田氏所有のものを加えて児童画8ヵ国から56枚、絵葉書25ヵ国から150枚あり効果的であった。

(LEO.N-ro11新田記)

★ 1955年

1月 Leontodo 11月号から連盟の機関誌となる。連盟本部を坂下宅に移す。アリマ・ヨシハル、坂下清一、早川 昇氏、山賀先生、新田為男氏、星田 淳氏、江口氏、山本氏、相沢等が此の当時執筆したいた。

坂下氏が(R・Oによる北海道のエス界)と言う記事を掲載し1960年(LEO.N-ro23~24)まで8回掲載した。これは重要な記事である。

2月20日 Leontodoが連盟の機関誌となったのでつぎのような記事をのせた。

☆ 連盟の機関誌と入会についてのお願い。

HEL 書記長 相沢治雄

昨年(1954)の9月23日札幌市で開催された第18回全道エス大会の協議会に於きまして、小樽エス協会発行のLeontodoを北海道エスペラント連盟の正式な機関誌とする事を決定確認しました。Leontodoについては皆様既に御承知の通り1952年小樽エス協会の機関誌として発行され、その内容と印刷技術の優秀さによって全国的に知られ又、一昨年度の岡山に於ける第40回日本エスペラント大会に於けるGazeto-konkurso では最高のPremioを与えられました。現在の日本に於ける最高のEsperato地方誌であります。(後約)

(LEO.N-ro11)

5月11日 小樽 毎水 5時半から2時間講習会 講師山賀 勇氏、高橋連治氏

★ 10月2日 第19回北海道エスペラント大会 小樽 水天宮

連盟会長 坂下氏挨拶 (代理 相沢氏)。議長 アリマ・ヨシハル氏。地方会 挨拶、

並びに報告。小樽 高橋達治氏 エスペラントの通信教育をはじめられたとのこと。
早川氏の努力によって花園小学校の出品画がカールスコーガで入賞したこと等 午後2
時半水天宮より車で銀鱗荘にはせて、水産記念館を見学。参加25名欠席者3名

(江口調24名) (LEO.N-ro13)

12月26日 小樽 ① ドリス・ウースター夫人来る

ソマリ号で帰国途中のウースター夫人を迎え、医師会館日本間で歓迎座談会、札幌の相
沢も参加、出席者29名

① ドリス・ウースター夫人 ロンドンに住所がある。御主人が逝くってから自分が
死ぬまでの生活費を除き、後は全部旅行にあてている。英国人は長命だから恐らく100
才位までの生活費であろう。英国心靈学会会員。なくなったご主人と時々交響会で話を
しているとのこと。死んだ出口王仁三郎氏とも話したこともある。日本に来ることをな
ったのも出口氏の霊の知らせがあったからであるとのことである。これは二度目の来日
であると思う。

この頃から外人が年に2~3回は北海道に来るようになった。特に有名な人、または
重要な事柄以外は記さない。

12月6日 北大で学生15名のため講習会 講師はアリマ・ヨシハル氏

この年の連盟会員数66名

★ 1956年

3月13日 岡本好次氏死去 告別式は3月25日に執行

5月18日 坂下宅でエス会

7月 LEONTODO地方会だより (LEO.N-ro15~16)

室蘭 4月14日Z 記念祭当日 ① 平田氏を中心に共同学習会を続けることになった。

市立図書館 第2・第4・金曜日 (LEO.N-ro15~16)

① 平田岩雄氏 明治43年(1910年)札幌(区)市北4条西2丁目1番地に生まる。

旧制中学中退 昭和3年(1928年)3月庁立札幌第2中学 4年終了

昭和8年(1933)4月独習始める。何度となく中断今日に到る。現在JEI, UEA,
KLEG, HEL会員

各地方会情勢

札幌 4月14日 日本エスペラント運動50周年記念のZ祭に当たるので在札幌の新
旧サミデアーノが集まり大いにエスペラントで語りあった。当日及び翌日の北海道新聞
に相沢氏に依って「エスペラントの実用性」について連載された。後日、札幌、帯広、
釧路からエス語についての問合わせあり。

5月27日から毎日曜日大通公園で歌と会話の練習会

6月12日 日本エスペラント運動50周年記念日には豊平館で旧エスペランティストを招き
座談会を開催した。 (LEO.N-ro15~16)

由仁 同志大分減った様子。

北大エスペラント研究会

5月7日から毎月曜日学生57名に初等講習を。宮原将平氏参列出席者41名

8月1日エス語講習会

9月15日北大80周年記念祭に、エスペラント講演会、展示会を開く予定

藤女子短大エスペラント研究会 クラブ活動として「エスペラント研究会」が加えら
れた。11名参加秋の文化祭にエスペラント語に関する展示会を目的にしている。

小樽エスペラント協会

1月16日 世界連邦の三村光郎氏来樽。早川氏直行寺、正行寺で5月17日から「小樽仏
教エスペラント研究会」の講師を勤める。 (LEO.N-ro15~16)

9月6日 アルゼンチン。スコルニック姉弟来札。GedoktorojでアルゼンチンのUEAの
Delegito アリマ氏が訪ねる。グランドホテルやその他のホテルを捜したがどうしても
わからない。しまいに苗穂の都旅館という貧弱な旅館に泊まっていた。靴下をはいてい
ない。泊まるだけで食事はパンか何かを買ってきてたべていたそうである。

7日白老のアイヌ部落訪問、函館一泊青森をへて帰路につく。2年間旅行している。

アリマ氏は彼等が札幌を離れる時、見送りでできず、坂下だけ見送る。(LEO.N-ro17)

★ 9月23日 第20回北海道エスペラント大会 札幌市 北海道町村会館

準備委員長 アリマ・ヨシハル氏 委員 高橋要一氏 相沢治雄氏 坂下清一氏

① 西里静彦氏 大会会長 坂下清一氏 司会者 高橋要一氏 (1)10.00 受付(2)大会その1 (3) 記念撮影 (4)大会(その2) (5) 懇親会 由仁新田氏病気の為・代理の泉谷昭典氏からの報告・藤女子短大 ② 永田明子氏学校祭にエスペラントの展示会 世界連邦のこと話題にのぼる。決議事項。規約改正、役員改選 委員長 坂下清一、事務局 長 相沢治雄。出席者57名中欠席参加27名(江口調57名) (LEO.N-ro17)

① 西里静彦氏 '36年生まれ。当時北大学生'52年札幌人事院の講習会にでて相沢、アリマ氏、児玉氏にエス語を習う。目下北大で講習会を催し60名位あつまった。後アメリカにわたる。

② 永田明子氏 '35年中国(旧満洲国)東北都撫順市に生まる。札幌藤女子短大英文科卒業後、北海道平取高校の講師をはじめ、さまざまな仕事に従事、'65年世界連邦建設同盟主催の世界平和に関する全国論文コンテストに1位で入選、プレミオとしてサンフランシスコに旅行、'68年世界エスペラント協会(UEA)本部勤務のためオランダに渡る。'72年オランダ人ウースク氏と結婚、'77~79年オランダエスペラント協会会長。現在は「国連と私たち」の編集長として活躍中

10月27日 江別エスペラント会講習会の最終日にあたり、札幌の同志10名を招待、松尾文夫氏 Cefsekretarioとなり江別エスペラント会発足す。

出席者 相沢治雄、アリマ・ヨシハル、後藤義治、西里静彦、有馬一郎、有馬ツギオ、永田明子、福島昭子、佐藤由起子。(LEO.N-ro19)

11月9・10・12日 東京で日本エスペラント運動50周年記念第43回日本エスペラント大会

12月23日 札幌 日の出会館でZ祭 (R・O1957年 2月号)

三田智大氏 JEA(1906年創立の日本エスペラント協会)時代から活動しているエスペラ

ンチスト30数名が表彰をうけた。この時三田氏も表彰された。(R・O1956年12月号)

各地情勢

札幌 ヒラノ荷礼工場事務所(高橋氏の事務所)で毎週木曜日開例会をいっている。

(LEO.N-ro18)

北大エス研究会で4月「Fronto」を発行した。会長松田勇三氏(経3) 副会長 西里静彦氏(文3)

小樽 12月25日 Z祭 山賀眼科診療室に於いて開催した。参加者男女20名

例会は毎週水曜日山賀眼科にて。

室蘭 平田氏を中心に研究会続けている。

北大 新学期を迎え新に研究会の方も準備中である。

藤女子短大 英文科 2年の高橋、小西嬢等に依って運営することになった。

(以上LEO.N-ro18)

★ 1957年

7月1日より1ヵ月 月 水 金 札幌YMCAで講習会 講師 札エス会長 相沢治雄氏 学会支部長アリマ・ヨシハル氏 北大エス副会長 西里静彦氏

7月2日 小林 司氏来札茶話会を催す。

各地情勢

江別 9月下旬にポスター宣伝を行い、10月7日から10月27日まで月火金最終日には江別製粉KKの日銀荘で江別エス会の発会式を行う。出席者 相沢、高橋(要)、アリマ、後藤、西里、有馬一郎、有馬ツギオ、永田、福島、佐藤計16名

札幌 豊平5条9丁目道堂アパート933 高橋要一方で。毎週木曜日F-inoj 4~5名S-roj 5~6名。会話、解説、作文 (LEO.N-ro19)

★ 9月22日 第21回 北海道エスペラント大会 小樽産業会館

準備委員長早川 昇氏の挨拶。相沢氏大会議長に選ばれて挨拶。各地方会代表が挨拶と報告。札幌、アリマ氏。小樽、高橋達治氏。由仁新田為男氏。室蘭、カモ・セツコ

嶺。函館、吉田 栄氏。北大、西里氏。

HEL 坂下会長欠席のためアリマ・ヨシハル氏報告。議題特になし。

地方会報告

1) 札幌 相沢治雄氏 2) 小樽 高橋達治氏、3) 由仁 新田為男氏 4) 室蘭 カモ・セツコ嬢 5) 函館 吉田 栄氏 6) 北大 西里静彦氏 7) HEL アリマ・ヨシハル氏
議題特になし。3時旭山展望台に登る。参加者30名欠席参加 2名 (江口調30名)

(LE0.N-ro19)

★ 1958年

2月23日付け北海タイムスに参議院議員 東 隆氏が「忙中閑あり」「難しすぎる日本語」の題で記者との対談がでた。今回氏はJ E Iに入会された。(LE0.N-ro20)

5月 北大エスペラント会が日本エスペラント研究会の機関誌担当となりAnta ŭ en 29号30号を発行した。

★ 8月9日10日 第22回北海道エスペラント大会 札幌 産業会館

カニヤ書店 中原裕司氏参加 参加者47名不参加者17名 計64名

第1日 学力検定試験。試験官 坂下 相沢 星田3氏 大会の前に行う。

閉会挨拶 (司会者) 高橋要一氏。準備委員長挨拶 坂下清一氏。

大会議長選出 議長挨拶 (議長) 吉田 栄氏。

祝電披露 九州エス連盟、福岡エス委員会、函館 井上氏、三笠 岡本氏、上厚真 菅原氏。

地方会報告 小樽 早川氏、室蘭 佐々木氏、苫小牧 (鉄道ストにより未着) 由仁 新田氏 江別 松尾氏、函館 吉田氏、北大 西里氏、札幌 アリマ氏、学大 山崎氏

議題審議

1 各学校に於いてEsperanto を正課として採用する事及びEsperanto の教員免状を出すように道教委に折衝することについて。西里氏提案 賛成多数可決

2 来年度の大会に場所に就いて。アリマ氏提案 賛成多数にて札幌に決定

3 晩餐会の時若い人の懇談会をひらきたい。カモ・セツ子氏提案 議長のちほどJuna kunsidoをひろくことにします。

自己紹介 時間がないため土地と名前のみ。中原氏の挨拶、はるばる京都から来られた中原氏の面白い話を聞く。

懇親会 室蘭エス会のマリオネット、西里氏のギター独奏 札幌エス会の合唱テープコーダの鑑賞会。室蘭の会員による人形劇、札幌会員による合唱

晩餐会 映画鑑賞会 ノブゼランド・農民の先駆者・カムイシベの道

閉会の辞 高橋司会者

第2日 10日9時 産業会館前に集まり市営バスで桑園の博覧会場にむかった。参加者65名 (江口調)

京都の① 中原氏の挨拶 1931年エスペラントが生まれて50周年記念大会にポーランドのワルシャワに行ったときのこと。大学の先生や友人にヨーロッパに行くと言いつたそのうちにどうしても行かなければならなくなった。金をつくり、暇を造りしていった。

それから12~3年前、若いエスペランティストがやってきて古い絵画をあづけていったが、北海道の人というだけで何処の誰かわからない。もしその人にあつたらその画をお返ししたい、といった。そのときそれは私ですと相沢がなのりでた。その絵画は間もなく返送された。

(LA 22a KONGRESO de HOKKAIDO ESPERANTISTOJ Oficiala protokolo)

① 中原裕司氏 1894 ~1960 静岡県丸善書店員として東京・京都に勤務 '19年新村出の命名によるカニヤ書店開業、化学、薬学の専門書を出版、戦中消費組合運動、戦後、社会党入党、民社党京都府連役員 '14年Es学習、ローマ字論者、'21年八木日出雄らと協力、大衆書以外に医学・化学・簿記などのE書出版、レコード作製、事務所をEs運動に提供、京都の中心となる。'34年"Tempo"創刊'40編集者野島野安太郎と共に後学、戦後K L E Gの副委員長)

7月 小樽エス会の動き (入門講座) 小樽エスペラント協会7月終わりその後中等部会

大会の後10日山賀眼科で映写会を催す。10名出席

9月26日 室蘭エスペラント会誕生す。加茂郎子嬢の努力による。(LEO.N-ro21~22)

12月14日 札幌エスペラント会Z祭 坂下清一宅 13名出席 小樽から電話で祝辞
各地方情勢

小樽でも同日ザメンホフ祭あり。14名参集

札幌 J. J. Kunsidoは高橋宅で12月4日まで。(同)

地方会動静 札幌木曜会変化なし。永田明子さんが平取の平取高校の先生になり札幌をさりKunsidoの引立て役であっただけに、さびしくなったようだ。豊平の高橋宅で集会を行っている。

小樽 山賀先生宅で集会している。Z祭に古い同志 岡崎茂春氏が中共視察の話などあり。10名位。

苫小牧 第1回講習会は立消となり、第2回王子労働会館で20名位。

札幌 北大エス会 暫く沈黙していたが5月12日から初等講習会開催西里氏が指導にあつたている。北大エス会の雑誌"Fronto"第1号発行 (LEO.N-ro20)

★ 1959年

3月31日 ドリス・ウースター夫人来札。北海道新聞社訪問、相沢、西里同行。

4月2日 ドリス・ウースター夫人市内案内

相沢、と西里氏2人で市内を回り英国心靈学会員であると言うので招待を受け御岳教会に行く。御岳教会では英国の心靈学の話を書きたいと言うことであつた。

心靈学の話は難しいので始めはエスペラントで話していたが、とうとう英語で話すことになりウースター夫人は英語で話をし西里氏が通訳した。

始め日本では心靈学の話をしていても良いのかと夫人に念を押された。国により禁止されている所もあるとのことである。次にそのときの記録を記す。

御岳教会で心靈学の話をしたことがある。(通訳西里氏)交霊会の話をする。
あるときの交霊会で遠くに住んでいる人があらわれた。その人は未だ生きてはいるはずだ

だったので「貴方はまだ生きていないか?」と言うと実はもう死んだのだと言つた。あるときは交霊会場が金色に輝いていた。トランペット(昔はABCをかぞえてとまった時のABCを記録する方法であつたが今ではトランペットと名付たものが空中をまわつてものを言うとのことである。)が、自分の所にきて膝の上にとまった。そしてそれが去つた後国連の数がしるされた十字架がのこされた。これは他人に触らせてはならないと言うことであつた。人が触ると壊れてしまふと告げられたそうである。壊れると言うのは物理的に壊れるのか靈的能力が無くなるのか聞かなかつたが、恐らく後者だとおもはれる。(相沢)

5月20日 NovzelandoのFred Hart ①フレッド・ハート氏が来札。レストラン石田屋で歓迎夕食会、参加者予想外に多く14~5名位であつたようである。ニュージーランドの原住民マオリ族の関連からアイヌ民族に興味をもつていた。当夜は木下先生の近所の旅館に一泊したが、後に白老を訪ねてアイヌ関係の風物を見学した筈である。「ニュージーランドは宏大で人口が少ない」と言つたから「日本から移民を受け入れたらどうか」と言つたら「勤勉な日本の移民を入れたら国を乗っ取られるから駄目だ。イタリーとかドイツとか他の国からならよい」と返事があつた。(高橋要一氏)

① フレッド・ハート氏 Novzelandoの商人、金持である。君は金持だね。と言つたら貿易商をしている。ニュージーランドは人口が300万人で、一人当たり牛が2,000頭、羊が何万頭いる。まして貿易商をしている私が貧乏であるわけが無いではないか。少し節約すれば一人位日本から招待することができる。君はニュージーランドに来る気持はないか?といはれたが、何とも返事の仕様がなかつた。アリマ氏と市内を案内した。(相沢)

6月2日 相沢北海タイムスに「札幌エスペラント会」を書く

7月31日 札幌講習会終了式

8月18日~23日 札幌 エスペラント図書展覧会 ザメンホフ博士誕生百年記念図書展覧会が札幌丸善支店で開催された。観客130名、次は小樽、室蘭で開催する。

(LEO.N-ro23~24)

8月21日 中原頼司氏から絵画返送の返事あり。昨年の大会の懇談会で話が行われた。

★ 8月23日 第23回北海道エスペラント大会 札幌市民会館

西里氏開会宣言。準備委員長挨拶 相沢氏。大会会長選出 新田氏に決定。大会会長新田氏挨拶。祝電披露、井上一氏、小田島栄氏、伊藤清一氏以上3通。地方会報告、函館

(原稿未着)、室蘭平田氏、苫小牧(原稿未着)、小樽 高橋達治氏、由仁 泉谷氏、江別 松尾氏、北大 西里氏、HEL 高橋要一氏、札幌 アリマ氏、此の1年間に来道れた外国の方々の報告 相沢氏。午後の部 議題審議 来年度の大会開催地について 室蘭と決定。役員改選 岩見沢 武田二郎氏 その他同前。自己紹介 Amuzoの西里氏のギター独奏によって「禁ぜられた遊び」「Romanco de Amur」函館の吉田氏の詩の朗読 Klementino Pašante tra l'Herbar' を皆で合唱 (参加者57名江口調)

(LEO.N-ro23~24)

9月8日から10月28日迄 室蘭第1回初等講習会を開催受講者20名講師 菅原氏、平田氏。

(LEO.N-ro24)

12月12日 札幌Z祭花月堂

12月26日 室蘭 ザメンホフ祭を開演家で開催。12人参加。(LEO.N-ro25~26)

★ 1960年

4月26日 ① S-ro Tibor Sekerij 来札幌の出会い館で歓迎会。北大宮原教授と小樽の早川氏参加

① Tibor Sekerij 氏有名な人類学者、ユーゴのザグレブ大学卒、ユーゴ国立地理学会委員。札幌にきたとき、アイヌのことを知りたいということで木村喜任治氏が案内し、河野博士をたづねた。然し十分な説明がなされないと言うので、児玉作左衛門氏をたづねた。二人はドイツ語で話した。苫小牧では星田氏が平取や二風谷、白老に案内した。30日は加茂さんの案内で登別へ、その夜は室蘭市内初音で歓迎会10名位あつまった。4月27日スライド講演会(18時~20時)札幌市民会館 2号室 通訳西里氏 食人種の子孫

の生活、4月28日 ① 吉原先生宅に一泊3000個の活字のある日本タイプライターを見学してゆく。(LEO.N-ro23~24)

① 吉原正八郎氏 1919年札幌市に生まる。1941年中央大学法学部卒業 1958年エスペラント学習 著作書「世界政府の基礎理論」1962年理想社発行 札幌エスペラント会会長

★ 8月21日 第24回北海道エスペラント大会 室蘭 産業会館

10.35 開会 室蘭佐々木氏の司会で開会宣言。Espero合唱。準備委員長挨拶 平田岩雄氏。議長選出 札幌相沢治雄氏選任せらる。議長挨拶 相沢治雄氏。祝電披露 佐々木美氏、ポートランド、滝川 岡本義雄氏、日本エスペラント学会、釧路の旅行先より札幌の吉原正八郎氏、函館の小田島氏。自己紹介。

地方事業報告内容

1) 函館エスペラント会(通訳 星田 淳氏)今春から週1回木曜会を持ちエスペラントだけで話している。戦後エス会は組織されずエス運動も長い間中止されていた。然し今度会合を持つことが出来同志獲得の道が開かれた。

2) 小樽エスペラント協会 高橋達治氏(通訳星田氏)春に初等講習会開催、小樽市立図書館 講師 山賀先生と高橋達治氏 4月S-ro Sekerijが来樽。山賀先生の通訳で図書館で報告会。80人参加。1965年の世界エスペラント大会参加に備えて積立貯金をはじめている。

3) 札幌エスペラント会 永田明子氏(通訳星田氏) 現在会員34名。世界児童絵画展を計画中 NHKより譲り受けた絵画約500点を13ヵ国に発送し、今迄にデンマークとアメリカから返事を貰っている。

4) 北大エスペラント研究会(西里氏欠席のためかわって木村喜任治氏) 役員改選5月に行はれ、西里氏が退き新会長に橋本氏が選ばれた。5月中旬から1ヵ月間 北大センター八角堂初等講習会開催、11名参加した。

5) 江別エスペラント会 松尾文夫氏(星田氏通訳) 現在会員4名 毎週木曜日に松尾氏宅で例会

6) 由仁エスペラント会 新田為男氏(星田氏通訳) 岩見沢商工会議所で10月より2ヵ月間講習会を開き35名程受講者があった。最後まで残ったもの15名位。

7) 苫小牧エスペラント会

星田氏 唯一の活動は国際通信だけ、4月の末 S-ro Sekelijを白老に迎えた。

9月15日 苫小牧エス会第1回初等講習会17名参加 星田氏

8) 室蘭エスペラント会 平田岩雄氏 昨年8月28日から10月30日まで3日間市立室蘭図書館でザメンホフ博士生涯100年祭記念図書展示会を開催 観客130名 9月8日から10月20日まで富士鉄労働会館で第1回初等講習会を開催。4月28日～5月1日S-ro Sekelijアイス部落訪問 加藤他5名 1959年5月学会室蘭支部を結成

9) HEL 高橋要一氏 LEONTODO 1回出しただけ、原稿あつまらず困っている。

役員改選。23回大会の役員留任(委員長、坂下清一、事務局長、相沢治雄。常任委員。アリマ・ヨシハル、高橋要一、西里静彦。委員、山賀 勇、高橋達治、平田岩雄、新田為男、竹吉正広、菅原鉄雄、吉田 栄、星田 淳、武田二郎、松尾文夫。

協議会

1964年東京で行われるオリンピックに関するものが多かった。

懇親会、合唱。室蘭、札幌。自作詩の朗読。エス詩の朗読 相沢治雄氏。独唱 北見イトウ セイチ氏 閉会 (LEO.23~24号)

参加者41名外欠席参加23名計64名(江口調64名)

各地情報 25回大会報告分

札幌エスペラント会

9月10日 札幌ESP弁論大会及び講演会を小樽エス会と共催(市民会館)

講演「ESPについて」吉原SES会長。弁論大会、小樽1名、札幌5名参加、審査員は相沢、山崎、アリマの各氏を委嘱 (LEO N-ro25~26)

9月23日 定山溪へ遠足(参加者8名) (")

11月20日 イランのS-ro Labid歓迎会(吉原法律事務所) (")

11月23日 S-ro Labidの招待に応じてS.E.S.会員6名でその宿舎パハイ・センターを訪問 (")

12月15日 札幌Z祭(市民会館、参加者17名) (")

★ 1961年

★ 7月23日 札幌 第25回北海道エスペラント大会 札幌市中島公園 豊平館大会議室

高橋氏の司会で開会。準備委員長 相沢氏挨拶。大会議長の選出、協議の結果相沢氏選出。議長相沢氏挨拶。祝辞。祝電の披露 小樽、室蘭、更別、イトムカ、樺津、東京、函館等22氏

自己紹介の後地方会報告内容

(第25回北海道エス大会報告はLeontodo N-ro25~26に1960年度分より1961年度分迄記載された膨大なものであったのでそれぞれの欄に記すことにした。)

苫小牧エスペラント会

9月15日から第1回初等講習会。17名参加、12~3名残る。 (LEO N-ro25~26)

室蘭エスペラント会

毎週金曜日午後6時から8時まで富士鉄労働会館で例会を開催。出席者12人。

札幌エスペラント会 吉原正八郎氏

2月 札幌アルゼンチン、エスペラント協会及びアメリカ、ポートランドと文通

3月16日 北海道新聞、取材のため木曜会を訪れる。

3月18日 道新に「グループで楽しく」欄に木曜会の模様写真入りで報道される。

3月23日 札幌講習会開始(吉原法律事務所、毎週木曜、講師は高橋、木村。エスペラントを学びたい人が増え、応急処置として木曜会を2部づくり、一方で講習会を始める。

4月7日ドイツのS-ro Gunkei氏歓迎会(吉原法律事務所12名参加)

4月8日札幌 S-ro Gunkeiを白老まで案内

4月13日 札幌Z忌並びにSES総会 木下三四彦氏参加 会長に吉原氏再選
5月28日 第1回朝のPromenada kunveno 毎日曜日9時三越デパート前に集合、
その時に応じて各所を散歩しながら会話の練習がその目的
6月22日 磯部幸子氏木曜会に出席
7月12日 Ges-roj Cornet来札
8月下旬 西里静彦氏アメリカに研究のため留学決定
北大エスペラント会 西里静彦氏

最近忙しいので会長を橋本氏になってもらった。然し組織の運営がうまくいかず、学生クラブのリストからエスペラント会は消されてしまった。6年間好意をもってこられた諸君に感謝いたします。

苫小牧エスペラント会 星田 淳氏

4月13日 苫小牧エスペラント会結成。HEL 加盟。
5月19日から第2回初等講習会 参加者17名。1961年から初等終了者で中等講習。
7月14日、会員4名その他3名で羊蹄登山をやった。8月には大雪縦走、
室蘭エスペラント会 平田岩雄氏

4月8日 S-ro Gunkel の歓迎会を平田宅で開催、8名参加
5月9日、10日 室蘭、両日国鉄労働東室蘭分会の労働文化祭にエス文通による絵ハガキ、手紙等を展示
5月14日 室蘭エス会苫小牧エス会と合同で登別クッタラ湖にエクスクルソを実施。参加24名
6月14日～15日 室蘭工業大学明徳寮記念祭に同じくエス文通による絵ハガキ、手紙、エス原書等展示。いずれも高評を博す。なお、会の事業でないが、会員村木昭徳君が7月10日から1週間長野野辺山で開催の会話訓練の合宿に参加した。

藤短期大学エスペラント・グループ 山崎久蔵氏
小樽エスペラント会 江口音吉氏

江別エスペラント会 松尾文夫氏

記念撮影 午後1時30分大会協議会

大会協議会 1) 北海道観光用Gvidlibro の編集、その発行。(小樽 早川 昇) 2) 緑星章の改良をJEI に勧告する件。(札幌エスペラント会) 3) 1965年に東京で開催される世界大会の前に北海道で日本大会を開催してはどうか(更別村親和 辰己清美氏) 4) (省約) 5) 東京オリンピック参加の外国選手に対しESP を学習して来るように働きかけよ。(札幌 木村喜任治氏)

HEL 総会議題。相沢事務局長議長となり議題の審議にあたる。

HEL 会費の問題。HEL 機関紙の問題。Leontodoを廃止して季刊Informilo 程度のもの発行してはどうか。(札幌 木村喜任治氏) 委員会付託

HEL事務所変更に関して 札幌エス会会長吉原正八郎氏の承諾を受けることができれば変更することに決定。

新事務所予定場所 札幌市南1条西12丁目青藤ビル 吉原法律事務所 気付

HEL役員改選

委員長 坂下清一(札幌)

副委員長 吉原正八郎(札幌)

事務局長 相沢治雄(札幌)

常任委員 星田 淳(苫小牧) 菅原鉄雄(室蘭) アリマ・ヨシハル 木村喜任治
永田明子 高橋要一(札幌)

委員(省約)

全日程終了懇親会に移り、午後4時30分明年の再開を約し散会した。

出席参加35名 不在参加21名 計56名(江口調56)

★ 1962年

1月4日 ① 脇坂圭治氏肺癌のため死去

① 脇坂圭治氏1906年～1962年死去 花園高小卒 小樽貯金局。当時官憲の圧迫で失敗。

岸鉄工所に移り岸鉄工所内でエス語を普及し、小樽のエス語の発展に寄与した。1932年エス語独習。アイヌ伝説紹介、手宮古代文字紹介などR・Oに発表。1935年を中心に小樽仏教エス会を指導、「慈光」誌に、Eについて執筆し又'55年囲碁創作、翻訳作品をLeontodoに発表 1955~1958年の間にEによる外国文学作品紹介を北海タイムスなどに度々寄稿。1953年以後創作、翻訳作品を次々とLeontodoに発表。非常に古い同志である。小樽として、いや日本のエスペラント界の大きな損失である。

(LEO.N-ro25~26)

3月24日 札幌 Mondvida Tago (世界理解の日) ポートランド、その他世界各国と同日に集会を持ち世界的にものを考えるという催しである。ポートランドから会長の手紙、外色々な物が送られた。(同上)

★ 7月21日22日 第26回北海道エスペラント大会 苫小牧 産業会館

第1日21日 前夜祭をかねる。25名泊まる。(山男の歌)の練習、テープに吹き込んだりして10時半ころまで騒いで議題など整理したあとでねる。

第2日22日 8.00から会場に集まる。9.00受付開始 茂庭さんの開会宣言 準備委員会が無いので北島さんが議長役をする。大会議長として相沢氏がおされた。自己紹介と報告を大抵エス語でやった。祝電披露。

地方会報告

札幌 永田巖。1961年11月25日定山溪へ15名'61年12月15日ニシリンで17名 世界理解の日姉妹都市ポートランドから冬至の日に同時開催をしたいとの話があり実行できなかったが'62年になってから春分の日に同市の世界理解委員会(Mondvida Komitato)から話があったので'62年3月24日市民会館で一般市民を対象に、フィルム等公開した。

室蘭 平田岩雄氏。2つの中学校でクラブ活動にエス語をやっているので指導している。

函館 出席者なし。

由仁 新田為男氏。同志がすくなくなりましたので不活発になった。

苫小牧 星田 淳氏。'61年に苫小牧エス会を創設した。'62年初等講習会開催

☆ 第3回札幌エス会総会出席者15名 (会員数75) 世界救世教会では教主からエス語をやれとの指令がでてエス語をやることになったがあまりよい結果はえられなかった。

討議。元札幌エス会会員の ① 平野長克氏が始めたヒラノエスペラント学院と札幌エス会とは無関係である。

13時再開 議題審議。若いひと達についての議題2件

HEL 役員改選。委員長 山賀 勇(小樽) 副委員長 吉原正八郎(札幌)

事務局長 高橋達治(小樽) (LEO N-ro25~26) 出席者(江口調59名)

② 平野長克氏 1895~1965年以後死去 東京生まれ。東京外語学校卒。田原本藩主の孫、もと男爵、東京放送局・大正日々新聞・大阪証券取引所などで働き、東京・大阪・仙台・札幌などを転々。'20年福田国太郎・森内英太郎と"Verda utopio"を創刊。画家・小説家・詩人・科学者と称す。句集「夏蜜柑」その他というも確認できず。"Enciklopedio de E.にvicgrafoとあるが、本人自筆ではbarono。(私の家を訪ねて来て、なんとか言うEグループにはいるよう勧誘した。色々な特典があると言う。私はまずエスペラント学習院のことを、余り大袈裟な名称でないか、とききただした。するとエスペラントを学び習う所だから、学習院というのです、との事であった。彼の主宰しているEグループには私は入る気がありません。将来そのために、種々の特典を受けることが出来なければ、それは私にも物を見通す目がなかった、と諦めます。と言ってことわった。その後絵をかくと言って金をもらってそのままにしたり、芳しくない噂をきいた。昔はR・Oの表紙をかいたり、立派なエスペランティストであったのだが、この時期には名刺に肩書を沢山いれて、大きなことばかり言うようになって人に信用されないようになっていた。相沢) (大会参加者48名外欠席参加者15名計63名江口調64名)

☆ Leontodo は23~24号迄札幌坂下氏が編集していたが25~26号は苫小牧星田氏が編集した。次の27号からH.E.L.事務局が小樽に移り高橋達治氏が編集することになった。

9月12日 大本に居る英国のエスペランチスチーノ、ドリス・ウースター夫人3回目

の訪道である。(1955年1959年に来道したことがある。)が函館についた。吉田氏に会う。14日小樽着 大本信者やエスペランティストが出迎えた。山賀先生はじめ小樽の歓迎会では20人程集まった。15日早川氏の案内で支笏湖へ、16日高橋達治氏及び後藤氏札幌市に案内する。吉原氏宅に泊まる。17日吉原会長が、バスで再び小樽へ、大本教会に行き、大本信者、エスペランティストとエス語の話をする。18日早川氏と共に小樽より滝川、山部へ。19日富良野をへて旭川へ。20日温根湯を経て美幌に。21日和琴・硫黄山・阿寒湖 22日足寄を経て帯広へ 23日広尾をへて様似へ、平取で早川氏の知人のアイヌの家に泊まる。24日バスで苫小牧へエス集会以18名集まる。25日早川氏とわかれ、星田 淳氏 ①北島さんに会い星田氏の案内で製紙工場見学。室蘭に向かう。平田氏、須藤氏に会う。ホテルに15人程同志集まる。26日洞爺湖見物、大本教会訪問平田氏外2名案内する。27日函館吉田氏、井上氏案内、28日 小田島氏に会う。北海道を去る。

(LEO.N-ro28~29)

① 北島 瞳嬢 1932年4月10日 苫小牧の生まれ。苫小牧高等学校(現苫小牧東高等学校)卒業 苫小牧市役所勤務。

★ 1963年

4月18日 札幌エス総会 婦人会館にて (日誌より)

7月1日~8月1日 札幌エスペラント会講習会 婦人会館にて 木村喜任治講師 (日誌より)

7月12日 午前5時半 札幌エスペラント会に功績のあった河野博士が永眠された。

☆ 7月25日 河野博士告別式 大谷会館5階(当時読売ホール)に於いて無宗教の告別式 葬送行進曲と共にどんちようが上がり河野博士の肖像画が、花に囲まれて飾られ、式は次のようにはこばれた。1) 閉会のことば。司会 金田 一氏 2) 黙禱。3) 式辞。高倉新一郎氏 4) 故人の病状報告。水島 宣氏 5) 合唱。学大歌う会 6) 弔辞。学大学長、北海道知事、道教育長、北大同窓会代表、日本人類学会、日本民族協会、日本考古学会。7) 弔電、弔辞披露。8) 故人の声(テープレコーダーによる) 9)

思い出を語る。更科源蔵氏(詩朗読、渡辺宏三氏、畠山三郎氏、本田栄作氏ほか(アイヌの人がアイヌ語で弔辞をのべた。相沢) 10) 遺族の謝辞。11) 黙禱。12) 閉会の言葉。13) 参加者一同花を捧げ退場。札幌エスペラント会から弔辞を捧げるべきだったが、其の余裕がなくて申し訳のないことをした。(故河野広道博士小伝)

★ 8月3日4日 第27回北海道エスペラント大会 小樽祝津近江会館

3日前夜祭 17時受付、18.00 夕食パーティ、

4日10時 大会 祝津にしん御殿 高橋るみ嬢(8才)閉会宣言 HEL 会長山賀先生挨拶。議長選出、星田 淳氏 議長挨拶。地方会報告 1) HEL 事務局長 高橋達治氏 2) 札幌 木村喜任治氏 3) 苫小牧 星田 淳氏 4) 室蘭 山田嬢 5) 由仁 新田為男氏 6) 小樽早川 昇氏 7) 穂別 塩谷登氏

審議 1) 50回世界大会の北海道後援会の運動について

(北海道後援会役員 会長 山賀 勇(小樽)副会長 アリマ・ヨシハル(札幌)実行委員 相沢治雄、永田明子(札)平田岩雄(室)星田 淳(苫)新田為男(由)藤井沢司(岩)会計 高橋達治(小)賛助委員 東 隆(札)山崎久蔵(札)吉原正八郎(札)会計監査 高橋要一(札)吉田 栄(函)が任命され既に活発な活動を開始していた。

(相沢)

2) 北海道エスペラント観光案内の発行 3) Leontodoの発行について 4) 第28回北海道大会の開催地について(室蘭と決定) 5) 強化合宿について、(年末に小樽で開催する) 6) 平和友好会に参加 7) 日本エスペラント大会に参加せよ 8) 会費について(年額300円)

懇親会 星田 淳氏の指導で"KNABINO" "KANTO DE STUDENTOJ"等賑やかに過ぎた。閉会宣言 高橋るみ嬢

水族館見学16,00 解散 (参加者50名不参加5名江口調46名)(LEO.N-ro29)

★ 8月24~26日 第50回記念日本エスペラント大会 会場 吹田市関西大学 北海道からは星田 淳氏、北島氏(苫小牧)山田嬢(室蘭)その他2~3人参加。

北島さんが北海道を代表して挨拶。

(相沢)

9月22日 HEL青年部発足。会場高橋達治氏の勤務先小樽海員学校。本年度事業計画 1) 強化合宿を年末年始にわたり実施する。2) 平和友好会に参加する。

委員長 村木昭徳氏 事務局長 佐藤不二雄氏 副委員長 影浦英明氏 (LEO.N-ro30)

10月4日ワイズ夫妻来道 千歳着 札幌の歓迎会に出席、吉原氏宅宿泊 5日 小樽着、三馬ゴム、三輪商榷見学、小樽医師会館で小樽anojとkunsido. 6日 札幌着、ロータリークラブに参会、札幌市内見学、吉原氏宅に宿泊。7日 苫小牧着、登別をへて東北へ。

(LEO.N-ro30)

職業別道内エスペ란チスト名簿

学校 23名、公務員 7名、鉄道、陸運 5名、会社 15名、医業 8名、新聞報道 4名、自由業、自営、無職 12名、永年運動継続表彰者16名 (同上)

★ 1964年

1月2日～5日正午まで3日間 小樽 朝里温泉ヘルスセンターで第2回青年部強化合宿 (")

★ 6月6日7日 第28回北海道エスペラント大会 室蘭 労働会館

第1日6日 前夜集會室蘭市開道町鉄道クラブ。

第1日 午後6時、より受付開始。開会挨拶 須藤昭三氏。自己紹介、相沢氏の音頭で乾杯後食卓と懇談。20.00 8ミリ映画上映、室蘭より「オコタンペ湖キャンプ」「クッタラ湖遠足」「ポロト湖スケート会」札幌より「第24回日本エスペラント大会」昭和11年札幌で開催した。「第25、27回北海道エスペラント大会」(相沢撮影)

第2日 大会 室蘭市労働会館。

10.40 開会、司会須藤昭三氏。開会宣言 小林鳩子氏。準備委員長挨拶、平田岩雄氏。大会議長 児玉広夫氏選出さる。児玉議長 挨拶。祝電披露、山田つゆ氏 1) 西里静彦氏(米國) 2) 星田文子氏(苫小牧) 3) カモセツコ氏(東京)。自己紹介。

地方会運動状況報告

1) 函館エス会 吉田 栄氏(省約) 2) 小樽エス協会 高橋達治氏(省約) 3) 札幌エス会 吉原正八郎氏 会員は現70名 1/3 が女性。昨年10月4日ワイズ夫妻来札。出席者HEL 会長山賀博士、苫小牧の星田 淳氏も含め17名。12月15日雪印パーラーで2祭開催出席11名 4) 由仁エス会 新田為男氏(省約) 5) 苫小牧エス会 星田 淳氏 鶴川からエス語学習希望者多く月曜日に出掛けて指導している。6) 苫小牧西高校エスペラント同好会 菅原 穂氏 昨年11月に第1回の会合を開く。現会員20名 7) 穂別中学エスペラントクラブ 堀谷 登氏昨年5月クラブ結成。8) 札幌北高校のエスペラントクラブの活動について 木村喜任治氏今年4月に希望者20名を集め、学校の正規のクラブとして発足。9) 室蘭エス会 平田岩雄氏 毎週木曜日集會 2月ポロト湖で苫小牧エス会員とスケート

日本エスペラント学会協議会出席報告 アリマ・ヨシハル氏 今年5月24日世界大会('65年東京で第50回世界大会が開催された)の準備寄付が150万~200万不足している事等。13.30 協議会 児玉議長から議事進行について、地域別代表者が協議、結論を出して皆に諮ってきめると言う方式を採用して別室で次の結論を得る。1) 青年組織の確立に伴い北海道エスペラント連盟の規約改正の件。HELの中に青年部を置く 2) HEL役員改正の件 会長 山賀 勇氏(小樽) 事務局長 高橋達治氏(小樽) 委員(省約) 事務局は当分の間小樽の置く。

アミケーツァ・クンスイド。協議会と並行して行なわれた。1) 吉原氏のエスペラントの基礎的常識について(新しい人のために) 2) 星田 淳氏の歌の指導 3) 苫西高校生の合唱 4) 木村喜任治氏、吉田 栄氏の独唱。5) アリマ・ヨシハル氏の外国から来たエスペ란チストの交歓体験談、文通の楽しさ。16.000閉会 (LEO.N-ro30) 苫小牧西高校生、穂別中学生等参加し有意義な大会であった。その他札幌北高校、鶴川中学等エス会あり中小年生の間でもエス運動が盛んであった。

55名内欠席16名計72名(江口調72名) (LEO N-ro31)

12月20日 札幌 Mondo-Vida Tago

★ 1965年

1月30日～31日強化合宿(定山溪、溪林荘) (日誌より)

3月5日Pompilio. 東海林氏来札

3月6～7日 札幌第2回強化合宿 札幌共済会館 La dua Disciplinado de Esperantoj en Hokkaido ① ポンピリーオ氏出席

☆ 3月6日 札幌エス会第2回 Disciplinado Pompilio氏出席 (LEO.N-ro32)

① ポンピリーオ氏のご顔 (面長の橋幸夫刈り。イタリア生まれ。15・6才のときEspを学びはじめ22才でオランダにある世界エスペラント協会本部に勤務。以来28才の今日まで5年間オランダでEspのために働き現在大会常任書記。毎年世界大会開催地におもむいてその準備にあたっている。長いアゴに秘めたる国境のない人類共同社会への情熱はもえてつきることを知らない。(札幌—ano) (LEO.N-ro32)

4月1日 札幌エス会会則設定

4月11日札幌エス会総会 モンドビーダ ターゴ (LEO.N-ro34)

4月24日～25日 3a Disciplinado de Esperantistoj en Hokkaido

場所 札幌市南5条西25 通産円山荘 来るべき第50回世界大会のため会話の練習や文法を学ぶため2日間に亘る強化合宿である。(LEO.N-ro32)

7月1日 函館 市立函館図書館でエスペラントの図書が無いとのことで小田島栄氏は12冊の新書を購入し吉田 栄氏同道で福田館長に面会し同館に寄贈した。

(R・O1965.9)

★ 6月12日～13日 第29回北海道エスペラント大会 札幌 道庁共済会館

第1日 前夜祭には第50回世界エスペラント大会常任書記プラコウG・ポンピリーオ氏の歓迎会をかねる。次に苫小牧市の星田氏の指導により音楽練習。更にBaloに移り苫小牧女子学生の軽やかなステップの運びには多数の注目をあつめた。

第2日 (1) 開会 司会 札幌 児玉広夫氏 (2) 開会宣言 児玉ルミ嬢(10才) (3) Espero合唱 (4) 北海道エスペラント連盟会長挨拶 小樽 山賀 勇氏 (5) 札幌エス

ラント会長代理 木村喜壬治氏挨拶 (6)プラコウ・G ポンピリーオ氏 (7)大会議長団 高橋達治氏高橋要一氏挨拶

⑥ 祝電披露

1) 埼玉県宇都宮エスペラント会 2) 大本北海道本圏青年部 3) 小樽市 佐藤不二雄氏 4) 札幌市 篠谷絹代さん 5) 函館市七重浜 小田島栄氏

地方会運動状況報告 1) 小樽エスペラント会 高橋達治氏。火曜例会毎週3.4名位

2) 苫小牧エスペラント会 星田 淳氏。苫小牧高校エスペラント同好会。新田伸枝氏同志10名 3) 室蘭エスペラント会。平田岩雄氏 火曜金曜の集会に4～5名。4) 岩見沢エスペラント会。浜田国貞氏 設立して1ヵ月たらず、"いなほ荘"で例会をひらいている。6～7名。5) 函館エスペラント会。吉田 栄氏 当地の学会会員は8人程いるが未だ組織的に動いていない。6) 札幌エスペラント会。永田明子さん 昨年のエ

スペラント大会のことを写真入りで報道した。札幌エス会で開催した講習会に35名出席したことを報道した。ポートルランドとMondo-vida Tagoを同時にした。ポートルランドから送られた、スライドやテープを公開した。7) 北海道エスペラント連盟活動報告。事務局 高橋達治氏 新聞記事により相当数の問い合わせあり。Leontodo 2回 informilo

2回発行。S.E.Sの努力でdisciplinadoを3回開催した。8) 道東地区のエスペラント活動状況 遠軽町 堀江精一氏 遠軽町でただ1人のエスペランティスト、道東地区のエ

スペラント活動状況は不明の由。9) 旭川エスペラント会。竹吉正広氏 時折数人の同好グループが集まっていること。最近旭川北高校にエスペラント同好会が設立、大沢会

長リードしている。10) Gastoとして東京在住の杉浦氏からの報告 (省略)

自己紹介。本年は予想外に集まったので、名前、住所だけ1分程度。

記念撮影。協議会及び協議結果の報告 1) 第50回世界エスペラント大会の出席等について(この年東京で'65年世界エスペラント大会が行はれた。相沢) 2) 北海道エ

スペラント連盟役員の変更について 3) 明年の北海道大会開催地の決定について

討論会。発表者 由仁 新田為男氏。苫小牧 北島 瞳さん。函館 吉田 栄氏。

小樽 江口音吉氏。岩見沢 浜田国貞氏。

ポンピリーオ氏のPrelego 流暢なエス語で日本各地の大会と北海道大会の比較、東京に於ける世界大会の宣伝に参加者はすっかり魅了させられた。

余興 札幌エスペラント会から”ねずみの嫁入り”、苫小牧エスペラント同好会から”たぬきの腹づつみ”その他。

閉会宣言 札幌 児玉ルミ嬢

出席者 55名不在参加も含めて107名盛大な大会であった。(江口調102名)

(LEO.N-ro33)

7月1日 函館 吉田 栄氏12冊のエス図書を購入小田島氏と同道し市立図書館に寄付した。図書館の話ではエス独習者の独習書、研究書の問い合わせがあり、古い書籍のみで、困っているとの話があったからである。(R・O1965年9月号)

★ 7月31日～8月7日 東京文化会館で第50回世界大会が開催されその時、北海道から参加者はKongresa Libro及びその追加によれば35名の名前が記録されている。

相沢治雄、アリマ・ヨシハル、後藤義治、木村喜任治、高橋要一(欠席)児玉広夫、永田明子、(札幌)山賀 勇、江口音吉、早川 昇、高橋達治(小樽)平田岩雄、(室蘭)星田 淳、北島 瞳、(苫小牧)新田為男、(由仁)吉田 栄、(函館)その他、不在参加があったとしても30数名が参加したはずである。外国からの参加者717 日本からの参加者993 計1710名であった。

分科会は仏教・全世界エスペランティスト青年機構・文学・万国医学エスペラント協会・盲人・共同組合・学生全世界エス連盟・国際エス・カトリック同盟・国際キリスト教エス連盟・速記・老巧者会合・戦争抵抗者・世界平和エス運動等14に達した。

(50a Universala Kongreso de Esperanto) (R・O1965年9月号)

10月17日 札幌バラト湖にピクニーコ (LEO.N-ro34)

12月19日 札幌Z祭 (同上)

★ 1966年

4月17日 札幌エスペラント会総会

Mondovida Tago 夏至及び冬至の日ポートランド其の他の国と一緒に集まりを開くので札幌も同時に開催してくれとの提案がポートランドからあり、実行することになった。

(LEO.N-ro34)

★7月9日～10日 第30回北海道エスペラント大会 札幌 道庁共済会館

7月9日第1日 受付開始14時 日本エスペラント学会の三宅史平氏挨拶、直ぐ普通試験を行う。それと並行して協議会。普通試験受験者。星田氏、須藤氏、沢谷氏、永田嬢、青木嬢、渡部嬢、試験官三宅史平氏。

星田氏歌の指導をする。1) Ridu,Ridu 2) Brilas,brilas eta stel'

相沢が1936年の第24回日本エスペラント大会の Bmmの映画(撮影山賀勇)相沢撮影の世界エスペラント大会の記録上映

第2日 (1) 川口氏の閉会宣言 (2) 須藤氏指名により議長選出 (3) 新田為男氏 高橋達治氏議長団となる。(4) 新田議長挨拶 (5) 準備委員長吉原氏挨拶。三宅氏が学会から派遣されたことに対するお礼その他 (6) 山賀HEL委員長の挨拶。明後年に北海道100年を記念して日本大会を札幌に招くと言う議案やブダペストの世界大会に出席されること。日本エスペラント学会の三宅史平氏挨拶。木村氏協議案及び決議事項報告
1) 1968年は開道100年祭がありこれを機として日本エスペラント大会を札幌に招致する。

2) 1967年の日本大会には代表を派遣する。その際全額をHELが補助する。

3) 冬期オリンピック大会札幌大会1972年については今からGrenobleの同志に連絡をつけエスペラントの有用性を一般に示す。

4) 会費を地方会でまとめた場合には1人300円とする。

5) 1967年の HEL 大会は小樽で行う。

6) 役員は次の通り

会長 山賀 勇。副会長 吉原正八郎。事務局長 高橋達治。

HEL 事業報告。事務局長 高橋達治。地方会挨拶 札幌エス会（永田嬢） 室蘭エス会
週1 回例会 4~5 人（須藤氏）。苫小牧 市民会館で講習会20人参加、今では12~3 人
（星田氏）。1月 9日10日 函館エス会再開。会としての活動を暫く停止していたが再開
できた。16名が参加した。尚目下講習会を開き20名参加者があつた。（市川氏）千歳
星田氏の指導で初等講習会を開き20人あつまった。（中里氏）。三愛女子高校 9月に
エス会を組織、目下 6~8 名が学習中（鈴木嬢）岩見沢、東京 UK に4 名参加（新田氏）
厚賀 新聞広告やポスターで宣伝し会員6 名を集めた。（佐々木氏）。小樽 東京 UK
に10名参加。近く初等講習を行う。（高橋達治氏）

弁論大会 三宅先生講話 余興 川口嘉彦氏 1) Kanto 2) Drameto La Vendito
de Okuloj 3) Kanto 4) Drameto 高橋達治氏 高橋るみちゃん。5) Kanto 指導 星
田氏

ここへ東大留學生の Mikel Lambo氏出席問答形式の会話となり日本語、エスペラン
ト、欧州語間の問題に就いて意見を聞く。（通訳 星田氏）

閉会 参加者全員71名（江口調71名）（LEO.N-ro34）

12月11日 札幌Z祭西林

★ 1967年

4月2日 前北海道エスペラント連盟会長坂下清一氏東京で死去（法名）真徳院釋法忍
居士 （高橋要一氏調べ）

★ 6月3日4日 第31回北海道エスペラント大会 小樽市朝里温泉センター

予約者 5月末日32名

3日第1日 第2日小樽市民会館

閉会式 星田氏 須藤氏議長団となり、議長星田氏 挨拶。H.E.L.会長 山賀先生挨拶。

各地代表挨拶並びに報告 函館 吉田氏。室蘭 村木氏。苫小牧 星田氏。札幌 木
村氏。小樽 高橋氏。岩見沢 鈴木嬢。帯広 堤氏。H.E.L. 高橋達治氏。映画（世
界大会ブダペスト） 詩の朗読。Prelego 星田氏 機械翻訳について。歌と Amuzajto

参加者42名（相沢はこの時入院していたが病院を抜け出して出席した。相沢）

（LEO.N-ro37）（江口調43名）

★7月28日 山賀博士第51回世界エスペラント大会参加 東京発 コペンハーゲン、
シュライヘル氏宅泊。7月31日~ 8月 4日 ブダペスト世界大会。8月 5日コペンハー
ゲン。7日ストックホルム。8日ハンブルグ。9日アムステルダム。10日ロンドン。11
日パリ。13日デュセルドルフ。フランクフルト。14日ミュンヘン、第20回国際眼科学会
16日ウィーン。17日チューリッヒ。インターラーケン。18日ジュネーブ。19日チューリ
ッヒ。20日ミラノ。21日フローレンス。22日ローマ。23日ローマ。ポンペイ。24日アテ
ネ。25日カイロ。27日バンコック。29日香港。31日台北

9月2日東京 3日小樽帰着。

山賀先生より8月2日ブダペストより次のようなお便り。「Kongres-Libro に登録37-
77人、実際は4000人以上。大会場を埋めつくしたばかりでなく街中Esp の吹流しが各所
にあり、ラジオも新聞もしばしば伝えテレビニュースもやり市内の交通機関は無料パス
をだしています。はじめホテルに泊まるはずが、できなくなり郊外の個人宅に 2泊、次
で市内の個人宅に 4泊ということになります。」又続いて 8月10日ロンドンからブダペ
ストのエス大会を 8月 4日で切り上げベルリンに入ったのですが先に（西ベルリン）ビ
イチンスキーと言う人に手紙を出しておいたら東ベルリン大学眼科教授に連絡してくれ
その案内で大助かり、次いでアムステルダムではV.Dalen 氏に頼んでおいたら快く出迎
えてくれ各所を見て廻りアンネの家まで訪ねることが出来ました。すべてESP.のおかげ
で同行の眼科の先生方からうらやましがられています。（LEO.N-ro34）

1967年の動き

9月 大会以後、主な出来事を列記すればつぎの通り。オコタンペ・ピクニーコ 8月14~
15日参加者 6名 S-ino Worcester 来道予定。9月14日に予定変更となり、24日18時
公民館に集まりGasto 2 名と苫小牧10名出席。

10月20日~12月12日エス講習会札幌エス会ユネスコ協会毎週火金市民会館

1 1月11日 由比忠之進氏自殺。1894~1967年名古屋エス会の中堅、佐藤首相の訪米直前官邸前で抗議の焼身自殺。

1 2月高橋達治氏、小樽ザメンホフ祭を最後に北海道をさる。(LE0.N-ro38)

苫小牧エス会。中等講習会 王子東部集会所の使用は会社が許可しなくなったので山手集会所にうつす。交通が不便なので、もっと便利な所と考えていた所 北島さんの提案によって10月12日以降、場所を市内大町の喫茶店「ポプラ」に移した。

★ 1968年

1月14~15日支笏湖(翠明閣)合宿16名参加 (LE0.N-ro39)

4月13日 札幌、SES総会 市民会館 (日誌より)

★ 5月26日27日 第32回 北海道エスペラント大会 札幌市 市民会館

この大会は第55回日本大会の準備のため行はれた。

刈部氏 司会。HEL 委員長として山賀先生挨拶。地方会代表挨拶 吉原氏(札幌)小樽 苫小牧 室蘭、千歳、札幌、函館は電報で、山賀氏HEL 報告。永田嬢 来年の55回日本エスペラント大会の準備について。山賀氏議長となり主として55回日本エス大会の件に就いて15時まで審議した。役員改選

会長 山賀 勇氏。副委員長 吉原正八郎氏。書記長 刈部。委員 藤井、沢谷(札幌)石黒、(小樽)須藤(室蘭)星田、北島、(苫小牧)吉田(函館)中里(千歳)辰己(帯広)の諸氏。参加者32名 (江口調31名) (LE0.N-ro39)

6月9日この日から毎日曜テレビ塔で大会準備打ち合わせ会。テレビ塔に集まり色々討議したが、市長の挨拶や来賓の挨拶など必要ないと言う、永田明子さんの意見でとりやめた。

殆ど永田さんが主となって準備を進めた。本州から来る参加者のために駅に迎えに行くことも必要ないとのことであった。大会の前日に山賀先生が何か手伝うことがあったらと申し出たが何も無いと断られた。(相沢)

★ 8月3・4日第55回日本エスペラント大会 札幌ホテル・アカシヤ

(1936年第24回日本大会が札幌で開かれて以来、この大会は暫く振りであったので本州から沢山の名士が来札された。)小西岳氏、進藤静太郎氏、梅田善美氏、河村信一郎氏、その他、相沢は駅まででむかえた。

第1日 9.00 大会運営委員会 星田 淳氏司会する。10.00~11.55 日本エスペラント学会総会 山添三郎氏司会 三宅史平氏 JELの報告 13.00~14.35 開会式 沢谷雄一氏司会 高橋アミさん開会宣言 準備委員会を代表して山賀先生挨拶、由比忠之進氏に弔辞を捧げる。沢谷雄一氏提案により議長団、山賀 勇氏、梅田善美氏。書記星田 淳氏指名さる。議長団の挨拶 梅田善美氏 各地方会代表挨拶。表彰。14.40~15.40 大会大学 21.00 映画鑑賞会ブダペストの世界大会 第24回札幌における日本大会 ポートランド(スライド)

第2日 分科会 9.00~11.00.1) 教育 キリスト教 2) UEA 仏教 ベトナムの平和 Nova Vojo読者、化学、医学、M・E・M 3) 婦人部、世界連邦。

試験 初等 5人高等 1人 初心者講習 梅田善美氏S-ino Worcesterster 会話練習

13.00~14.45 大会協議会 議長団山賀、梅田氏 一般報告三宅史平氏 太平洋大会の報告。白石茂男 報告質問 15.00 ~15.10 八木賞の伝達。散文の部2等谷口氏 詩の部2等 音楽の部2等山崎氏3等 青山勲氏。寸劇 高橋達治氏、高橋るみ子さん「かへってきた 浦島太郎」。

分科会報告 学生、SEMO (Societo Esp-ista de Mondofederalistoj : YAKE (Japano Asocio de Kristanaj Esperantistoj) 婦人部 EVA (Esperanta Virina Asocio) : ベトナムに平和を : 宮本氏報告 MEM (Mondpaca Esperantist Movado) : Nova Vojo 読者会 8人梅田善美氏 : 仏教会 UEA-anoj 16人進藤氏報告 : ISAE (Internacia Scien-cista Asocio Esperantista) 河村信一郎氏報告 16.00~16.15 閉会式 札幌エスペラント会長の吉原正八郎氏挨拶。議長団挨拶。山賀氏準備委員長挨拶。大会旗の伝達、嶺正子さんと今村たよ子さんから東京の難波とき子さんにわたされた。大会常任委員の会合 16.00~18.20 平和と人権の日本語によるシンポジウム。

16.30 「サッポロの夕」 羊ガ岡でジンギスカンをつつきながら愉快な夕をすごした。
ウースター夫人など踊りをおどって賑やいだ。

ポストコングレサ・ボヤジョ JTBのプランによって50人が北海道の東部に 5日間旅行した。
(OFICIALA PROTOKOLO)

9月22・23日北大支笈湖寮でエス会合宿オコタンペにも行く。29名参加
(LEO.N-ro 39)

12月15日 札幌 Z祭

★ 1969年

1月22~23日 伊達合宿 道立胆振青年の家 12名参加 (LEO.N-ro 39)

★ 8月9日10日 第33回北海道エスペラント大会 函館商工会議所 第2会議室
第1日 函館市湯の川。鶴川小学校の児童参加。小田島氏の努力多大新聞に大きく取り上げられた。

第2日 函館駅前 拓銀ビル6階会議室。吉田準備委員長 挨拶、山賀 H.E.L. 会長 挨拶、三谷函館市教育委員長及び吉崎市会議員（大会の成功のため尽力された）の来賓祝辞あり、ついで各地区代表の報告。事務局長の選出 星田 淳氏再選さる。小田島栄氏より、鶴川の小学生諸君4人に贈物がおくられ、山賀会長より同君等に緑星旗が贈られた。休憩の後バスで市内観光。此の度の大会は昨年（第55回）日本大会の苦勞を勞うという吉田準備委員長の配慮があつてなされたものである。参加者74名 (LEO.N-ro40)
1969年から10数回にわたりBULTENO de SESと言うパンフレットが札幌エス会から発行された。これはLeontodoと重複している感じがしていたが、1971年3月4号で終わったようである。相沢)

★ 1970年

★ 8月8日9日 第34回北海道エスペラント大会 室蘭 洞爺湖温泉グランドトーヤ

第1日 大会議長木村喜任治氏。副議長浜田国貞氏選出。HEL会長山賀博士の挨拶代読

(代読者氏名不詳)。自己紹介 鶴川小学校生徒10人。祝電 高橋要一氏(今回欠席)
地方会活動報告。千歳 朝日新聞記者として赴任して来た池本氏に期待したい。

歌志内の大友頼一氏東南アジア4日間の旅の話

地方動静報告

札幌 相沢氏。タイピスト学院で集会している。北大小数ながらよくやっている。藤女子大は前には盛んだったが今むずかしい現状。

小樽 石黒氏。1月29日 木曜日から毎週、学習始め15名、今2~3名山賀眼科で初等講習

室蘭 村木氏。クールソを持ちたいと考えている。

苫小牧 星田氏。Z祭を機会に講習を持った。5人集まったが、いまでは3人になった。

函館 吉田氏。毎週金曜日にあつまっている。

鶴川 鶴川エスペラント子供会、福祉会館で土曜日ハンガリーの子供達と文通している。

HEL 星田氏。LEONTODO について。

提案事項

HEL 事務局 1) 現在事務局は苫小牧にあるがやはり札幌が適当と思う 星田氏提案 保留
2) ポスター・ビラ製作について 事務局提案 可決。ポスター1,000枚 ビラ1,000枚 予算 3万
3) 次回大会を苫小牧で開催したい。須藤氏 可決

続いて洞爺湖畔にて 写真撮影。閉会。 (江口調42名) (LEO.N-ro43)

12月11日 Rondo Nordo 北大エスグループではRondo Nordo を結成し盛んな活動をおこなっていた。

12月13日 札幌Z祭 労働会館、小樽、苫小牧、岩見沢から参加者あり、約20名、
(NEG FLOKOJ N-ro0)

各地情勢 北大エス会ではクラーク会館で初等講習10人位。

鶴川エスペラント子供会 小学5年生1名、6年生6名、中学生6名全員22名

★ 1971年

1971年北海道新聞 世界に友ありエスペラントの広告、講習会の宣伝のため。

1月2日 NEĈ FLOKOJ N-ro 0発行さる。9月まで7回発行LEONTODOを補助するものとして発行された。0号は嶺正子気付けで発行された。1号からは清水気付けとなり執筆

者 沢谷雄一氏 那須博文氏 市川 忠(函館) 向井豊昭氏(三石) 星田 淳氏等

一時 LEONTODOの代わりに機関誌としたらと言う話もあった。(NEĈ FLOKOJ) (相沢) 5月1日~6月26日 札幌初等講習会開催、道新夕刊に広告を出し、外ポスター、ビ

ラ500枚を配布。受講者数47名 教室の椅子が足りなくなり、主催者側をあわてさせた。

高校生2、大学生18、会社員、公務員21、その他6。(NEĈ FLOKOJ N-ro-4)

7月24日 TERO (Titose Esperanto Rondo) 千歳では毎週土曜日に市民会館で講習会

を開いていたが、9月9日 千歳エスペラント会 (TERO) 誕生

★ 8月7日8日 第35回北海道エスペラント大会 苫小牧ハイランド・スポーツハ

ウス
第1日 35回エスペラント大会前夜祭 (苫小牧)
13時受付開始。16時海外旅行談を聞く会。18時自己紹介。18時半昼食。スラ

イド上映。21時30分 懇談会

8月8日 第2日

9時半貸切バス出発。苫小牧管理組合ビル展望台へ、説明は児玉広夫氏(同組合庶務

課長) 港堀込み箇所見学 10時すぎ 会場・市民会館に到着。開会宣言 星田真理順。

議長 副議長選出、議長 市川 忠氏(函館) 副議長 石黒 実氏(小樽)。市川議長、

各代表挨拶。HEL 副委員長(副会長) 吉原氏、 JEI 代表 石黒彰彦氏、古関吉雄氏、

(東京) 三沢氏(豊中) 渡部隆志氏(福井市)、北海道連盟 星田 淳氏挨拶。地方会

挨拶、小樽、鶴川、函館、千歳。

午後提案審議 1) HEL 役員改選 会長 高橋要一氏。副会長 国兼信一氏。事務局

長 沢谷雄一氏。議題審議、2) 機関誌について、決定保留 3) 支笏湖畔青少年センターでの Intensiva Kunlogado 計画、児玉氏 4) 「アイヌ民話」共同翻訳、池本氏提案 事務局一任 可決。5) アマチュア無線愛好家のESP 活用、池本氏提案 6) 時期大会開催地、札幌に決定 7) 北海道大会の表記の統一について、相沢治雄氏 提案。事務局付託 8) 北海道ESP小史の覆刻。相沢治雄氏提案事務局に付託 9) エス日、日エス辞典の発行。中里和夫氏提案、適当なものがあるとの事で撤回。千歳の佐々木君(中学生)の開会宣言でおわった。参加者95名 内道外からの参加者7名 不在参加者13名鶴川から小学生の参加があったことは喜ばしいことであった。

参加者85名 (LEO.N-ro44)

9月1日 NEĈ FLOKOJの発行所は札幌に移り清水 寛氏辞任

9月9日千歳エスペラント会を結成 Verda Domoを幸町5丁目につくる。ハンス・ヴェイマー氏や札幌、三笠、苫小牧の同志があつまった。中里先生の努力による。北海道新聞に掲載され宣伝効果十分であった。(LEO.N-ro44)

9月12日 暫く開催されなかった、連盟委員会を札幌で開催した。

第1回HEL委員会 出席者高橋委員長、沢谷事務局長、木村喜任治、関尾(札幌) 星田(苫小牧) 石黒(小樽) 議題 1) 委員会定例化について

2) HEL会員の再登録について3) 機関誌LEONTODOの発行について4) 財政 5) 連盟の規則について6) 大会決議事項について 7) その他 (LEO.N-ro44)

9月24日オランダのハンス・ヴェイマー氏来札との事大通りに集まる。ついにあらわれず。支笏湖に行ったとのこと。(LEO.N-ro44)

9月24日 支笏湖畔における強化合宿成功裡に終る。ヴェイマー氏も加わる。(同上)

9月26日 北海道新聞にエスペラントサークルに就いて「エスペラント語小ブーム」(新サークルが誕生千歳、外人、まじえて”合宿”支笏湖畔。)という見出しで記事が

でた。その他苫小牧民報、朝日新聞、道新の苫小牧版にハンス・ヴェイマー氏の記事が出大変宣伝になったと思う。(LEO.N-ro44)

11月6日 札幌エス会 秋の講習会特別講座 三沢正博先生 中央タイピスト学院で「ロンドン世界大会に出席して」

11月14日 第2回連盟委員会 出席者 高橋委員長 沢谷事務局長 市川(函館) 山賀(小樽) 星田(苫小牧) 池本(千歳) Observanto として児玉(苫小牧) 1) 機関誌の発行体制について 2) 「北海道エスペラント運動小史」の覆刻について

☆ アイス民話集エス訳軌道に。「アイス神話集」を翻訳する。事務は千歳の池本盛雄氏が担当する。(LEO.N-ro45)

11月27~28日 函館で合宿を行った。小樽エス会は12月12日 千歳エス会は12月12日冬期オリンピックに外人が多数参加するとの見通で山賀先生の提案で厚生年金会館で善悪通訳打ち合わせ会 山賀、木村、相沢参加した。

各地方会のZ祭

北大エスペラント会 RONDO NORDO クラーク会館。

12月12日 札幌エスペラント会。中央タイピスト学院で約3時間半にわたるエスペラント談義に花をさかせた。最長老である藤女子大の山崎先生も出席された。

12月19日苫小牧と合同で。(LEO.N-ro45)

各地情勢 岩見沢学生エスペラント会 SES主催の初等講習会のピラを駒大、教育大学岩見沢等に貼った。(同上)

ロンド・ノールド北大エス会で5月20日第1回総会開催、名称をロンド・ノールドとした。北大クラーク会館で毎週木曜日集會。(”)

★ 1972年

1月9日第3回連盟委員会出席者 高橋委員長 沢谷事務局長 星田、池本、石黒、オブザーバーとして中里、児玉、大友 1) 機関誌Leontodoの発行について 2) 「北海道エスペラント運動史」の覆刻について 3) Magnetfona Servoの制度確立をめざして 4) エスペラント展の材料を集めよう (LEO.N-ro46)

2月6日冬期オリンピックのエス語翻訳者として相沢治雄、木村喜任治、山賀先生、高

橋要一、星田 淳、沢谷雄一、那須博文、宮沢直人、登録した。

2月13日 冬期オリンピックが終幕を告げる聖火が消えやらんとする頃、G.G. ポンピリーオ氏を迎えた。ポンピリーオ氏は東京に支社をもつ貿易会社の報道記者として、冬期オリンピック大会の取材にきたのである。1965年東京で開催の第50回世界エスペラント大会に常任書記として東京に滞在し、その間2度も来道されて道内エスペランティストとの知己も多い。その夜の参加者は札幌の高橋、木村、吉原、清水、堀、那須、田村、苫小牧の星田、児玉、北島、千歳の中里、池本、歌志内の大友、名古屋の三ツ石の各氏14名であった。(LEO.N-ro46)

3月12日池本氏転勤につき苫小牧市白金1の4 星田 淳氏方にユーカラ・エスペラント訳研究会 変更 (LEO.N-ro46)

3月12日 第4回連盟委員会高橋要一委員長宅にうつす。

出席者高橋委員長 沢谷事務局長 木村、石黒、池本、星田、児玉、北島、の各氏 1) 和文タイプの購入について 2) 連盟委員会費の備上げについて 3) Intensiva Kunloj ado (合宿)の計画 4) その他 Leontodoこの前の号あたりからアイス・ユーカラの翻訳が現れだした。(LEO.N-ro46)

5月14日 第5回委員会 高橋宅にて。出席者 高橋委員長、沢谷雄一、星田 淳、 1) 大会、連盟のEsperanta nomoについて 2) 規約第2条から第4条迄 3) 委員及び委員会について (LEO.N-ro47)

1972年秋の強化合宿。Hokkaidoという表記について 相沢、星田 淳氏 ポートランド大会に (LEO.N-ro47~48)

★ 7月8日9日 第36回北海道エスペラント大会札幌市中山峠健民センター・トレーニングハウスで

第1日 Bankedo から始まり、大阪府豊中市の三沢一広氏によって1968年の札幌市における日本大会記念大会フィルムの上映。大阪市の進藤静太郎氏の「最近における日本ボーイスカウト・エスペラント運動の現況」。

第2日 江口美佐子さん(10才)の閉会宣言、議長団として札幌市の児玉氏及び室蘭の村木氏が選出され児玉氏挨拶。大会準備委員長吉原正八郎氏の歓迎の挨拶。道外からの出席者挨拶

大阪 進藤静太郎氏、名古屋 ミツ石清氏、豊中 三沢一広氏、銚子 大友満昭氏。

各来賓挨拶

沢谷雄一事務局長が次の方々のメッセージを読みあげた。ポンピリーオ氏 影浦英明氏(東京)堀江精一氏(遠軽)永田明子氏(オランダ)渡部澄子氏(東京)伊藤氏(横浜)

議案審議 1)北海道エスペラント連盟及び北海道エスペラント大会のESP表記についてHokkaido Esperanto-Ligo 及びKongreso de Eaperantistoj en Hokkaidoとする。

可決。2)1972年秋季強化合宿の開催について 期間は、9月15日~17日とする。HEL事務局長に一任 3)①エス文北海道観光案内の再版について②道内主要都市のエス文観光案内書の作製について ③ アメリカ、ポートランド市で開催の世界大会に姉妹都市札幌市長のメッセージを携行することについて。HELの役員選出 委員長 高橋要一氏(札幌)副委員長 国兼信一氏(函館)事務局長沢谷雄一氏(札幌)再任と決る。

余興その他ありHEL委員長高橋氏閉会の挨拶 黒川嬢(札幌)閉会宣言(LEO.N-ro48号)

58名参加 不在参加者9名(LEO.N-ro48)

9月15日~17日 札幌真駒内青少年会館でエス語強化合宿あり、第1日レコード聴取賞教育。第2日星の王子さまの10数頁を鑑賞。午後中級は相沢氏がAl la FratojとHamletoの朗読指導する。第3日 プリバーのエスペラントの歴史、ミツ石氏の講義。午後は自己紹介その他。参加者相沢、江口、大友、児玉、川口、沢谷、清水、菅田、藤井、水上、吉原(札幌)星田、北島、(苫小牧)荒家、(名寄)米山(大樹)梅田節子(東京)講師として千歳に来ているミツ石清氏。大阪の栗原博氏 総勢19名

12月10日 千歳市ベルダ・ドームで全道ザメンホフ祭あり、初めての試みであった。

参加者総数29名(不在参加者1名)北は名寄から南は苫小牧、「全道」の名に値する

盛大な会になった。名古屋からミツ石氏参加され、札幌anojの紙芝居、札幌的那須氏、苫小牧の星田 淳氏による歌唱指導等。千歳市の中里先生のご努力によって全道ザメンホフ祭が成功裡に終了したことを報告する。(LEO.N-ro50)

12月14日 アリマ・ヨシハル氏埼玉県人間市に転居

12月17日 小樽Z祭 会員13名参加 山賀博士からZ祭の開催の意義についてお話あり、初等講習終了生に緑星章が山賀先生から手渡された。

12月24日 北海道新聞「主役・わき役」欄に(ベトナムの友へ)と題して星田 淳氏が紹介された。6月30日同紙に載った「現地医学生からのたより」に続くベトナムとエスペラントの第2弾。今回は全道版。(LEO.N-ro50)

★ 1973年

3月 LEO N-ro49に参考として清水 寛氏(札幌)の「思想研究資料・特集69号」が編集された。第1章 プロレタリア・エスペラント運動の意義 第2章 国際プロレタリア・エスペラント運動の概況 第3章 我国に於けるプロレタリア・エスペラント運動 第4章 結論 以上6頁にわたり詳述している。(LEO.N-ro50)

3月11日 連盟委員会報告 出席者 高橋委員長 沢谷雄一事務局長 児玉、木村、新田、石黒、北島、星田 1)1973年の年間活動計画について 北海道大会 秋の合宿、Z祭、2)機関誌Leontodoの発行について 3)北海道大会について

(LEO.N-ro50)

5月 焼津の全国合宿に参加して。おりから順法闘争で、テキストが、前もって届かず、授業の方はあまり進めなくてちょっと物足りない感じでした。・・・(匿名)

(LEO.N-ro51)

5月12日 中央タイピスト学院で初等講習会 講師江口正元氏 中学生(1)高校生(7)大学生(6)外全員28名

(LEO.N-ro51)

6月21日 MacGill el Novzelando 児玉氏の旧知であり、ニュージーランドの観光、マオリ族のフィルムを上映、星田 淳氏通訳。朝鮮旅行記 星田 淳氏。

★ 7月 LEONTODO N-ro50号は記念号として80頁に互る分厚いものであった。各記念すべき記事が多い。それらから幾つかを紹介しよう。

高橋達治氏が50号記念特別寄稿としてLEONTODOの発刊当時から現在に至までの経過をこまかく書いておられる。アリマ・ヨシハル氏がHOKAJDO という表記を提案して。北海道エスペラント運動史の覆刻について「北海道エスペラント運動史」が佐藤徳治氏のガリ版刷が連盟になくなったので、覆刻することになったので「運動史」の大体の意義ならびに、その昔の製作経過等について説明した。相沢) ザメンホフの生地ピアリストクについて江口正元(札幌)(江口音吉氏の弟)ゲッターに於ける殺りくなど、生々しい記録を翻訳転載された。エスペラント版「苫小牧の観光」苫小牧観光連盟で発行した観光案内に星田 淳氏がエスペラント文を綴じ込んで印刷することを申し入れ、訳文を作り約700部印刷した。その経過。 世界大会の記事 星田 淳氏 (LEO.N-ro50)

エスペラント展覧会の報告 高野富輝夫氏(函館) (同上)

苫小牧文化祭「エスペラント展」1972年10月29日～11月1日展覧会の詳細を。緑星堂白書'72 麗留世離小頭郎(Malseriozulo) 沢谷雄一の仮名、緑星堂という名前で図書館の取次をしていたが、その白書。小樽のZ祭 12月17日行ったZ祭報告 La Esperoから始まり山賀博士からZ祭の意義についてお話があり、初等講習生に緑星章がてわたされた。

全道ザメンホフ祭 千歳市ベルグ・ドームで開催されたZ祭のこと。3月3日日本社会党文教部長、教育文化政策委員長、衆議院議員、山中吾郎氏の「日本の進む道と教育文化改造論」の紹介。各地のZ祭。向井豊昭氏の記事あり。1952年9月(LEOにエスペラント教員免許のことがかいてあるが今後もその方面に働きかけてほしいと細井末夫氏がのべている。ユーカラの翻訳のこと多数でている。北海道大学エスペラント運動大分ページをとっている。星田 淳氏のアイヌ・ユーカラの翻訳が試訳としてでている。そしてユーカラ翻訳についての提案 向井豊昭氏(日高)のユーカラ翻訳断りの手紙も掲載されている。早川氏(小樽)星田淳氏もユーカラについて書いている。見玉氏は相沢、竹中氏からの資料を元にして中国語の解説をかいた。清水寛氏の雑感、細井末夫氏(八

雲)エスペラントのすすめと題する雑感。北海道大学に於けるエスペラント運動の成果については12頁ほど書いている。LENTODO 発刊以来の部厚い冊子となった。

(LEO.N-ro50)

★ 8月18日第37回北海道エスペラント大会小樽市朝里川温泉センター

第1日 午後3時受付開始。Bankedo 前北海道エスペラント連盟会長山賀先生歓迎の言葉と乾杯の音頭。大阪府豊中の三沢一広氏(毎年出席していたが今年度は欠席フィルムを託送してきた)那須博文氏のギター星田 淳氏の指導で歌唱を楽しむ。

第2日 9時から開会式と大会協議会 1) 崎野嬢の開会宣言 2) Espero斉唱 3) 議長団選出。札幌の清水、見玉両氏が選出された。4) 地方会報告。大友頼一氏今春訪れたインド、ネパール、セイロン旅行体験談あり、HEL 事務局長沢谷雄一氏から年間の行事、財政報告、9月の強化合宿への参加要請、5) 役員改選。事務局長沢谷雄一氏から清水氏に引き継がれたほかは留任。余興その他あり HEL 委員長高橋氏閉会の挨拶 黒川嬢(札幌)閉会宣言 参加者41名内不在参加者9名

(PROTOKOLO de 37a KONGRESO (LEO.N-ro52))

12月16日 小樽エスペラント協会Z祭 石黒、佐藤、末岡、早川、山賀夫妻、渡辺(以上小樽)追分(滝川)黒川、沢谷、清水(以上札幌)外計13名 女性も混じり賑やかであった。(同上)

此の年婦人連中がLA GORGONO という雑誌を発行した。4頁か6頁のもので、沢谷雄一、清水 寛氏等が執筆していた。婦人連中は匿名でかいている。N-ro8 まで。1975年までつづいた。

★ 1974年

1月13日 HEL委員会 事務局長交替後初の委員会が開かれ、74年度の活動計画を主体に論議された。今年は「北海道エスペラント運動史」を覆刻したい。ユーカラの共同翻訳作業についても論議された。(LEO.N-ro53)

1月13日 札幌エス会新年会。中央タイピスト学院下の海老天で、新年会が催され、

江口、大友、菅田、高橋、那須、藤村、村山、(以上札幌)藤田、(芦別)星田(苫小牧)等14名 (LE0.N-ro53)

2月15日 LEONTODO N-ro53号清水寛編集にて発行

瀧渥の御案内。北大エス会の学生層が沈滞し、衰弱したことについて北大エス会はいま絶滅の状態にある。(清水記)

5月 三石町けりまい小学校の向井豊昭氏(Panampe kaj penampe)を作る。アイス民話からの愉快的な絵本。向井氏が自費出版された。B.5版 6P.イラストはけりまい小学校の子どもたち。5月12日の道央版に大きくとりあげたので、エス語の宣伝にもやくだった。出版部数300 (LE0.N-ro53)

6月13日 北海道新聞「アイス民話集」のエスペラント訳として三石の向井豊昭教諭のことをこまかく紹介している。(相沢)

☆ 6月23日 北海道エスペラントセンターが、正式にスタートした。ながいあいだ待望されていたセンターが発足した。場所は北区北21条西2の19同日早速維持員総会を開き「センター規約」を採択した。

維持会員は以下の20名

相沢治雄、大友朝一、奥田スミ、河口政子、北畠 隆(苫小牧)木村喜任治、黒川恵美子、児玉広夫、沢谷雄一、清水 寛、菅田郁子、中里和夫(千歳)浜田国貞、(浜中)平田岩雄(室蘭)藤村忠明、星田 淳(苫小牧)松岡耕二(東京)水上郁子、山賀 勇(小樽)栗原 博 (LE0.N-ro55)

7月24日相沢Hamburgo行き。相沢は7月25日東京発 26日ハンブルグ着 27日~8月3日第59回世界エスペラント大会 8月4日ハンブルグ発ベルリン着 8月5日フランクフルト、チューリッヒ、ベルン 8月6日ベルン 7日ベルン発 8日ディジョン、フォンテンブロー、パリ 9日~11日ロンドン 12日ロンドン13日アムステルダム15日フランクフルト16日東京着

大会参加は北海道エス運動に関係ないから省くが、オランダAmsterdamに行きUEA本

部近くの中国料理店で会食した。そのうちの1人はSadlerであり、もう1人はMilojevicであると思うが名前がはっきり聞こえなかったので違うかも知れない。

自己紹介があり、私はこのヨーロッパ旅行に於いて、勿論UKに参加できたことは最大の喜びであり、次にユングフラウを天気の良い日に目の前に見ることができたのは幸運とも言えるが忘れられない思い出である。第3にUEA本部を訪問することができ、長い間さがしもとめていたNeologismo排斥に関する記録を、Kanada CambroのSamideano S-ro Moebecが簡単に見出して下さったことは本旅行最大の収穫であり感謝にたえないとのべた。(相沢)

7月27~28日 真駒内青少年センター第3回全道エスペラント合宿公式報告

★ 7月27日28日第38回北海道エスペラント大会 札幌 真駒内青少年会館

第1日 15.00 受付開始。晩餐会。講演と映画の夕。石黒氏流暢なエスペラントで講演 児玉氏通訳。映画Angoro上映。HEL委員会

第2日 9.00開会式 大会準備委員長の沢谷雄一氏歓迎の挨拶 島君開会宣言 児玉、藤村両氏議長団に選出。 つづいて小樽山賀氏が病氣静養中のHEL委員長高橋要一氏に代わり挨拶。石黒彰彦氏 JEIを代表して挨拶。地方活動報告。札幌沢谷雄一氏、小樽 江口音吉氏、千歳 中里和夫氏、苫小牧 星田 淳氏、函館 市川 忠氏、教育大学の三沢先生が同大学のグループ、及び付属中学校のグループの報告 HEL役員改選木村喜任治氏会長副委員長 国兼信一(函館)HEL事務局長の清水 寛氏が活動報告 きびしいHELの財政状況を報告。相沢はハンブルグから電報で参加した。参加者42名不在参加者21名 (LE0.N-ro54~55)

9月15日 「北海道エスペラント運動小史」覆刻刊行委員会の手により発行された。発行所 札幌市南2. 西4. 中央タイピスト学院内 北海道エスペラント連盟
タイプは北畠さんの手を煩わした。(相沢)

9月14日15日16日 小樽 朝里川温泉 友愛山荘で第4回北海道秋の強化合宿
ブダペスト大学(エスペラント学部のある世界ただひとつの大学)に留学しているポ

ーランドの20才の Michiewiczさん、東京から、関西から 2名参加 北九州、東京と祝電交換。(LEO.N-ro55)

★ 1975年

5月 旭川の熱心な同志、竹吉正広氏死去

★ 6月14日15日 第39回北海道エスペラント大会 函館市民会館 湯の川町1丁目

第1日 午後3時より受付開始。大会記念参加賞品として「北海道エスペラント運動小史」を参加者全員に配布した。

懇親会オセローの劇

1) 吉田会長挨拶 2) HEL 会長の挨拶 3) 相沢8ミリを披露

第2日9時30分 市川 忠氏司会 議長団 椿 陽考氏(札幌)北島 瞳氏(苫小牧)

吉田準備委員長挨拶 HEL 木村喜壬治氏挨拶 函館氏教育長三ツ谷毅一氏の祝辞

祝電披露 地方会。自己紹介をかねて報告 役員改選 委員長 木村喜壬治氏 副委員長 国兼信一氏事務局長 清水 寛氏、柴田昌子さん(札幌)の閉会宣言で終了

(参加者50名) (LEO.N-ro58)

7月27日28日 真駒内青少年センター第3回全道エスペラント合宿公式報告

8月2日 札幌 エスペラントセンター転居 豊平区平岸1-8に転居した。北島さんが大きな看板を寄付した。(LEO.N-ro58)

10月15日 ド・スメット夫妻来札 (LEO.N-ro58)

12月15日 札幌 講習会の終了式20名集まりZ祭をかねて賑やかなZ祭になった。

(〃)

月日不明だがけりまいの向井豊昭氏がAnbaŭ mamoj de la monto Porosir というアイス伝説をエス文で発行している。オランダ在住の永田明子さんが校閲している。

★ 1976年

5月8日 札幌タイピスト学院で初等講習会 毎週土曜日、6ヵ月コース学生を中心に8

名うち女性3名 中等講習会エスペラントセンターで (LEO.N-ro59)

5月9日 札幌 ウーシク永田夫妻歓迎会

5月10日 北海道新聞 星田氏苫小牧「父と息子の文通を中継エスペラントでかけ橋」

6月14日 旭川 東高校エスペラント部正式発足 佐藤忠利氏(愛別) (LEO.N-ro58)

6月26日 渥美楠雄氏胃癌の為死去。ミチューリンに手紙を書こうとしたことは、第1部に書いた。(第1部27頁参照)

☆ 北見エスペラント協会誕生 かねてより準備が進められていた北見エス協会が正式に発足した。会長は北見工大、助教授 大島俊之氏 現在会員8名 (LEO.N-ro58)

★ 7月24~25日 第40回北海道エスペラント大会 札幌市都市会館

第1日 3時受付開始 7時大会開始 司会者 佐藤氏。議長 奈良氏 副議長 藤村氏(共に札幌) JEI 代表石丸哲也氏 及び各地方代表挨拶並びに報告。北見エス協会 旭川東高校。

北海道エスペラント第40回大会を記念して、HEL に功労のあった方へ表彰状が、木村喜壬治委員長から手渡された。授賞者 相沢治雄、江口音吉、木村喜壬治、菅原鉄雄、高橋要一、新田為男、平田岩雄、山賀 勇、吉田 栄、渡部隆志の諸氏

第2日 大会協議会 1) 沢谷雄一氏から連盟の活動報告 2) 議事審議。役員改選、副委員長 市川 忠氏(函館)その他再任 3) 講演 渡部隆志氏(厚真)北海道のエスペラント運動について。三ツ石清氏(名古屋) Kio estas Esperanto. のち Gaja Kunveno "Otelo" 沢谷雄一氏、柴田颯の両氏で。寸劇 留目雅幸氏、宮川美恵氏。講演 エスペラント運動の思い出、服部幸雄氏 江口音吉氏。ESP と共に 山賀 勇氏。

北見のエスペラント運動活動報告 閉会 参加者39名 (LEO.N-ro60)

8月21日22日 相沢氏、児玉氏瀬戸市で開催された第63回日本エスペラント大会に参加する。瀬戸市定光寺町。

各原野町に住んでおられる渥美楠雄氏を(第1部に渥美楠雄氏がミチューリンと文通しようとしたことを書いた)にお会いしたいと思っが、同氏はすでに6月26日昇天して

おられた。会場でFilatelista 西宮市の前川治哉君にであい、何百枚というエスペラントの切手をみせてもらう。エスペラントに関する切手がこんなに沢山あることは全く見られるまで知らなかった。Komuna bankedoで学会会員50年以上の人、30年以上の人のHonorigoあり、私は30年以上の表彰状を貰った。(相沢)

9月9日から3日間エスペラント・センターに18人集まり「青年の合宿」、北見から5人も参加、3つのグループに分かれてそれぞれ劇や歌や、ラジオ体操や、会話や、賑やかであった。(LEO.N-ro61)

9月12日 HEL 委員会開催 出席者、星田、江口、木村、佐藤、沢谷、柴田、留目、奈良、花房、藤村の諸氏

1) ベトナム関係。ベトナムの同志歓迎のためカンパを集めた。2) 全国一斉講習会について、全国紙への協同募金として有料広告をだすために、HEL では10,000円を出費する。3) HEL 主催の来年の講習会について。札幌、小樽、苫小牧、北見の4箇所

(LEO.N-ro60)

☆ 札幌市教育委員会主催の成人学校でエス入門講座

9月21日～11月30日 札幌市教育委員会主催の第2期、成人学校で北海道では初めての試みとして「エスペラント入門」という科目が設けられた。講師は木村喜任治氏 申込は10名女性、2名男性。(R・O1976.10)

10月12日 山賀先生「小樽市教育文化功労者」として表彰される。

12月13日 北見エスペラント協会 Z祭 喫茶店「ポルカ」で、はじめてのZ祭、名古屋の三ツ石氏、中標津の北原青年も合せて参加者10名 各地方会の動静

札幌 講習会参加者 5名

北見 5月10日から始め講習生 7人

苫小牧 2名 1人は国際文通をやりたい、1人は好奇心から。(LEO.N-ro61)

★ 1977年

4月22日 山崎久蔵氏逝去 83才 (元北海道教育大学教授) 8月24日告別式、葬儀は京都府舞鶴市北吸 山崎福二方にて (高橋要一氏調)

5月8日 木村喜任治氏札幌エスペラント会の副会長となる。

5月6日 北見エスペラント協会は市立文化会館内に移転した。

★ 7月23日24日 第41回北海道エスペラント大会 旭川サンケイ会館

第1日 会場サンケイ会館 15.00 受付開始15.30 懇親会 留目氏と柴田さん寸劇。ジョイ・マルカリアン嬢参加す。英国の学校を写したスライドをマ嬢が上映した。椿氏ギター演奏 19.00 HEL 委員会

第2日 旭川労働会館 9.00 大会開会式。議長星田 淳氏 HEL 委員長挨拶 各地方会、HEL、エスペラントセンターの活動報告、役員改選、事務局長従来どおり。ジョイ・マルカリアン嬢(16才)と色々話をする。参加者27名 (LEO.N-ro62)

8月14日～27日 高橋達治氏「日本エスペランティスト中国訪問団」にくわわることになった。

10月8日～10日 北見合宿、向井原 宏氏(左呂間) 齊藤和子氏、坂下正幸氏(北見) 小人数ながら楽しくエス語を学んだようである。(LEO.N-ro62)

★ 1978年

2月4日5日 北見グループは北大雪山天狗岳スキー登山、2月25日～26日斜里岳登山 3月26日南知床別海岳 5月6～7日スキー登山 ニセイカウシベ登山など'78年度夏山行きを執行した。(LEO.N-ro62)

5月6日 北見エスペラント協会 北見文化会館の移転に伴い事務所を北見市北4条東4丁目に移転した。(LEO.N-ro62)

5月頃 鶴近庄次郎氏 HEL にあてエス文図書20冊寄贈する。(LEO.N-ro62)

7月23日～8月11日 第63回 パルナ(ブルガリア)世界エスペラント大会に山賀先生と児玉広夫氏出席。ユーゴスラビア、ブルガリア、ハンガリー、チェコスロバキア、を旅行された。大会期間中の1日(8月4日)パルナの近くのブルゴス市のかねて文通

していたR. Kasabova夫人が白内障にかかっているとのことで、日本から薬を送っていたが、又、バルナ市の助役も目を患っているので、それも診てもらいたいと言うので大学病院眼科をたずねた。そこの機械をかりて診察した。Kasabova夫人の目と市助役の目もみた、その他、20才位の青年の目も診察した。

ブダペストに宿泊した時。東独ドレスデンに夏休みできて居る、20年来親しく文通していたIrenn 夫人に再会できた。(1966年ブダペスト世界大会でGaspar. Irenn夫人の妹のGabriella さんの所に泊まったことがある。)12年ぶりで再会できた。この時のことは、筆を改めて感激深く記しておられる。(相沢要約)

(バルナ大会参加の記 日本エスペラント学会旅行団) 日本エスペラント学会旅行団発行 (昭和53年11月30日編纂人 山賀 勇氏)

★ 9月23日24日 第42回北海道エスペラント大会 苫小牧市民会館

第1日 前夜祭 選手強化会宿 15時受付開始15.30 講演、余興等 21.00HEL 委員会

第2日 (市民会館) 9時受付開始 開会宣言 星田嬢(14才) 議長団 福田 伸 北島瞳両氏 木村喜任治委員長の挨拶 各地報告、留目(札幌)市川(函館)高橋(小樽)星田 (苫小牧)新田(由仁)菅原夫妻(厚真)の諸氏。HEL。つづいてユーカラ翻訳活動に就いて星田 淳氏より報告。各地代表挨拶15.00苫小牧の老人ホームにいる浅井喜一郎氏の話。昭和の始め大和庄祐が先生。17.30 講演 中国旅日記 高橋達治氏 晩餐会スライドやB ミリや報告で持ち切る。参加者38名不在参加10名 (LEO.N-ro63)

10月2日 北海道新聞に「知里幸恵エスペラント訳完成」道内のグループ8年がかりで。星田 淳氏や元豊平駅長の相沢さんら約7人のグループが8年がかりの翻訳に取り組んだ。と写真入りで記事がでた。エスペラント宣伝上役にたったと思う。

翻訳にあたったのは相沢治雄氏、星田 淳氏、池本盛雄氏、児玉広夫氏、関尾憲治氏 山賀 勇氏の6人であった。文法上の校閲は松葉菊延氏にお願した。(相沢)

12月9日 渡部隆志先生、苫小牧図書館にエスペラント語の宮沢賢治集を寄贈したことが北海道新聞に写真入りで報道された。(1978年北海道新聞)

★ 1979年

7月8日 菅原鉄雄氏死去。勇弘郡厚真町に居住され渡部隆志先生を近所に呼んだのは菅原氏であった。

7月30日 北海道新聞に〔名作「アイヌ神謡集」エスペラント語で出版〕と掲載された8年がかりの労作、原文の繊細さ見事に生かす。と我々の苦心したことを伝えた。

★ 7月28日29日 第43回北海道エスペラント大会 小樽市朝里川温泉 山水
第1日 親睦会 山賀先生から差し入れのビールが手伝ってか、あちこちで楽しい語りかがどよめく。北海道小樽新聞支局の記者が「アイヌ神謡集」エスペラント版の発行を知って取材のため来訪。ユーゴのメッツ嬢から、スライド、8ミリフィルム、高橋達治氏 中国旅行のフィルム披露。

第2日 9.30 開会式 高橋達治氏の司会。開会宣言 綺野真代嬢。大会準備委員長 山賀先生 続いて山賀先生より純銀製のバッジが全出席者に送られた。議長団選出 星田 淳氏 浜田国貞氏 HEL会長木村喜任治氏が病氣入院中のため児玉広夫氏代読。厚真町菅原鉄雄氏の靈に黙禱。各地方報告 札幌 福田(札幌)高橋(小樽)星田(苫小牧)市川(函館)HEL 財政報告 留目。図書 佐藤。センター会計 児玉の諸氏役員改選。ほぼ全員留任。自己紹介。高橋達治氏大会終了後に転動先へ出発されるとのこと。自由討論 “国際舞台へのエスペラント” 石黒彰彦氏から「エスペラント雑感」外磯部真世嬢、福田 伸氏 “外国旅行体験談”あり。参加者45名 (LEO.N-ro65)

11月8日 ポートランドのS-ino Ho Ho Ho 来札 7日江別市 9日札幌で若手のオーケストラのマネージャーの一員として来札したものである。(LEO.N-ro65)

12月15日 札幌 ザメンホフ祭

☆ この年は例年にない多くの外国のエスペランティストが来訪されたことである。大会に参加されたユーゴのズドラフカ・メッツ嬢 9月下旬にはカナダのゲオルギー・クリザン氏が函館、小樽、札幌、苫小牧、室蘭の各市を訪問、11月初旬には、札幌との姉妹都市提携25周年を記念してポートランドのホイズル夫人が、同月下旬には、ソ連の観光船

が小樽港に寄航の際、ブルガリアの作家セイコフ氏とカムチャカのパレンチーナ嬢等多数の外人が北海道を訪問された。(LEO.N-ro66)

☆ 北見エスペラント協会 池本盛雄氏が転動した後、次のように装い新に再出発することになりました。会長：津村初雄、副会長：佐々木光政、会計部長：大島光政、図書部長：向井原広 (R・O1979.12)

★ 1980年

4月28日 函館 西ドイツの元高校教師で神父のタール・マイヤー氏着、ホテルでスライド映写をみながら、話あう。吉田、国兼、市川集まる。

4月29日 室蘭 同氏着。平田、須藤、佐藤が迎え洞爺湖を回り、夜は平田宅へ。

4月30日 苫小牧着。近郊のポロト湖のアイヌコタンへ。

5月5日 札幌 タール・マイヤー氏と夕食会

5月25日 日高エスペラント会創立 タール・マイヤー氏来訪を機に厚賀の佐々木夫妻宅で定例会を開く。星田 淳氏オブザーバーとして参加し、静内町で講習会を開くことをきめた。6名参加申込あり。(R・O1980年10月号)

6月20日 道新 「有意義なエスペラント学習」 ① 小林貴美子さんが記事をかいた。此の記事が契機となりその後夫人連中が講習会に来るようになった。

① 小林貴美子夫人 1935年 札幌市に生まれる。北海道道立札幌西高等学校卒業 1979年10月 市民初級講座でエス語を学ぶ。

6月23日 ウーシンク・永田歓迎会 渡欧以来初めての里帰り、中央タイピスト学院の一階「えび天」で開催、20名参加、盛会であった。(LEO.N-ro66)

☆ 7月19日20日 第44回 北海道エスペラント大会 札幌市 道庁共済会館
第1日 15.00 受付開始 18.00懇親会(自己紹介、クイズ遊び、歌唱) 21.00 ビデオ鑑賞(望郷の星)

第2日 9.00受付開始 9.30 開会宣言 大会準備委員長の挨拶 議長選出、議長挨拶、HEL 会長挨拶、報告 HEL:HEC Libroservo財政報告

議事討論。大会祝賀演説 福田伸氏。海外旅行経験談 ① 三沢正博氏。14.30 閉会宣言

☆ 第44回北海道大会を祝して。福田 伸氏

……(前略)たとへば昨年のことですが、東京のある学生達は9つの国から、日曜日のテレビ番組を集めて、学園祭の時にそれを紹介しました。人はそれを大したことでないと言うかもしれませんが。しかし私は、他の誰かが市民的レベルで同じ事をやったと言う事を聞いたことがありません。それは、エスペラントの利点を非常に良く利用した一つの例ではありませんか。そして重要なのは、そのような事を積み重ねることなのです。……(後略) (LEO.N-ro67)

☆ 三沢先生の講演内容

私とエスペラント(陸幼入学)(私と外国語)(陸幼の外国語)(敵性語の無意味さ)(敗戦後)(エスペラントとの出会)(民族語と国際語)(国際語エスペラントへの自信)各項目に種々論じておられるが節約する。北海道教育大学教授 三沢正博氏

参加参加者27名(LEO.N-ro67)

① 三沢正博氏 1930年東京都生まれ。1949年長野県立須坂高等学校卒業 1954年東京外国語大学ロシア語科卒業 1956年 東京大学院教育学専門課程修士終了 1950年東京都品川区大井町のローザ・ロンドで学習を始める。1985年第49回大会で北海道エスペラント連盟会長に推薦される。著書 ソビエト、ポーランドの教育学書の翻訳、及び同国の教育事情についての論文など。

☆ 北海道エスペラントセンターの危機遂に来る。(後文参照) (LEO.N-ro66)

☆ 7月大会直後 北海道エスペラント・センター 豊平区美園11条 4丁目に移転する。いままでのセンターは2月に明け渡しをせまられていた。しかしこのセンターもながくは続かなかった。(LEO.N-ro66)

8月29日 三宅史平氏死去

12月14日 札幌Z祭エスペラント・センターで10人位集まり賑やかであった。

★ 1981年

1月17日「国際情報はエスペラントで」朝日新聞

★ 7月25日26日 第45回北海道エスペラント大会 札幌市 道庁共済会館

第1日15.00 受付開始 20.00映画上映 (ジャン有馬の撃撃) この映画は大映作品で監督は伊藤大輔、ポルトガルがマカオに奴隷船を送っていたころの筋書で、ポルトガルの国名をイベリオ国とし、その国ではEsperantoを国語として用いていたと言う設定。製作は1958年、山村 聡、根上 淳、市川雷蔵、叶 順子、坂東養助、などが出演。大映では廃棄処分にしたと言われていたのが札幌で発見された。ところがフィルムが古く固まっていたので回転がおそく失敗してしまった。

この映画にはエスペランティストである佐々木孝丸氏は出演していない。それは伊藤大輔が気がつかなかった為であって、後でその話が出たところ、君はエスペランティストだったのだな、うっかりしていたと後悔しておられたそうである。(相沢)

第2日 9.00受付開始9.30開会式 総会 11.30 市民公開講演会 講演 JEI広報部長 梅田善美氏 「国際交流と言語問題」大会の意義、エスペラントの必要性、日本語の構成、翻訳の仕方等 (参加者45名)

(Informilo de 45a Hokkaido-Esperanto-Ligo)

8月9日 葛西藤三郎氏死去 73才 勲五等瑞宝章

北海道労働基準局庶務課長 退官後 札幌社会保険労務管理事務所を開設、北海道社会保険労務士会副会長として労働行政の推進に尽力された。

同氏の事務所の玄関の真上横一杯にEsperanto-Kabinetoと大書し、独自の初級用テキストを作成しesp-istoの養成に努めておられた。東北のエス界で活躍され、第24回日本大会にも出席された古い同志、葛西藤太氏は実兄であると聞いている。

(高橋要一氏書簡)

9月 北海道エスペラントセンター終りに閉鎖。廃止に当たり大きな問題は、エス文図書
の扱いでしたが幸い三沢教授が古い価値ある図書の保管を引き受けられ、後程その図書

の目録を作成するという労作を成し遂げてくれました。

(後文参照)

(児玉氏書簡)

12月13日 札幌 2祭ユニオン・ホテル

★ 1982年

永田明子氏北海道新聞に「ドーベルト村から」を書く。エスペラントに直接関係ないが記事の説明にエスペラント協会のことがその度に紹介され宣伝上役にたった。20数回連載

★4月1日 道新「なぜ広まらないエスペラント」栗栖 継氏 学会の内部関係のエスペランティストの学力が不十分であることなど一般社会人には無関係のように見える部分が多くエス語の宣伝にはならぬように感じた。

5月に発行されたLeontodo N-ro67に児玉氏が「HEL 活動の作今」と題して巻頭言をしているがそれによるとエスペラント・センターも閉鎖を余儀なくされと書いているから1982年5月以前に閉鎖したことは事実である。(LEO.N-ro67)

6月21日 ウーシク永田 石狩会館で歓迎会 (日誌より)

7月19日 道新「江上不二夫氏死去」元JEI 理事長

7月25日 LEONTODO N-ro68発行される。付録として第46回北海道エスペラント大会記念出版 「スぺラント文献目録」第1部前編24頁にわたる文献が添付された。エスペラント・センター閉鎖のため三沢先生が保管している膨大な蔵書(福田仁一氏 外何人かから寄贈されたものを年代別に整理したものである。北海道教育大学札幌分校 教育室 三沢正博氏編集 (LEO.N-ro68)

★ 8月7日8日第46回北海道エスペラント大会 札幌市ホテル・ノースシティ

第1日15.00 受付開始 18.00市民公開講演会 ウルリッヒ・リンス氏 通訳、梅田善美氏「ドイツ人から見た最近の日本」梅田、リンス氏を囲んで座談会あり。

第2日 9.00 受付開始 13.00 講演 ウルリッヒ・リンス氏梅田善美氏出席者33名
リンス氏講演内容 日本がなぜ成功したかについて次のように分析している。

① 日本人の文化的環境が培った団体作用による ② 階級差別のない社会構造の中で単一社会を構成し、他を羨望的に見ない ③ 学習意欲旺盛で積極的に新知識を導入する ④ 労働者の働きよい社会の組織、構造 ⑤ 欧州では見られない産業構造 ⑥ 産業間の協力、提携がうまくいっている ⑦ 産業の経済的発達を国家目標ととらえている。一面、魔物のような日本の政治家とか、超マイクロ的技術について、悪魔的所業などと酷評する者がいるが全体として日独間はうまくいっている、今後も更に交流を深めて相互理解を図りたい。(90分)

終了後北島さんと梅田氏北見に向かう。大島氏はじめ北見の同志と会合をもつ。北見ではハム試験に挑戦し、またウィルク語の日本語訳と着々成果をあげている。

参加者40名 (Bulteno de la 46a HEL-Kongreso)

8月7日 道新にウルリッヒ・リンス氏の講演「エスペラント語で講演会」大会のことに言及している。

☆8月17日 星田 淳氏「小樽市友好の船」でソ連に行く。記録は後でLEONTODO N-ro69号付録として発表された。

8月28日 札幌 鶴近庄次郎氏死去。札幌の初期のエスペランティストであった。死去の前に蔵書を連盟に寄贈されたことは先に書いた。

9月16日 人にしられていないエスペランティスト浅井喜一郎氏、苫小牧市矢島病院で死去された。彼の残稿の一部は星田 淳氏が (LEO.N-ro69) に掲載した。第42回北海道エス大会 (苫小牧) に出席されたこともある。養護老人ホームで寂しくなくなったが、世間にでないエスペランティストはかず多い。(LEO.N-ro69)

月日不明だが苫小牧民報 (1978) 年「銀教室」高齢者の主張から欄に掲載された、浅井喜一郎氏。1914年9月生まれ。1924年函館商業学校退学。以後家業の海産商を営む。現住所苫小牧市松風町市立養護老人ホーム。エスペラントのことを書いている。(娘に碧 (みどり) と名づけた、函館警察署の屋上から浜口陥落を祝う提灯行列をみた。侵略戦争に対する憎しみは私の死に至るまでの願いだ。) と累々と書いている。

浅井氏は大和庄祐氏等と共に北ボルネオ、(今のブルネイ) に司法省派遣団南奉公義勇団として送られ辛苦をなめた。

(中間報告・司法省派遣団南奉公義勇団)

(宮本正男氏提供)

11月5日 小樽早川 昇氏死去 小樽から山賀先生、江口、石黒氏、札幌から木村喜壬治 高橋要一両氏葬式に参列。

★ 1983年

1月R・O1月号に北見エスペラント会の報告あり。北見6名、興部2、清里1名

目下 "Esperanto-Japano - Ŭilta Vortaro" 出版準備中とのこと。Ŭilta語とは北方少数民族オロッコのParolata Lingvo とのこと (R・O 1983年1号)

1月30日 北海道新聞知里幸恵の記事

2月7日 札幌雪祭見物をかねてS-ro MacGill F-ino MacGill 来札 S-ro MacGill は京都の神学校で働いており、娘はDenaska Esperantistoで12日歓迎会を(ばら園)で開く、苫小牧、小樽から出席あり18名の楽しい集まりとなった。(Heroldo de HEL.N-ro3)

7月4日 小林貴美子さん第14回サンフランシスコ州立大学のエスペラント夏期講座に参加 7月4日~7月22日約3週間 参加者70名 日本から8名 北海道から2名北島さん小林さん (Heroldo de HEL.N-ro 3)

7月30日~8月6日 ブダペスト第68回世界大会に山賀先生、江口氏出席。

7月31日 閉会式

8月1日 医学者分科会に出席 (山賀氏と一緒に)

8月2日 郊外見物 (バスにて)

8月3日 Ekskurso (ダニユヅ河の遊覧船)

8月4日 市内見物 (バス)

8月5日 山賀先生の文通者S-ino ヘレナ・タスナーデ来訪

8月6日 閉会式。山賀先生の文通者F-ino ガスパー宅を郊外に訪問する。

教大卒のF-ino 野村優子さんのアパートを山賀先生と二人で訪ねました。

8月7日 バリーに向かう。

(江口音吉氏報告)

9月7日 道新小林貴美子さん「エスペラント語講座でいい経験」第14回サンフランシスコの州立大学のエス夏期講座に出席した経験の記。これによってエス語の宣伝に大いにやくだった。

9月10日 LEONTODO N-ro 69発行 以後発行を中止しているが連盟会員の減少により Heroldo de HEL という2頁の報告にかわった。N-ro 69号には別冊付録として星田 淳氏の「シベリヤの同志を訪ねて 1982年 8月「小樽市民友好の船」という小冊子がついた。16頁、1982年読売新聞北海道社会版にバイカル湖畔で往年の同志セルゲイ・フィリポフ氏に出会った時のことが写真入りで報道された。

★ 9月17日18日 第47回北海道エスペラント大会 札幌市自治会館

第1日14.50 受付開始 15.00自由懇談18.00 スライド上映、寸劇、歌唱等20.00 懇談会
マルクシュ・ガーボル氏を囲んで

第2日9.00~10.00 初級試験(和訳、エス訳会話)受験者9名 10.00~11.00 早川氏
(小樽)の豊に黙禱 大会協議会 議長選出 議長星田 淳氏 HEL会長挨拶 来賓挨拶
マルクシュ・ガーボル氏他 JEI会長磯部幸子氏と UEA副会長 梅田善美氏の挨拶
(代読) HEL及び地方会報告 自己紹介 HEL役員選出 次期大会開催地決定 11.40~12.00
記念撮影 13.00 講演「日本留学体験、見たまま、聞いたまま」マルクシュ・ガーボル
「ブダペスト世界大会に参加して」山賀 勇氏。「サンフランシスコ州立大夏期講座に参加して」北島 瞳嬢 15.00閉会宣言

参加者25名(児玉氏調査) (Heroldo de HEL.N-ro 6)

☆ この年あたりからエスペラント運動の沈滞期に当たっていたのだろうか、毎週土曜日の集会など、老人ばかりようになってしまった。LEONTODOも発行できず、寂しいような気分になった。札幌はそれでも2~3人はあつまっていたが、各地方都市でも、なにもない、といった状態が2年ほどつづいた。

12月19日 札幌Z祭ペリカにて

12月20日 山賀先生「一冊の本」を近代文芸社より発行 216頁 50項目以上の随筆集 エスペラントのことばかりでなく、森鷗外から杉田正晋のこと、少年時代その他。エスペランティストばかりでなく一般市民にも興味がある。

☆ 福田氏は1984年Heroldo de HEL N-ro6に外国旅行のことをつぎのように記している。

福田伸氏 マドリッド訪問「団体表面に関する国際会議」に出席する機会があったので、何人かのエスペランティストや友人を訪ねてきた。ユーゴに行く時チューリッヒからオーストリア経由でチューリッヒ・ベオグラード急行列車で行く。Zagrebで中年の紳士にであらう。斜め向かいの紳士の胸元を見ると、何と胸に緑の星のバッヂを付けているではないか。話をすると弁護士をしていたが今は、隠退してベオグラードで市の法律関係の仕事をしているとのこと。その他大韓航空の墜落事件などを話す。ユーゴで北海道大会に(朝里川)出席した事のあるYamazaki-Wukie (奥さんは旧姓齊木さん)夫妻の世話になる。エスペランティストが多く住んでいるOsrijekに行く。Locaris氏からエスペラントを学びはじめたのは「ジャーナリスト・登山家として非常に尊敬しているチボール・セケリ氏の影響です」と聞かされ、この時ほど人の輪というものをつよく感じたことはなかったSimunik氏からアイヌのユーカラ是非と言はれて児玉広夫氏から5部おくらしてもらった。大会報告と違うが(1984年2月29日福田氏が記したものを相沢要約)

(Heroldo de HEL.N-ro 6)

★ 1984年

4月24日 S-ro Olivaer WALZ (Germanio) アイヌ関係のものを求めて来道の同氏は4月24日来札、植物園を最初に案内したがまだ開園前で目的を果たせず、市内見物の後夕食を石狩会館において7名が参加して歓迎、閉店まで歓談した。アイヌのユーカラをプレゼントした。なお、彼は西ドイツの医系学校卒、試業販売業従事。

(Heroldo de HEL.N-ro 8)

5月から相沢「北海道エスペラント運動史」第1部に着手

5月19日~7月21日 札幌 毎土曜日2時間10回初等講習会を開催 講師は小林貴

美子さん。

7月11日～15日 苫小牧 星田 淳、梅木、那須3人のエスペランティストが5日間で知床連山を踏破した記録を克明にエス文で報告している。(Heroldo de HEL.N-ro 5)

7月13日 北畠 瞳さん、大和 延さんの二人はバンクーバーで開かれた第69回世界大会とポートランドで開催された太平洋会議に出席した。(Heroldo de HEL.N-ro 7)

8月 連盟会長木村喜壬治氏はUEAのDelegitoであるが最近Esp.書きの旅行案内書を送ってほしいとの手紙がArgentinoから100部送ってほしい。Venezuelaから5部と申し込みがあった。今エス語の案内記がないので断ったがエス語案内は是非作りたと思うのである。(Heroldo de HEL.N-ro 7)

8月18～19日盛岡で開催された71回全国大会に北海道から北畠 瞳氏(苫小牧) 星田 淳氏(苫小牧) 江口音吉氏(小樽) 椿 陽考氏(札幌) 相沢治雄氏(札幌) 木村喜壬治氏(札幌)の6名が出席した。この時北畠さんが挨拶の時日本エスペラント大会を北海道に招待できたらよいが、というような話をしたところが晩餐会の時だったと思うが1988年に北海道で大会を開催して貰えないか?という話が横浜の刈部氏から申し入れがあった。(Heroldo de HEL.N-ro 6)

8月21日 第71回日本大会(盛岡市)に参加した韓国女性2人来札。P.M 6時から石狩会館で歓迎会を持った。その中の一人 s-ino I Ungumは韓国エス協会の初級試験に合格して、我が国にやってきたとのことである。夫君は大学教授、二人の息子は小学校の一年と二年、毎朝早朝 "Sub la verda standardo" をテキストにしてエス語の勉強をして、そのあとは両親の指導で家庭で学習を続けているとのことである。

夫君の "So Gilsu" が英語からエス訳した読み物があるそうである。

尚 S-ro木村が2日間付き切りで市内観光、その他接待された。同夜の出席者はよく覚えていないが10名位と思う。(高橋要一氏記録)

★ 9月22日23日 第48回北海道エスペラント大会 札幌市自治会館(はまなす)
参加者21名 (参加者18名不参加者1名高橋要一氏調べ)

第1日14.50 受付開始 18.00～20.00 紙芝居、その他、

第2日 9.00～10.00 浜中 稔氏 開会宣言 HEL総会

1) 1988年度日本大会招請の件(検討する) 2) Esp 百年記念事業(北海道Esp 史発行について) 3) 1986年北京のUK参加について 4) 共同事業 Esp文・北海道案内書等刊行について 4) 役員改選 全員留任 10.30～11.40 講演 三沢正博氏 13.00～15.00 分科会その他。報告 世界大会参加報告(バンクーバー) 太平洋大会参加報告(北畠 瞳氏 大和 延氏)

三沢教授講演内容

(教育の国際化と比較教育学の任務) 20分にわたる。

第14回サンフランシスコの夏期講座出席の記

役員改選は前後5年ばかり再選に次ぐ再選で今大会では1985年第49回大会まで次の通り

(HEL 役員再録)

相談役 山賀 勇(小樽)

会長 木村喜壬治(札幌)

副会長 市川 忠(函館) 吉原正八郎(札幌)

事務局長 児玉広夫(札幌)

常任委員 椿 陽考(札幌) 佐藤忠利(札幌)

留目雅之(札幌) 星田 淳(苫小牧) 北畠 瞳(苫小牧) 江口音吉(小樽)

平田岩雄(室蘭) 大島俊之(北見) 新田為男(由仁) 浜田国貞(足寄)

(Heroldo de HEL.N-ro 5)

9月23日 北海道新聞 こちらグループ欄に(外国の仲間もブラリ、中間層乏しいのが悩み)札幌エスペラント会と言う記事がでた。「人類は一つの家族である」昨年9月の北海道エスペラント大会の記事として昨年の写真いり。

11月3日 札幌 S-ro Thomas Bornn(独) 石狩会館で歓迎晩餐会19名出席 同夜見

玉広夫氏宅 4日樺 陽考氏宅 5日小樽市、 6日苫小牧北島 瞳氏宅にそれぞれ一泊し次の旅行地へ出発した。
(Heroldo de HEL. N-ro 8)

11月16日 札幌 S-ino Ho, Ho, Ho来札、姉妹都市ポートランド市(米)からの交歓訪問者の一人である S-ino Hoが、11月15日札幌にやってきた。(千歳出向え、北島、相沢、木村)。翌17日は初級講習会に現れ、受講生(先齋諸氏も交えて)2時間ほど懇談。夕は市主催の晩餐会で(樺、北島、児玉、伊藤、木村出席)懇談をした。18日は午前中ポ市教育長代理として札幌市教育長を表敬訪問(通訳として児玉同行)、教育現場にエス語導入を勧奨した。同日夕は家庭訪問のプログラムで市内の小林貴美子氏宅で、はじめての日本家庭訪問で万事が珍しく大へん喜んで帰られた。(参加女性:小林、北島、大和)19日は朝8時に帰国の途につかれた。木村善任治氏緑星旗を携行見送った。

(Heroldo de HEL. N-ro 8)

11月29日 札幌 北海道国際人形劇フェスティバル全道祭典あり、韓国ソナンダン劇団が来札した。韓国の S-ro Sim Woo-Sing 氏他韓国からの同志8名集まる。団員中エスペランティストが居るので、北里香(ペリカ)で歓迎会を催す。全部で18名参加のもとに楽しい交歓会のひとときをもった。このころからだんだんエス運動らしくなった。

(Heroldo de HEL. N-ro 8)

12月15日 講習会の終了式20名集まりZ祭をかねて賑やかなZ祭をおこなった。Z祭開催初等講習を終わった若いひと達も集まり約4時間20名の参加者、賑やかなZ祭となった。
(相沢)

12月15日札幌エスペラント会ではユニークな?会則をつくった。

札幌エスペラント会運営について協力依頼 (1984年12月15日)

◎はじめに

札幌エス会の組織は1980年8月の総会以来開店休業の状況であったが、その間1984年まで海外エスペランティストの接待、会員への連絡、通信、講習会の開催、学習会場等すべて個人の負担を中心に実施されて来た。この状態で放棄すれば会員の増加はもちろん個人の

世話役活動も限界となるので、有志の者が相諮り次のような運営を当分の間行って会員の拡大を図ると共に会の運営の在り方についても検討を加えることとした。

◎組織について

- 1、会員として余り拘束されない緩やかな組織とする。
- 2、会員はエスペラントに関して理解を有し入会を辞退する意志表示者以外を以て組織する。
- 3、規約、総会等は組織の確立後に決定し、当分の間旧役員を中心に推進する。

会長^{SES} : 吉原正八郎・事務担当 ①: 宮岸忠孝、顧問: 北海道エスペラント連盟(札幌在住役員)

◎経費について

- 1、会費 : 会費は個人の選択により月額 A・1000円 B・500円 C・200円とする。

(以下省約)

☆ 会長事務所 中央区南1西3札石ビル内 電 251-4750 (吉原)

☆ 事務担当者 北区北7西6クリスチャンセンター気付(宮岸) 電 736-0104

① 宮岸忠孝氏 1919年4月22日 北海道赤平市に生まる。旧制高等小学校卒。

1977年10月初級講座受講現在継続学習中。クリスチャンセンターで初等講習を指導している。

★ 1985年

1月「北海道エスペラント運動史」第1部完成吉原先生に提出(相沢)

1~3月北海道エスペラント運動誌印刷協力金あつめ

2月21日浪越春夫死去 生年1911年(明治44年)3月21日生れ。

札幌エスペラント会の初期の時代に大きな貢献のあった浪越氏が死去された。

4月 北方文芸4月号にチェッコ文学者栗栖 継氏が「真実のひとり旅」(私のルーツ)

の題名で1983年正月号から27回に亘って掲載してきた。エスペラント関係が多いので、

1946年のマッカーサーへの陳情書のことを書いてもらいたく、栗栖 継氏に手紙をおく

ったことがある。いつか出るだろうと思っていたがチェッコのエスペラント運動のことが、ながく続き、時々R・Oに紹介記事をかいたことがあるが、要約するのが難しく、栗栖氏の機嫌を損じたこともあった。北方文芸の編集委員会が4月号で打ち切ると、言うので、ついに掲載されたわけである。以下前文と重複するかもしれぬが引用する。

(相沢)

札幌のエスペランティスト相沢治雄が送ってくれた資料によると、アメリカ軍占領当局の1946(昭和21)年9月5日付通達で、9月10から日本とドイツを除くすべての国に中国語、英語、フランス語、日本語、朝鮮語、ロシア語およびスペイン語で書いた個人的または家族的性質の通信文を郵便葉書で送れることになった。エスペラントは除外されたわけである。

そこで札幌に本拠を置く北海道エスペラント連盟では、同年12月15日のザメンホフ誕生記念日を期してマッカーサーに陳情書を提出することになった。だが相沢治雄の書いているところによるとこの陳情書は郵送せず、相沢が12月25日に東京のマッカーサー指令部で当直の中尉に手渡した(丁度クリスマスで係りの者がいなかったからである)

当時、北海道交通労働組合連合会(北交連)の副委員長を勤めいた相沢治雄は、私鉄総連の結成大会が12月末に大阪でひらかれるというので、大阪に行くことになりその途中、交通労働関係の人たちと会う必要もあって東京に寄ったのである。けっきょく私鉄総連の結成大会は翌1947(昭和22)年1月10日、大阪市の北市民会館で開かれ、相沢は出版部長にえらばれた。(中約)

北海道エスペラント連盟のマッカーサーへの陳情書が効いたかどうかは、もちろんわからない。効いたかもしれないし、黙殺されたのかもしれない。しかし1946年12月という早い時点であえてこのような陳情書を提出したことは、記憶にとどめておくべきことだと私は思っている。(後約)

4月20日 北大言語学教室で大学院生の切替氏の提案でエスペラントの研究会があった。高橋要一氏が見学並びに指導にいった。エスペラントは初めての人ばかりであった

が、その理解ぶりは驚くばかりであった。男子3名女子2名切替氏高橋氏計7名(相沢)
4月24日 クリチャンセンターで講習をうけている若い人達及びオフィス学院の中等講習をうけている人達がTRANSDONO TABULO という小冊子を発行した。

4月25日 木村喜壬治氏が心臓を悪くして市立札幌病院に入院しているので見舞いに行く。(相沢)

7月27日 ここ2~3年開催したことの無い大会準備委員会を初等講習者の要望によりオフィス学院で開催。大会準備委員長 吉原正八郎(欠席)出席者、相沢、高橋、宮岸、椿、宮井、坂下、大友、三沢、決定事項 受付 小林 会計 浜中、大会宣言初級者の中で山下さんの子供、進行係佐々木、設営、総務宮井、宮岸、浜中、議長団 星田、椿 (相沢)

☆ 7月 アウグスブルグの世界大会に北畠 瞳女史出席 アウグスブルグ日刊紙、Augsburger Allgemeine に写真入りで記事大きくでる。

8月3日~10日 北畠 瞳女史 アウグスブルグの第70回世界大会に出席し、その帰途ザメンホフの墓も参拝してきた。

★ 9月7日8日 第49回北海道エスペラント大会 札幌 道自治会館

第1日 9.00 受付開始 17.00晩餐会 18.00 懇親会

第2日 9.00 開会宣言 渡辺康子氏。吉原札幌エス会長大会準備委員長として挨拶。議長団に星田 淳氏、椿 陽考氏選出。HEL会長木村喜壬治氏病氣入院のため議長代読。各地代表挨拶、記念撮影、

その他講演会 来年の北京大会の参加希望者が多いので学芸大学の比較教育学林三枝子先生 中国旅行記

アウグスブルグ世界大会報告 北畠 瞳女史 スライドを用いて説明

参加者36名、欠席参加 4名

参加人員は少なかったが、5年間据置かれた役員改選もあり、北京大会の参加希望者が大半をしめ、熱気のある大会となった。(参加者32名)

連盟では間もなく次のような大会報告を出した。

第49回北海道エスペラント大会報告

去る9月7日～8日 北海道自治会館において全道より32名が参集して北海道エスペラント大会が開催された。

この大会はエスペラント運動の再興を目指した熱気溢れた素晴らしい大会となった。

議長団には、S-roj 星田 淳：椿の2人を選び以下のことが協議決定された。

1. 新年度の活動方針

- (1) エスペラントの普及のため初等講習会を開催する。
- (2) 機関誌活動(会報)を強化する。
- (3) 第50回大会(開催地札幌市, 9月予定)の成功を期す。
- (4) 日本大会の招致については第50回大会までに検討する。
- (5) 北京大会へ積極的に参加をはかる。
- (6) その他昨年議論のあった北海道観光地図の作成についても検討を継続する。

2. 役員の変更について

☆ 会長 三沢正博, 副会長 吉原正八郎, 見玉広夫: 事務局長 宮岸忠孝。

☆ 常任委員 三役に選出を一任する。

☆ 委員 各地区より選出する。

☆ 顧問 山賀 勇, 高橋要一, 相沢治雄, 木村喜任治。 (第49回大会報告書)

9月14日～15日 苫小牧S-ino Rowena MacGil 江別から苫小牧に着いて14日ひかり幼稚園で出演後、ダイエー喫茶「ゆき」で会合14日、~~釜井のひかりのくに幼稚園~~に出演後、劇団は室蘭にむかった。 (MOVADO 418号)

10月8日 札幌FM北海道が中央オフィス学院で5日に収録したエスペラントの学習の様子を放送した。吉原先生や木村喜任治氏(病気回復し5日の会合に出席した)のエス語についての説明など上手に編集してあった。4時20分から10分であったが宣伝効果があったようである。 (相沢)

11月3日 苫小牧市民文芸 第27号 198頁の立派な雑誌である。これに星田 淳氏の「エルミタージュとレニングラード包囲」という文が掲載された。(PACO '83/6)の「私の愛するレニングラード」の翻訳である。作者ワレンチナ・ニコラエフの「戦争が又起こらないように全力をつくす」の言葉を国際交流の中で確認して行きたい、と結んでいる。

12月14日 札幌ザメンホフ祭 クスチャン・センターで15時より開催。参加者39名 欠席1名 今迄のZ祭に見られない盛大なものであった。札幌大学のロシア語の先生マリア・クリボンキナ夫人も参加された。初心者が多いのでエスペラントで話す場合は通訳をつけた。

第1部司会者浜中 穂氏・宮岸氏の挨拶。三沢先生のZの話。エロシェンコ、長谷川テル、プロエス時代の話。前北海道エスペラント連盟会長木村喜任治氏の北海道のエスペラント運動の話。北島 瞳女史の世界大会にいった時ワルシャワに行きザメンホフの墓に詣でた報告(見玉氏通訳)宮岸氏の札幌エス会会計報告。第2部食事その間に自己紹介。司会者佐々木将人氏。第3部相沢アイヌ・ユーカラの朗読、三沢先生が栗原夫人のピアノ伴奏でフルーツ演奏、大友鞆一氏のマンドリン独演、寸劇初心者一同。高橋要一氏のエス語の慣用語について。星田 淳氏のカレワラ朗読。そのときカレワラに感激したマリア・クリボンキナ先生がエストニアのカレワラ、カレリアを朗読した。椿氏のギター演奏により参加者一同合唱。初心者が多かったがこんな盛んなZ祭は初めてである。 (相沢)

☆ この札幌エス会のZ祭で北海道エスペラント連盟の報告も発表された。今年の大会で三役に一任された役員、常任委員新田為男氏(由仁町)星田 淳氏(苫小牧市)北島 瞳氏(苫小牧市)椿 陽考氏(札幌市)坂下正幸氏(江別市)江口音吉氏(小樽市)委員(地区)HELの業務遂行のため札幌地区の会員を委嘱し、札幌以外の地区については、業務が軌道に乗ってから委嘱したい。委員の委嘱者氏名と担当業務 ◎ 浜中 穂氏◎ 宮井康夫氏、小林貴美子氏◎ 事務局次長 未定 ◎ 地方連絡委員 地方より

推薦を得て委嘱する。

顧問の指導協力業務分担 ◎ Eの普及と講習業務 木村喜壬治氏◎ 会報の編集業務 高橋要一氏 ◎ 運動史(第2部)編集 相沢治雄氏 (Heroldo de HEL.N-ro 10)

☆ 2～4年前には老人クラブの様だった札幌エスペラント会も今や盛んな活動を展開するようになった。'85年度の講習会実績は以下のようなものである。

入門教室 13回コース担当者宮岸忠孝氏目下継続中。初級教室 毎週土曜日18時より北海道クリチャンセンター担当者 北畠 瞳氏 (Heroldo de HEL.N-ro 8)

★ 1986年

1月18日 北海道新聞 '86年12月24日道新に北大助教授、島村英紀氏が「世界語」という題で、魚眼図に「エスペラントのような本来の世界語は、どこに行ってしまったのだろう」という文章がでた。それで三沢会長は「エスペラントは生きている。今夏の北京大会に期待。」と言う題で相当、注目にあたいする記事を発表された。英語の発展を一応みとめたるうえでエスペラントの中国における発展、並びに北京に開催される世界大会の意義等に就いて詳細に述べられた。写真入りで大きな記事であったのでエスペラントの宣伝上大いに有益であったと思われる。

1月19日 最初のエス会合で北京大会のための事前特訓が三沢先生から提案され1月25日から実施されることになった。毎週土曜日から大会に出席するまで、15時からクリチャンセンターで。進行係 三沢先生 椿 陽考氏、講師は専任として北畠 瞳氏 非常勤として児玉広夫氏、星田 淳氏

3月22日 札幌エスペラント会 北京大会参加のための事前特別講習会にUEA副会長の梅田善美氏が列席され、参加者に中国の事情説明、注意事項等話された。後18時よりニューフロンティアに於いて歓迎会 連盟副会長、児玉広夫氏、顧問 木村喜壬治氏、高橋要一氏、相沢治雄氏その他全19名出席盛会であった。

5月3日～5日 札幌エスペラント会の北京参加特訓組19名は車で山部に行った。山部は第1回北海道エスペラント大会の開催された地で、北海道エスペラント連盟発祥

の地でもある。この地での特訓は有意義であった。参加者はエスペラントだけで3日間をすごした。参加者 木村喜壬治氏、北畠 瞳女史、新田為男氏(由仁)浜田国貞氏(足寄)切替英男氏(小樽)その他 北京参加組全19名

5月17日～8月30日まで札幌エスペラント会初等講習会主催

5月18日 北海道エスペラント連盟 今年度第1回大会役員会 (ホレンコ)クルスチャンセンターにおいて

第50回北海道エス大会を9月6日～7日 北海道クリチャンセンターにおいて開催する。重点議題だけ決めて大会準備委員会を早急に結成することにした。

出席者吉原、児玉、木村、相沢、高橋、星田、北畠、椿、坂下、宮岸の諸氏

(Heroldo de HEL.N-ro 12)

6月23日 終戦後、浪越氏(故人)の所にしばしば通っていたアメリカのBondlid氏から木村喜壬治氏に宛てて浪越氏の安否問い合わせの手紙が届いた。木村喜壬治氏は返信を送った。浪越氏、Bondlid氏については41～42頁参照のこと。(相沢)

7月5日 第1回 第50回北海道エスペラント大会準備委員会

クリチャンセンターにおいて

吉原準備委員長、児玉氏、木村氏、北畠女史、宮岸氏全13名参加 大会プログラム決定

第1日 9月6日 15: 受付開始 15:00～18:00図書展示即売、E集会写真展、銀河鉄道(ビデオ)鑑賞 18:00 Bankedo 懇親、親睦行事

第2日 9月7日 9:00～10:00 総会議事 10:00～11:00北京大会参加者報告会 11:00 E弁論大会 12:00～13:00 昼食 13:00 公開講演会 講師:三沢教育大学教授(HEL 会長)他一名(外国人を交渉する)15:00 閉会

今後大会まで数回の準備委員会が開催される見込 (相沢)

7月9日 西独からS-roj Günter BECKER, Oliver WALZ と大阪の左久田さん三人来札。北京の世界大会参加を機会に訪日、何処でも見ておこうというので、北海道まで足を

延ばした由。s-ro WALCZは昨年5月にも来札、奥さんは日本人。s-ro BECKER は世界エス青年エス連盟の名誉会長で名刺が緑色で金箔文字で印刷してある。9日夜退道、木村、小林、高橋の3氏が市内案内、北方圏センターでは浜中氏にいろいろ世話になって満足していたようだ。(高橋要一氏記)

各地情勢

札幌 例会は毎週土曜日 参加者平均15人、会員40名

苫小牧 苫小牧市民会館に於いて参加者4人読書と会話、会員6名

小樽エス協会 例会は毎週木曜日山賀眼科で参加者4~5名会員8名

(以上R・O 1986. 5)

★ 1986年以後の展望

この年は北海道エスペラント大会も50回のJubilea Kongresoになる。会場はクリスチャンセンターが予定され、最近は出席しなかった地方会からも多数参加するものと期待される。第50回北海道エスペラント記念大会は着々準備中である。

北京でおこなわれる世界大会には北海道から15名以上の人々が参加を希望している。北京大会は世界エス界に大きな反響を巻き起こすばかりでなく国際的な諸会議にも影響を与えるであろう、と期待される。

最近エスペラントは何処にいったのか?というような記事が新聞またはテレビで時々見られるようになった。有識者の間にエスペラントに関する話題があまり聞かれないので、そんな記事が出るのであろう。然し北京大会が開催後は或いはそんな疑念もけしとんでしまうかもしれない。

また1986年には札幌で第75回日本大会を開催するようにとの申し入れがあるものと予想されている。

エスペラントが国際会議等で普遍的に使用されるのは、21世紀に入ってからであろうと思はれる、がそれまでにエスペラントの指導者を多数育成しておかなければならないと考えられる。その準備のためにもこれからの我々の任務は大きい。(相沢)

「北海道エスペラント運動史」第2部の編集を終へて。

運動史の第1部は昭和49年の11月頃終わった。次すぐに第2部の編集に取りかかったのであるが、古い冊子Leontodoを主に参考にした、ところが年代の分からないものが多く年代を調べるのに大変苦労した。Leontodoは年4回も発行されている年もあり、2年に一度のこともある。ある年に発行されたものでも2年前のことがしるされている場合もある。大抵西暦が記されているのだが、無い場合もある。

大会の出席人数は江口音吉氏の調査したものとR・Oの年度表を参考にした。Leontodoは一冊もなくしなかつたつもりだったが、2~3冊みあたらないものもあり星田 淳氏にお借りした。

由仁町の当時の情勢については児玉広夫氏から情報を戴いた

第50回世界大会の記録もなくしたのでこれも星田 淳氏からかりた。

第1部作成の時大分誤字が多かったので今回は高橋要一氏に校正をお願いした
大阪市の宮本正男氏からも度々おご注意のお紙を頂いた。

ワープロの打ち方も極めて遅く若い人の20分の1位であろう。それに物忘れがひどく同じことを何回も書いたりしてそれを消すのに他の方まで消してしまったり、全く何をしているのか分からない有様である。年代を間違えることがあってはならないと思い随分苦労した。書き間違えがあってはならぬと思い充分注意したつもりである。

同志諸君、先賢諸氏の履歴はできるだけ集めたつもりであるが、わからない人も大分ある。

第2部を発行する等大きなことを言ってこんな有様では申し訳がないと思ったが、分かることを全部書くこともできず、書き損ねたことも多いと思うがお許し願いたい。

せめて北海道エスペラント大会年度表を作成したことで大目にみてもらいたい。

第3部は1986年からであるが、北京大会に出席できそうもないし、これから先は誰か

別な人が書くことになると思う。

なれないワープロで目が疲れ目も悪くなった。新聞や週刊誌なども満足に読めないよ
うな状態である。

「北海道エスペラント運動史」第2部はこれをもって終わりとする。

昭和61年7月15日

相沢治雄

北海道エスペラント大会年度表

旭川 18名
送付
送付3

回数	年	月	日	開催地	開催場所	出席人員	会長	代表幹事
第1回	'32	8.	5~7	山部小学校	大本北海別院	21		中村久雄
第2回	'33	9.	23~24	札幌	鉄道集会所	(30数名)		原田三馬
第3回	'34	9.	23~24	小樽	千代田ビル	47		相沢治雄
第4回	'35	8.	3~4	帯広	十勝公会堂	(60)		"
第5回	'36	8.	9.10	札幌	グランドホテル	27		"
(第24回日本大会と同時)								
	'37	(旭川延期となる)						
第6回	'38	8.	7	旭川	商工奨励館	18		"
第7回	'39	9.	24	札幌	富貴堂ホール	37	名誉会長	"
第8回	'40	10.	27	小樽	北海ホテル	15	木下三四彦	"
第9回	'41	9.	23	札幌	豊平館	27		"
第10回	'42	10.	11	同	札幌幼稚園	16		"
戦争中中止								
第11回	'46	9.	22	札幌	定鉄労働組合	(18)	委員長	相沢治雄
中止	'47	10.	5		(北大中央講堂予定)			"
第12回	'48	11.	3	"	公民館	47	委員長	常任委員 山賀 勇 相沢治雄
第13回	'49	11.	3	札幌	労働会館	49	"	"
第14回	'50	8.	6	小樽	まるいデパート	(23)	"	"
第15回	'51	10.	7	札幌	町村会館	30	"	"

HEL (世VP)
電気衣 (第2部長)
↓ ↓

第16回 '52 10. 13	札幌	市民会館 (旧豊平館)	42	"	"	第35回 '71 8. 7~8	苫小牧	ハイランド・スポーツハウス (合宿所)			
第17回 '53 10. 11	小樽	労働会館	36	"	"			会場 市民会館	85	高橋要一	沢谷雄一
第18回 '54 9. 23	札幌	町村会館	50	"	書記長 相沢治雄	第36回 '72 7. 8~9	札幌	中山峠健民センター・トレーニングハウス			LEONTODO 17-42 (17/2)
第19回 '55 10. 2	小樽	水天宮	24	"	"	第37回 '73 8.18~19	小樽	朝里川温泉	書記長沢谷雄一から清水寛に替わる		
第20回 '56 9. 23	札幌	町村会館	57	委員長 坂下清一	"	第38回 '74 7.27~28	札幌	真駒内青少年センター	高橋病気のため木村喜壬治に替わる	41	
第21回 '57 9.22~23	小樽	産業会館	30	"	"	第39回 '75 6.14~15	函館	市民会館		63	木村喜壬治 清水 寛
第22回 '58 8. 9~10	札幌	産業会館	64	"	"	第40回 '76 7.24~25	札幌	都市会館		40	" 児玉広夫
第23回 '59 8. 23	同	市民会館	67	"	"	第41回 '77 7.23~24	旭川	サンケイ会		27	" "
第24回 '60 8. 21	室蘭	産業会館	64	"	事務局長 相沢治雄	第42回 '78 9.23~24	苫小牧	選手強化合宿 (宿泊所)			" "
第25回 '61 7. 23	札幌	豊平館 (中島公園)	56	"	"	第43回 '79 7.28~29	小樽	朝里川温泉 山水		45	" "
第26回 '62 7.21~22	苫小牧	産業会館	59	山賀 勇	事務局長 高橋達治	第44回 '80 7.19~20	札幌	道庁共済会館		27	" "
第27回 '63 8.3 ~4	小樽	祝津にしん御殿	46	"	"	第45回 '81 7.25~26	札幌	道庁共済会館		45	" "
第28回 '64 6. 6~7	室蘭	労働会館	72	"	"	第46回 '82 8. 7~8	札幌	ホテル・ノースシティ		40	" "
第29回 '65 6. 12 ~13	札幌	道庁職員共済会館	102	"	"				(出席者数はR・O '84.7による。)		
8. 1 ~7	東京	第50回万国エス大会				第47回 '83 9.17~18	札幌	北海道自治会館		(25)	" "
第30回 '66 7. 9~10	札幌	道庁職員共済会館	71	"	"	第48回 '84 9.22~23	札幌	同		(21)	" "
第31回 '67 6. 3~4	小樽	朝里川温泉センター	43	"	"	第49回 '85 9. 7~8	札幌	"		(32)	三沢正博 宮岸忠孝
第32回 '68 5. 26 ~27	札幌	市民会館	31	"	荻部利一				() の出席者数は相沢調		この表の人数と本文の人数は合致しない所がある。
55回日本エスペラント大会	札幌	ホテルアカシヤ		"	星田 淳	第50回 '86 9. 6~7	札幌	北海道クリスチャンセンター			(予定)
第33回 '69 8. 9~10	函館	拓銀ビル	74	"	"						
第34回 '70 8. 8~9	室蘭	洞爺湖 (グランドトーヤ)	42	"	"						

(以上江口氏調べ第2.4.11.14 未完成 Leontodo43号より)

相沢治雄履歴書

本籍 札幌市南2条東4丁目1番地

1911 明治44年12月3日生旭川まれ。

学歴

大正15年 3月札幌市西創成小学校高等科卒業

昭和 5年 3月 札幌市立商工学校電気科卒業 (戦後は高校の資格が与えられたが
当時は資格なしであった。)

々 6年12月札幌市電気局(現交通局)に入局

々 14年 3月一身上の都合により電気局を退職

々 14年 4月定山溪鉄道株式会社に運転士として入社

々 21年 4月 検査掛に任命さる

々 26年 5月 技手助役に任命さる

々 36年 1月 書記藤ノ沢駅長に任命さる

々 37年 5月 運転課輸送係長に任命さる

々 42年 1月 観光課事業係長に任命さる

々 43年 4月 豊平駅長に任命さる

1969 々 44年11月 開発企画室第一課長補佐に任命さる (定録、鉄道廃止)

々 44年12月 定年により定山溪鉄道株式会社を退職す

々 45年 7月 医療用具販売業を開業す

々 46年 9月 医療用具販売業を廃業す

免許 資格

々 31年 1月 甲種電気車運転免許陸運局より交付さる

々 42年12月 日本商工会議所主催計算尺3級合格

々 59年10月 '84年ワープロコンテストより熟年賞授賞さる

エスペラント歴

1920~1921 火星大接近のことあり、火星人に地球人の存在を知らせるためエスペラントを使ったらどうか、と言うことを、本で見てエスに関心をもつ。

1918年 大阪発行のラ・タギージョでエスペラント独習

1931年 札幌エスペラント会に入会

1932年 第1回北海道エスペラント大会出席爾来1974年第59回Hamburgo世界大会出席のため一回欠席しただけで全大会出席した。

1934年 北海道エス連の常任幹事となる。

1936年 第24回日本エスペラント大会準備委員長となり大会を主宰する。

1954年又は

1955年 書記長となる。

1962年 事務局長(書記長)やめる。

1965年 第50回 UK東京大会に参加する

1974年 第59回Hamburgo UKに参加する。

1984年 2月20日妻静子死亡

1984年 11月「北海道エスペラント運動史」第1部完成

1985年 第49回北海道エスペラント大会で北海道エスペラント連盟の顧問に推薦さる。

1986年 7月「北海道エスペラント運動史」第2部完成

1988.8.25 札幌市(札幌)で

9.9 死去

72歳ワープロ挑戦「熟年賞」



札幌市西区発寒の無職相沢治雄さん(72)写真が、参加者の平均年齢二十四・三歳という「ワープロコンテスト北海道大会」に最高齢者として挑戦。「参加することに意義がある」と若い人にまじっての健闘が認められ、「熟年賞」を獲得した。

知人に勧められ、ワープロを始めて六カ月。日本エスペラント学会員の相沢さんはいま、北海道の運動の歴史を打ち続けている。「字がへたなのを気にする人もなく、年

をとりかき返るが、その度に応じる辞書の必要もなくなったし、手書きの必要も

「と早いですよ。また」指の運動にもなり、お年寄り向けの文明の利器です」とワープロを絶賛してあげ。

ひと話ひと

第50回北海道エスペラント大会記念出版

編集者 「北海道エスペラント運動史」第2部
1986年7月15日
相沢治雄
063 札幌市西区発寒11条5丁目11
8-105
発行所 060 札幌市中央区南1条西3丁目
中央オフィス学院内
「北海道エスペラント運動史」刊行委員会発行

55 - 17

063 10 11